

スマホ詰パラ佳作選

まえがき

スマホ詰パラの前身、詰将棋パラダイスマバイルは2008年11月にスタートしました。詰将棋の解答はもちろん、自分で創作した詰将棋の投稿ができるという、斬新かつ魅力的な携帯サイトでした。

私が詰パラモバイルに出会ったのは2010年9月。詰将棋創作に興味を持ちはじめ、作品の発表場所を探していたところ行き着きました。詰パラモバイルの一番の魅力は、誰でも気軽に作品を投稿できることです。作品のレベルに関係なく、完全作であれば必ず採用。これは創作初心者にとっては非常に有り難い制度でした。自作が採用され、コメントが付くと嬉しくなり、私は完全にハマっていました。

そんな詰パラモバイルも、2010年12月には作品数が1000を突破し、着実に拡大していきました。しかしながら、コアな詰将棋マニアにはあまり知れ渡らず、ひっそりと続けてきた印象でした。

激変したのは2012年。スマートフォンの普及により、スマホ詰パラとして生まれ変わるや否や、詰パラ本誌で活躍されている著名作家が次々と参戦しはじめたのです。有力な新人も現れ、作品のレベルが高騰。看寿賞候補に挙がる作品まで登場しました。

現在ではダウンロード数5万、作品数4000を突破し、詰将棋の一大アプリとなりました。スマホ詰パラから本誌に進出する作家も次々と現れ、詰将棋の普及に一役買っています。ここまで成長させた管理人のエモン氏の功績は賞賛に値することでしょう。

しかし、これほどまでに大型化すると、佳作が埋もれてしまうことが心配されます。そこで佳作を選出し、作品集をまとめることにしました。今回は創設から2013年までの発表作の中から100局を厳選。それではご堪能下さい。

武島 広秋

目次

まえがき……………2

本書の表記について……………4

『スマホ詰パラ好作選』

作品の部(第1番～第100番)……………5

解説の部(第1番～第100番)……………57

作者別索引……………194

あとがき……………196

本書の表記について

本書では、問題図において、小駒の成駒を以下のように代用表記しています。

(例) 成銀 → 全

成桂 → 圭

成香 → 杏

また、解説では、手順を以下のように表記しています。

(例) 2 二角成 → 22 角成

3 三銀不成 → 33 銀生

玉方が合駒を打った場合、判別しやすいように合の字を加えています。

(例) 4 一桂 → 41 桂合

『スマホ詰パラ好作選』 作品の部

【第1番】 作者 須藤大輔

								皇	一
					爵	角			二
							帝	王	三
									四
							飛		五
									六
									七
									八
									九

9 8 7 6 5 4 3 2 1

▲持駒 角金

【第2番】 作者 幻想咲花

									一
									二
皇									三
					帝				四
						と			五
							銀		六
					王	将			七
						帝			八
				香					九

9 8 7 6 5 4 3 2 1

▲持駒 飛角二

【第3番】 作者 はじめ

									一	▲持駒 角二
									二	
									三	
									四	
			銀	弓					五	
						歩			六	
		争		王					七	
						龍	驥		八	
			香		歩				九	

【第4番】 作者 kazemidori

									一	▲持駒 飛銀
						皇			二	
				馬					三	
								飛	四	
							王		五	
		馬			桂				六	
									七	
					桂	弓	弓		八	
									九	

【第5番】 作者 kazemidori

										一	▲持駒 金
										二	
										三	
										四	
					馬					五	
							王	歩		六	
					將		糸			七	
				銀			角			八	
						歩	香	香		九	
9	8	7	6	5	4	3	2	1			

【第6番】 作者 黄楊の輝き

									馬	一	▲持駒 飛金銀桂
					角	金	桂	香		二	
							玉			三	
							銀			四	
						歩	銀			五	
										六	
										七	
										八	
										九	
9	8	7	6	5	4	3	2	1			

【第7番】 作者 パスファインダー

								馬	馬	一
			將					金		二
								飛	糸	三
				王	銀	皇				四
				桂	將	糸				五
				糸	糸					六
										七
										八
										九

▲持駒 銀

【第8番】 作者 幻想咲花

										一
								皇		二
			銀	角						三
	龍			マ		マ				四
	皇			王						五
			歩	マ	糸					六
		マ						マ		七
										八
				桂						九

▲持駒 飛角

【第9番】 作者 園城寺怜@咲-Saki-

										一
			守					角		二
										三
			謀					守		四
						群		王		五
								角		六
										七
										八
								飛		九

▲持駒 金二

【第10番】 作者 kazemidori

										一
										二
										三
										四
						群				五
										六
							銀香			七
				銀香	王			歩		八
								弓		九

▲持駒 角金香二

【第 11 番】 作者 阪神タイガース

			皇	王	皇			
	と						と	
			馬	と	馬			

▲持駒 金二銀二桂
一
二
三
四
五
六
七
八
九

【第 12 番】 作者 木村隆

							銀	
							飛	
				王	王			
				馬	桂			
					桂	馬		
				馬	歩			

▲持駒 桂二香
一
二
三
四
五
六
七
八
九

【第13番】 作者 幻想咲花

									一
									二
									三
				龍					四
						驥	驥		五
		馬	笛						六
		爭							七
				桂	王	爭	銀		八
			弓						九

▲持駒 金二桂

【第14番】 作者 divD

									一
			爭						二
					皇				三
		驥	爭	驥	驥				四
			驥	王		金			五
					驥				六
			馬	歩					七
									八
									九

▲持駒 飛二角桂

【第15番】 作者 かんかんのう

									一	▲持駒
									二	角
	驥								三	
									四	
争									五	
	王	角							六	
		歩							七	
	金								八	
香	銀								九	

【第16番】 作者 osumo3

			皇						一	▲持駒
									二	金銀
					角	王			三	
				桂		角			四	
				争		歩			五	
			争						六	
									七	
									八	
									九	

【第17番】 作者 下谷曲希

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				將					▲持駒
						馬			金銀
					皇	王			
		角	香						
							歩		
					桂				

【第18番】 作者 //キング//

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇	銀	▲持駒
							と		なし
				銀					
				銀		王			
					飛		糸		
				馬					
							馬		

【第19番】 作者 kazemidori

										一	▲持駒なし
				飛						二	
						馬				三	
										四	
				角						五	
								歩		六	
								金		七	
								香	銀	八	
				龍		香	王			九	
9	8	7	6	5	4	3	2	1			

【第20番】 作者 EOG

										一	▲持駒 金銀三
						驥	と	争		二	
							王			三	
					争					四	
										五	
								馬		六	
										七	
										八	
										九	
9	8	7	6	5	4	3	2	1			

【第 21 番】 作者 kazemidori

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								飛
				香	馬	角	王	
					歩		弓	
						飛		

▲持駒 金銀二

【第 22 番】 作者 市原誠

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					と		王	皇
						皇	皇	皇
					馬			
								歩
					龍			

▲持駒 金桂

【第23番】 作者 //キング//

				争		と	飛	馬	一	▲持駒 金
				争	争		飛		二	
					王				三	
				歩			と		四	
									五	
									六	
									七	
									八	
									九	

【第24番】 作者 あひるのむこう

						王		皇	一	▲持駒 香
				争				皇	二	
				飛	角		掛		三	
									四	
					飛		歩	歩	五	
									六	
									七	
									八	
									九	

【第25番】 作者 天の川

								料	皇	一
				手	手			王		二
				銀				手		三
										四
						手	桂			五
										六
										七
										八
										九

▲持駒 角金銀桂

【第26番】 作者 黄色

								王		一
			銀					香		二
					手			手	手	三
						手	角			四
							歩			五
										六
										七
										八
										九

▲持駒 角金桂二香

【第27番】 作者 パパス

				馬	皇	群			
				と					
			角		王	銀			
			爵	驥		マ			
							香		
					手				

9 8 7 6 5 4 3 2 1

一
二
三
四
五
六
七
八
九

▲持駒 金桂香

【第28番】 作者 がもうの

			皇		群				と
						爵	笛		
				銀	王	爵		歩	
				歩		マ			
				金			龍		

9 8 7 6 5 4 3 2 1

一
二
三
四
五
六
七
八
九

▲持駒 飛角銀桂

【第29番】 作者 かんかんのう

9	8	7	6	5	4	3	2	1								王	皇	一	▲持駒 角
																		二	
														と				三	
																	帝	四	
													馬	飛				五	
																		六	
																		七	
																		八	
																		九	

【第30番】 作者 kazemidori

9	8	7	6	5	4	3	2	1											▲持駒 飛角金二
																		二	
															と			三	
																	王	四	
																		五	
														群	歩			六	
																		七	
																		八	
																		九	

【第31番】 作者 EOG

						角	王		
					金			銀	
							香		

▲持駒 金香二
一
二
三
四
五
六
七
八
九

【第32番】 作者 らうーる

				將		馬			
		笛		王					
	飛								
		謀		金					

▲持駒 金
一
二
三
四
五
六
七
八
九

【第33番】 作者 serisiu

										一
									將	二
										三
					角	琴		王		四
						弓	紐	角		五
								飛		六
										七
										八
										九

【第34番】 作者 がもうの

										一
										二
										三
										四
					琴		琴			五
			龍				銀	琴		六
							弓	王		七
										八
				馬		馬				九

【第35番】 作者 パスファインダー

						馬				一	▲持駒なし
					馬	歩	王			二	
							歩	歩		三	
								歩		四	
								香		五	
										六	
								飛		七	
										八	
		角				飛				九	
9	8	7	6	5	4	3	2	1			

【第36番】 作者 ちしやな

								桂	金	一	▲持駒 飛角金
						角				二	
				と		王				三	
						歩	歩	歩	歩	四	
					歩					五	
										六	
										七	
										八	
										九	
9	8	7	6	5	4	3	2	1			

【第37番】 作者 serisiu

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
									角
						銀	銀		
				銀	歩	歩	歩		
				皇		王	王		
						龍	歩		
						角			
						香			

【第38番】 作者 もラン

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬				皇	▲持駒
						金			金
				と				王	銀
					歩	歩			桂
							歩	飛	
					皇				

【第 39 番】 作者 天ヶ瀬朔也

							馬	香	龍	▲持駒 金桂二 龍一
								王		
				銀	香	香				
				香				龍		
					香					

【第 40 番】 作者 鰻屋

			王	王					▲持駒 銀桂步
						角			
			香	桂					
						香			

【第 41 番】 作者 天の川

									▲持駒 角桂香
9	8	7	6	5	4	3	2	1	一
									二
								馬	三
									四
			弓			王	香		五
									六
						香			七
				龍		弓			八
									九

【第 42 番】 作者 幻想咲花

									▲持駒 角
9	8	7	6	5	4	3	2	1	一
								皇	二
					香				三
				龍	香			香	四
					金	香		王	五
									六
							桂		七
									八
									九

【第 43 番】 作者 EOG

								王		一
								王	歩	二
				王						三
				飛		歩				四
							王	桂		五
				角		王				六
										七
										八
										九

▲持駒 飛桂

【第 44 番】 作者 osumo3

								龍	王	桂	一
								と		王	二
											三
								王			四
									桂		五
									王	王	六
											七
											八
											九

▲持駒 角桂歩二

【第45番】 作者 serisiu

					将		王	
						将		歩
				将			将	将
			将	桂		皇		

▲持駒 角二金銀桂三

【第46番】 作者 パスファインダー

					皇			
			銀	皇	皇	銀	皇	
		角		将	将	金	角	
		金	飛			金	将	
		継	将	銀	王			

▲持駒 なし

【第47番】 作者 ブルータス

								王	一
					手				二
								手	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

▲持駒 飛角二銀桂

【第48番】 作者 パリテイビット

					手			王	一
				手	手				二
									三
						龍			四
								手	五
									六
									七
									八
									九

▲持駒 角銀

【第 49 番】 作者 osumo3

						飛		飛	一
				馬			王		二
					銀		皇		三
									四
						歩			五
								香	六
									七
									八
									九

▲持駒 飛桂二歩

【第 50 番】 作者 serisiu

						飛			一
					銀			王	二
					笛	飛		飛	三
								笛	四
							銀		五
									六
									七
									八
									九

▲持駒 金銀桂三

【第51番】 作者 パスファインダー

									▲持駒 金二銀一
									一
									二
									三
					金	金			四
								銀	五
						銀		銀	六
									七
						銀		王	八
					飛		桂		九
9	8	7	6	5	4	3	2	1	

【第52番】 作者 世阿弥

					銀		王	金	▲持駒 角二銀
						銀			一
					銀				二
						歩	桂	飛	三
						香	?		四
									五
									六
									七
									八
									九
9	8	7	6	5	4	3	2	1	

【第53番】 作者 鰻屋

9	8	7	6	5	4	3	2	1	▲持駒 飛銀桂
					銀		桂	一	
								二	
				等	王			三	
				等		飛	馬	四	
							香	五	
				歩		留		六	
								七	
								八	
								九	

【第54番】 作者 EOG

9	8	7	6	5	4	3	2	1	▲持駒 銀香三
								一	
								二	
					銀	と	歩	三	
					銀	桂	王	四	
								五	
				馬	金			六	
					弓	弓		七	
						銀		八	
								九	

【第55番】 作者 烏丸 ♪

			龍	王	王	王		
					銀		皇	
			馬	王		王		
				王	王			
			歩	龍				
					桂		歩	

▲持駒 角金銀

【第56番】 作者 幻想咲花

						皇		と
								銀
						飛		王
							王	王
				馬	と	皇		
						歩	王	
					子			銀
					桂			香
					桂			

▲持駒 角桂

【第57番】 作者 アキラ

							馬	王	
							馬	香	
					香				

▲持駒 銀歩

【第58番】 作者 EOG

								香	
									王
						香			
							香	香	角
								香	

▲持駒 角歩

【第 59 番】 作者 osumo3

								将	一
								王	二
				角				将	三
								将	四
							角		五
									六
									七
									八
									九

▲持駒 金三桂

【第 60 番】 作者 世阿弥

				皇			皇	一
				角	将		王	二
				飛		将		三
							将	四
						馬		五
								六
								七
								八
								九

▲持駒 銀桂二

【第61番】 作者 パパス

										▲持駒 金二歩
						と				一
					馬	飛				二
							王	馬		三
										四
						馬	桂	馬		五
							マ			六
										七
										八
										九

【第62番】 作者 高木泰誠

										▲持駒 銀桂
						馬	馬		皇	一
						馬				二
				馬		王	馬			三
										四
								銀	桂	五
							桂	馬		六
										七
										八
										九

【第 63 番】 作者 divD

						金			
		馬		皇			飛		
		飛	步		王		糸		
			銀	爵		香	弓		

▲持駒 角
一
二
三
四
五
六
七
八
九

【第 64 番】 作者 tan(y)

							角	王	
					銀	皇	糸	爵	
					步			糸	

▲持駒 飛金三桂二
一
二
三
四
五
六
七
八
九

【第65番】 作者 town

									と
				手	手	手	手		
		と				王			
	龍			驥					

▲持駒 金四桂四

【第66番】 作者 mashee99

								手	皇
				飛		手	王		
				歩	手	手	手	歩	
						手		手	

▲持駒 飛角二銀桂二

【第67番】 作者 天の川

9 8 7 6 5 4 3 2 1

▲持駒 金歩
一
二
三
四
五
六
七
八
九

【第68番】 作者 爪将棋

9 8 7 6 5 4 3 2 1

▲持駒 桂二
一
二
三
四
五
六
七
八
九

【第69番】 作者 serisiu

						將			一
			角			皇		王	二
						龍	帝		三
				馬					四
						將	將		五
									六
									七
									八
									九

▲持駒 銀桂三香二

【第70番】 作者 下谷曲希

								王	一
							飛		二
			角		群				三
					歩				四
							金		五
						金	香	金	六
									七
									八
									九

▲持駒 角桂三

【第71番】 作者 かんかんのう

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩	歩	王	▲持駒
				歩				歩	金四
									銀四
							桂		

【第72番】 作者 munetoki

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀	銀				▲持駒
							歩	王	飛
			馬						
					飛			桂	
						角			
						角			

【第73番】 作者 serisiu

										▲持駒
						と				▲角
						馬		皇		▲銀
							爵	王		▲桂
						歩				▲三
					飛					

【第74番】 作者 munetoki

										▲持駒
									皇	▲銀
			飛			桂	王			▲桂
							爵			▲歩
						手	爵			
				桂						
					角					

【第75番】 作者 munetoki

9	8	7	6	5	4	3	2	1
							王	王
					銀			
						銀		王
			龍	馬		銀		王

▲持駒 桂三歩

【第76番】 作者 天の川

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				角	角		王	
						王	王	王
				王				歩

▲持駒 飛銀桂三歩

【第77番】 作者 もラン

									一
					群				二
			角	王		桂	皇		三
			帝	帝	帝	帝	帝		四
									五
									六
									七
									八
									九

▲持駒 金銀三

【第78番】 作者 幻想咲花

									一
					群				二
					帝				三
			進			飛	角		四
						と			五
				王					六
					歩	銀			七
		馬	香	帝					八
									九

▲持駒 銀二歩

【第79番】 作者 やきのり

								王	▲持駒金
								持	
				皇		皇	持		
			皇	争	馬				
					龍	争	桂		
					馬	桂			

【第80番】 作者 やきのり

					馬			皇	▲持駒なし
				と	争		持	王	
				争		飛			
					飛				
							争		
					角				

【第81番】 作者 木村隆

								王	▲持駒 香
									一
							と		二
					銀	銀		王	三
				香					四
						笛	角		五
				弓					六
				龍	龍				七
									八
									九

【第82番】 作者 世阿弥

								飛	▲持駒 銀桂
	王	香				馬			一
歩	香								二
	角	歩		馬	桂				三
飛	弓	香							四
									五
									六
									七
									八
									九

【第83番】 作者 やきのり

							皇	王	皇	一
										二
									皇	三
								角		四
								桂	角	五
										六
										七
										八
										九

▲持駒 桂二香

【第84番】 作者 osumo3

							皇			一
								王		二
								爵	爵	三
							王		飛	四
										五
										六
										七
										八
										九

▲持駒 飛角金三銀二

【第85番】 作者 かんかんのう

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
							王	香	▲持駒	金四桂
									一	
									二	
									三	
									四	
									五	
									六	
						銀			七	
						龍			八	
						香		王	九	

【第86番】 作者 大橋宗角

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
					銀		香	角	▲持駒	香歩
									一	
						香		桂	二	
					飛	角	王	香	三	
						香			四	
									五	
									六	
									七	
									八	
									九	

【第 87 番】 作者 munetoki

					銀		皇	
					桂			王
			馬		馬			桂
						香		

▲持駒 金三銀二香歩

【第 88 番】 作者 木村隆

	飛	銀				銀	桂	王
金							歩	
						香		
			角					

▲持駒 飛角歩

【第 89 番】 作者 divD

										▲持駒 香
										一
										二
										三
				飛			皇	香		四
							角	銀		五
				香	飛			香		六
		角		香		金		王		七
								弓		八
				香		步		香		九
9	8	7	6	5	4	3	2	1		

【第 90 番】 作者 佐口盛人

										▲持駒 角
				王			香	香		一
				香			香			二
							飛			三
				步		金	步	金		四
					桂	香	香			五
										六
										七
										八
										九
9	8	7	6	5	4	3	2	1		

【第91番】 作者 園城寺怜@咲-Saki-

					王	王	王	王	一
			飛	角		と	爵	皇	二
		馬	王		王			系	三
				爵					四
						桂			五
									六
							桂		七
									八
									九

▲持駒 金

【第92番】 作者 鰻屋

					皇	系	系	系	一
王				角				王	二
				と					三
							と		四
							皇		五
							歩		六
飛									七
									八
飛									九

▲持駒 歩

【第93番】 作者 Redfive

									王	一
										二
		歩							歩	三
		歩							歩	四
								桂	歩	五
			歩		歩				銀	六
	歩	飛					皇	香		七
		角	角							八
										九

▲持駒 飛

【第94番】 作者 園城寺怜@咲-Saki-

			歩				歩	皇		一
							歩	王		二
	歩			馬		歩	歩			三
								歩		四
										五
					歩					六
	桂									七
										八
										九

▲持駒 飛 二金 三銀 桂

【第95番】 作者 かんかんのう

9	8	7	6	5	4	3	2	1
馬				馬				
	角		王	馬		と		
								と
								角

▲持駒 金香歩九

【第96番】 作者 リヴァロ

9	8	7	6	5	4	3	2	1
銀	馬							王
桂	飛							馬
			王					
角								
			桂		桂	桂	王	
		金			馬	銀		馬

▲持駒 角桂香二

【第97番】 作者 パスファインダー

							銀		
									香
	銀		飛	桂	香	桂	銀		
				香			香		
		飛	銀	金		金			
王		角		金					
桂			金						
		桂							
角									

▲持駒なし

【第98番】 作者 木村隆

									桂
	飛		金		王				
					桂				
			歩						
	歩	歩				角			
歩			桂			桂			
				歩	王	飛			
									香

▲持駒金

【第99番】 作者 リヴァロ

									9	8	7	6	5	4	3	2	1
	皇			皇					一	二	三	四	五	六	七	八	九
									二	三	四	五	六	七	八	九	
龍	金	銀				香			三	四	五	六	七	八	九		
			と	と	と	と	と	金	四	五	六	七	八	九			
争			歩					歩	五	六	七	八	九				
	争	王				争	争		六	七	八	九					
		争	争	金	争				七	八	九						
銀		了			驥		桂	桂	八	九							
香								香	九								

▲持駒 角桂歩五

【第100番】 作者 osumo3

									9	8	7	6	5	4	3	2	1
									一	二	三	四	五	六	七	八	九
									二	三	四	五	六	七	八	九	
						皇	皇	争	争	三	四	五	六	七	八	九	
							王			四	五	六	七	八	九		
		皇		と	歩				五	六	七	八	九				
争	争	争	争	争	争	争	飛	歩	六	七	八	九					
飛			銀		香		歩	角	七	八	九						

▲持駒 銀

『スマホ詰パラ好作選』 解説の部

第1番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							▲		一 持駒
					香	角			二 角
							王	王	三 金
									四
							飛		五
									六
									七
									八
									九

須藤大輔 作 No.2175『一路ずらす』

22 角、同香、24 金、同歩、15 飛迄 5 手。

トップバッターは「Try everyday!」でお馴染みの作者。スマホ詰パラでも主に 5 手以下の初級向け作品を中心に発表されている。

22 からの脱出が気になる形。こういう場合、わざと逃げ道に駒を捨てる手筋がある。初手 22 角がそれだ。同玉が 23 飛成以下駒余りなので同香。これで 22 の封鎖に成功。

次に 24 金が好手。同歩と吊り上げることで角が 14 まで利いてくる。

最後にじっと飛を寄って詰み。この詰上りが見えないと 24 金は指しにくいだろう。

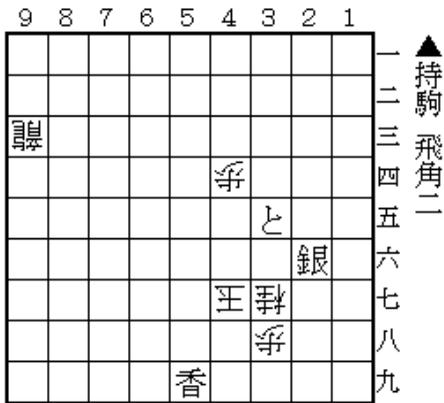
短手数ながらちょっとだけ考えさせるところが作者の持ち味といえる。

【解答者コメント】

「退路封鎖してからの 24 金が盲点だった！ 上手い！」

「上ずらせて隙を作る手順が渋いですね。」

第2番



幻想咲花 作 No.2342『限定打×3』

92 角、①83 金合、46 飛、同玉、73 角、同金、56 角成迄 7 手。

①48 玉は 58 飛、39 玉、38 角成迄。

初手 65 角などでは 48 玉と逃げられて全然詰まない。46 飛は筋だが、同玉と取られ、73 角と打ちたいが、93 龍の守備が強力だ。

そこで初手 92 角の遠打が現れる。同龍は 46 飛～73 角で簡単なので、この 73 角を取るために金合が最善。

それでも 46 飛～73 角とするのが好手順で、同金に 56 角成までの詰みとなる。

守備駒が利いている所への限定打二発に限定合と、7 手という短手数でやりたいことをやり尽くしている印象。繋ぎの 3 手目が捨駒になっている点も感心した。配置にも全く無駄がなく、センス溢れる佳作。

【解答者コメント】

「シンプルな表現が良いね！」

「限定の意味もわからないのに更に合い駒、更に取れない、嗚呼」

第3番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
									二角
									三二
									四
			銀	王					五角
						歩			六角
		香		王					七
						龍	驥		八角
			香	歩					九

はじめ 作 No.1356『両翼が羽ばたく』

①93 角、①46 玉、13 角、同龍、57 角成、同玉、48 龍迄 7 手。

①66 合は 68 角、67 玉、13 角成迄。

①75 角は 46 玉、13 角、同龍、57 角、45 玉で不詰。

初形から 18 龍がなければ 48 龍迄の詰みがある。そこで初手 13 角が見えるが、同龍とは取ってくれず 46 歩合で逃れ。また、79 角は 68 歩合、同角、66 玉で詰まない。

正解は 93 角とこちらから打つ。66 合は 68 角、67 玉、13 角成(限定移動)迄の好変化が用意されている。よって 46 玉と逃げるが、ここで 13 角を実行。今度は合駒は利かないので同龍と取るしかなく、57 角成と捨てて玉を元の位置に戻してやれば、48 龍迄の詰み。5 手目は成らないと 45 玉で詰まないなので、初手は限定打となっている。

両翼からの遠角をシンプルに描いた佳作。

【解答者コメント】

「普通に小学校入選しそうですけど…。」

「遠見の角二連打。」

第4番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						▲			一 ▲持駒
									二 飛
			馬						三 銀
							飛		四
						王			五
		馬		桂					六
									七
				桂	王	王			八
									九

kazemidori 作 No.1943『と金布団へのダイブ阻止』

58馬、26玉、①35銀、同香、25馬、同玉、24飛打迄7手。

①16飛打は37玉、26銀、27玉、17飛、26玉以下不詰。

14飛が浮いているのが気になる初形だが、初手24飛打は35玉、36銀、46玉で逃れ。15飛打も26玉で詰まない。ここは58馬と離れた馬を活用する。対して36合は24飛打、35玉、36馬迄なので26玉。

ここで35銀が絶妙の焦点打。同玉や同角は36馬、37玉は47飛でそれぞれ詰み。

同香が最善だが、25馬のダイブで気持ちの良い決め手。同玉で初形から35が封鎖された形となり、24飛打迄の詰み。

かつて専門誌で7手詰旋風を巻き起こした作者。本作も鮮やかな空中戦が表現されている。

【解答者コメント】

「これは難問でした。3手目がなかなか発見できずに手間取りました。綺麗な焦点の捨駒でした。次の25馬には驚きました。詰パラ入選級だと思いましたが、駒配置が気にいらなかったのでしょうか。」

「焦点の銀捨てが決まった」

第5番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
									二
									三
									四
					馬				五
							王	歩	六
					爵		争		七
				銀			角		八
						歩	香	香	九

kazemidori 作 No.1920『足を伸ばしてセービング』

17 角、37 玉、38 歩、①同銀生、26 角、同玉、36 金迄 7 手。

①同玉は 27 馬、48 玉、49 金迄同手数駒余り。

初手は 17 角と出るくらいしかないところ。37 玉に 27 馬は 46 玉、45 金、56 玉で失敗。ここは「スッ」と 38 歩と突き出すのが絶妙の一手。同玉は 27 馬以下駒余りなので銀で取るが、同銀成は 47 金迄なので生に限定されている。

これで 36 への銀の利きが逸れたので、26 角と捨てて玉を元の位置に戻せば、金打までの詰みとなる。

焦点への突歩に銀生限定の応酬が味わい深い作品。

【解答者コメント】

「歩突きナイス」

「突き歩の感触が素晴らしい。星 4 つ。」

第6番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								馬	▲持駒
					馬	香	桂	馬	二
							王		三
							香		四
					香	銀			五
									六
									七
									八
									九

黄楊の輝き 作 No.2441『馬が埋まってる』

④34金、①同桂、15桂、同銀、13飛、同玉、14銀打迄7手。

①13玉は14銀、同桂、24銀、同角、25桂迄同手数駒余り。

④14桂は同銀、34金、13玉で不詰。

④34銀は同桂、15桂、同銀、13飛、同香で不詰。

初手から15桂や34銀などそれらしい筋が色々見える中、正解はいきなり金を手放す34金。13玉には14銀、同桂、24銀、同角、25桂迄駒余りの変化を用意している。

同桂には15桂が筋。初手から先に15桂でも良さそうだが、同銀、34金、13玉で詰まないの、手順前後は利かない。

同香は14銀迄なので同銀に、13飛が絶妙の決め手。同玉は14銀打、同香は12銀でそれぞれ詰みとなる。

初手34銀は作意同様に進み、13飛に同香で詰まない。12に打つために銀を残しておく必要があったわけだ。しかし初手34銀では13玉でも作意より早く詰む順がなく(長手数の詰みはある)、先に金を捨てる意味がダブっているような感じなのは残念。とはいえ、焦点に連続で打ち捨てる感触は良く、初級向け作品として佳作だと思う。

詰パラ本誌にも進出を果たした作者だが、スマホ詰パラでは7手詰を中心に初級向けの好作を多く発表されている。

【解答者コメント】

「飛車捨て気持ちいいね！」
 「ぜひ実戦で指してみたい13飛。」

第7番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							馬	馬	一 ▲持駒
				香			金		二
							飛	香	三 銀
					王	銀	皇		四
					桂	香	香		五
					香	香			六
									七
									八
									九

パスファインダー 作 No.1176『馬に蹴られたかのように』

53 飛成、同銀、31 金、34 玉、43 銀、45 玉、12 馬左迄7手。

金を動かしての開き王手が見える形。32 金は21 馬の利きが遮断されるので論外として、12 金か31 金か。取り敢えず保留して進めよう。

34 玉には43 銀しかなさそうだが、45 玉でどうも手が続かない。しかしこの局面、23 飛がなければ12 馬左で詰んでいるのだ。

そこで初手に戻って、53 飛成と事前に邪魔な飛を消去しておくのが伏線であった。そして金の移動場所は12 だと後で邪魔になるので、31 のソッポ行きが妙手となる。

二枚馬によるアクロバットな詰上りに導くため手段が絶妙な作品。

【解答者コメント】

「31 金が絶妙。」

「三手目の金が予想外で、五手目では持ち駒の銀が目に入らず、悩みました。」

第8番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲ 持駒
						皇			二 飛駒
			銀	角					三 飛角
	龍			玉	玉				四
	皇			玉					五
			歩	玉	香				六
		玉					玉		七
									八
				桂					九

幻想咲花 作 No.3165『壁作り』

Ⓐ33 角、①同香、35 飛、同と、44 角成、同と、75 龍迄7手。

①同とは 54 銀成、45 玉、35 飛迄。

①45 玉は 54 龍、36 玉、34 龍。

Ⓐ22 角は 45 玉、54 龍、36 玉で不詰。

Ⓐ35 飛は同と、33 角、45 玉で不詰。

45 からの逃げ道が開いており、脱出には注意が必要だ。

まず焦点に 33 角の限定打が強烈な一発。同とは 54 銀成、45 玉、35 飛迄。45 玉も 54 龍、36 玉、34 龍で早詰。角を 22 以遠に打つこの順が詰まない。

同香には更に 35 飛のパンチが飛び出す。初手で先に 35 飛は同と、

33 角、45 玉で詰まないで、手順前後は利かない。

こうして 33・35 に壁を作り、44 角成が鋭い決め手。同玉は 54 龍で駒余りなので同様に 75 龍迄。

初形は大模様だが、大駒三連続捨ては圧巻の迫力である。

【解答者コメント】

「と金の位置がシュールだけど難しかった」

「変化に備え香筋を閉鎖する絶妙の初手！」

第 9 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			香				角		▲持駒
									金二
			龍				香		
						王	王		
							角		
							飛		

園城寺怜@咲-Saki- 作 No.3271『面舵いっぱい』

25 金、同歩、49 角、24 玉、13 飛成、34 玉、67 角、同龍、44 金迄 9 手。

初手から開き王手をしたいところだが、まずは 25 金捨ての事前工作が肝要。

同歩と取らせて 25 の地点を封鎖してから、49 角が狙いの最遠移動。27 角や 38 角では 26 玉で詰まないが、49 まで引いておけば 16 飛、37 玉、38 金で捕まるというわけだ。

そこで24玉と下に逃げるが、13飛成と追い、67角捨てが決め手。
16～49～67と大きく転回する角の動きが実にダイナミックである。

【解答者コメント】

「角の転進か…ヨーソロ」

「角をずんと引くのね」

第10番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲持駒
									二 角
									三 金
									四 香
					王				五
									六
						銀	香		七
				銀	香	王		歩	八
								王	九

kazemidori 作 No.2102 『取られない銀』

83角、①27玉、29香、同と、38角成、同玉、39香、同玉、
49金迄9手。

①37玉は39香、27玉、17金、28玉、38角成迄。

初手39香は同玉、49金、29玉、83角、18玉で捕まらない。まずは
83角と遠くに据える(92角も可)。37玉は39香以下早詰なので27玉。

ここで29香が退路を封鎖する好手。同とに38角成と捨てて玉を元の
位置に戻してやれば、29の地点が封鎖されたことにより、39香、同
玉(同とは28金迄)、49金迄の詰みが成立する。

第4番や第5番同様、6手かけて守備駒を1つ移動させるのが作者得意のリズム。打った角を後で大きく捨てる手順が気持ち良い作品。

【解答者コメント】

「29香からの38角成に痺れました。流石です。」
 「香絶妙二打。」

第11番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			▲	▲	▲				一 ▲持駒
	と						と		二
			▲	と	▲				三 金
									四 二銀
									五 二桂
									六
									七
									八
									九

阪神タイガース 作 No.2604『香角のポジション変更』

52銀、同角左、42銀、同香、41金、同角、43桂、同香、
 42金迄9手。

左右対称の美しい初形。

初手42銀は同香、52銀、同角右で詰まない。そこで先に52銀が急所。同角右なら62銀、同角左なら42銀と、相手の態度によってどちらから打つか決めようというわけだ。

42銀、同香に41金が好手。同玉は32金以下駒余りなので同銀に、43桂捨てでスペースを空けて42金迄。

初形と8手目の局面を見比べると、41香と43角の位置が入れ替

わっている。まるで手品を見ているかのようだ。これを左右両側で行えば傑作になりそうだが、どなたか作って下さいな。

【解答者コメント】

「手品のような入れ換え」

「狭い中で駒が入り乱れるのが面白かったです。」

第12番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
							銀		二
								飛	三
					玉		王		四
					香	桂			五
							桂	馬	六
					馬		歩		七
									八
									九

木村隆 作 No.1999 『馬に懐かれました』

25 香、同馬、36 桂、①同馬、25 馬、同馬、16 桂、同馬、14 飛成迄 9 手。

①同飛は 25 馬、同玉、14 飛成、35 玉、24 角迄同手数駒余り。

初手 36 桂が目につくが、同飛、14 飛成、35 玉で上部に脱出されてしまい失敗。ここは一旦 25 香捨てで馬を呼んでから 36 桂が巧妙な手順。今度は同飛には 25 馬、同玉、14 飛成、35 玉、24 角迄駒余りの詰みがある。

そこで同馬だが、25 馬が継続の好手。要するに 16 馬が邪魔駒だっ

たわいで、2手目の局面から馬を原型消去したことになる。

これにより16桂捨てが実現し、受方馬を14への利きのラインから逸らすことに成功したので14飛成迄の詰み。

受方の応手がオール同馬であり、馬を翻弄するリズム感が楽しい作品。

【解答者コメント】

「ひええ、フシギ手順、すごいなあ。」

「この手数でこの充実感！ありがとうございました。」

第13番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
									二 金二桂
									三
				龍					四
						驥	驥		五
		馬	玉						六
		手							七
				桂	王	手	銀		八
			手						九

幻想咲花 作 No.2526 『不安の残る金渡し』

49金、47玉、59桂、同と、48金、同馬、65馬、同龍、46金迄9手。

初手66馬(そんなはずはないが)は69玉と潜られて失敗。ここは49金が筋で、同玉に66桂の変化を見ている。

ところが47玉と躲されると簡単なようで意外と簡単にはいかない。

65馬は筋だが、同馬、48金打、36玉で続かない。

困ったようだが、59 桂～48 金が絶妙な手順。初手で打った金を突き出す感触が実に味わい深い。同玉は初形から 59 の退路が塞がった形となり、66 馬以下駒余りの詰み。

そこで同馬と取るよりないが、65 馬捨てが決め手で、最後まで緩みなく決まる。

【解答者コメント】

「序の 5 手が難解でいいですね」
 「変化の 66 馬が全然見えなかった。」

第 14 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲持駒
			受						二 飛
					皇				三 二角
		掛	争		掛	爵			四 桂
			掛	王		金			五
					爵				六
			馬	歩					七
									八
									九

divD 作 No.2568『これが大駒です』

53 飛、同金、54 飛、①同金、66 角、同桂、56 馬、同桂、67 桂迄 9 手。

①同玉は 45 角、55 玉、56 歩、同桂、同馬迄同手数駒余り。

曲詰を予想させる初形だが、手順に狙いを持った作品である。まず 53 飛、同金、54 飛、同金と背後からの連続攻撃で脱出路を封

鎖。54 飛に対し、同玉は 45 角、55 玉、56 歩、同桂、同馬で駒余りなので同金。

66 角、同桂と上部を固め、邪魔駒と化した馬を消去。大駒 4 枚捨てて桂吊るしの詰上りが実現する。

作者は大駒連続捨てを得意としており、特に 4 枚捨てる作品は「これが大駒です」というタイトルでシリーズ化されている。本作は其中でも 9 手で、しかも不動玉で実現させた意欲作である。

【解答者コメント】

「4 連続で大駒捨てるとか素晴らしい」

「はじめの一步のインファイトを感じました」

第 15 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲ 持駒
									二 駒
	驥								三 角
									四
馬									五
	王	角							六
		歩							七
	金								八
香	桂								九

かんかんのう 作 No.2150 『竜との駆け引き 11 手詰』

97 角、96 玉、①53 角成、99 飛成、63 馬、86 玉、64 馬、96 玉、74 馬、同龍、87 金迄 11 手。

②42 角成は 99 飛成、52 馬、86 玉、53 馬、同龍で不詰。

75 玉と逃げられてはどうしようもないので初手 97 角は絶対で、96 玉で開き王手の形。53 以遠なら一見どこでも良さそうだが、53 角成は限定移動である。99 飛成と根元の香を抜くが、ここからミニ馬鋸が始まる。

まず 63 馬。同龍は 87 金迄なので 86 玉と粘るが、64 馬と接近。この時、3 手目 42 角成では 53 馬、同龍で逃れるので、53 角成が限定移動であることがわかる。

96 玉に 74 馬と更に接近し、遂に同龍と取るしかなく、87 金迄の詰み。

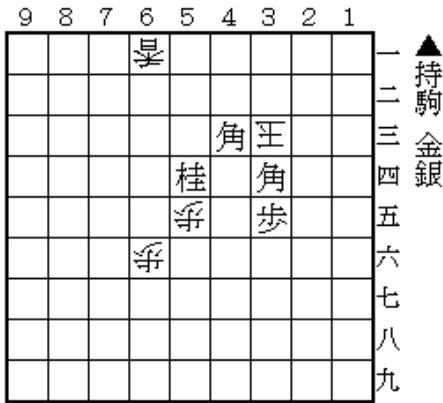
解いて楽しい作品であり、ちょっとしたセンスを感じる好短編。

【解答者コメント】

「まさかこの初形からミニ鋸とは、びっくりしました。」

「馬鋸作。馬鋸...人類最初に気付き作った人は誰だろうか。」

第 16 番



osumo3 作 No.2230 『下から追いかけて大丈夫か』

Ⓐ32 角成、44 玉、45 銀、53 玉、52 角成、①同玉、41 馬、53 玉、63 金、同香、42 馬迄 11 手。

④64 玉は 74 金、65 玉、42 桂成迄。

②22 銀は 44 玉、45 金、53 玉、52 角成、64 玉で不詰。

④42 銀は 24 玉、25 金、13 玉、23 角成、同玉、34 角成、22 玉、33 銀成、11 玉で不詰。

②23 角成は 43 玉で不詰。

初手から紛れが豊富。22 銀は 44 玉、45 金、53 玉以下、42 銀は 24 玉、25 金、13 玉以下、23 角成は 43 玉以下それぞれ逃れ(紛れ④)。

ここは重複感のある 2 枚角を捌く 32 角成が筋。取れば簡単なので 44 玉に、45 銀と足場を作る。

53 玉で左辺がガラ空きだが、52 角成のダイブが脱出を許さず下段に落とす好手。64 玉は 74 金、65 玉、42 桂成でピッタリ捕まっている。

更に 41 馬が継続の好手で、これで脱出は完全に不可能。同玉は頭金なので 53 玉に、63 金捨てが決め手で同香、42 馬迄。

全体的に宙ぶらりん感があり、詰まし難い作品だと思う。

【解答者コメント】

「角を取られるのにはやはり抵抗がある」

「変化も凄い。。この作者は上手い。(原文ママ)」

第17番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
				香					二
						馬			三 金
									四 銀
					王				五
		角	香						六
									七
							歩		八
					桂				九

下谷曲希 作 No.3238 『2つの香の存在感』

24 銀、①36 玉、58 角、㊸47 香成、37 金、45 玉、57 桂、同成香、46 金、同玉、55 馬迄 11 手。

①25 玉は 33 馬、同玉、34 金迄。

①26 玉は 27 金、25 玉、37 桂、14 玉、23 馬迄。

①46 玉は 55 馬、36 玉、37 馬、25 玉、35 金、16 玉、27 馬迄。

㊸47 歩合は 27 金、25 玉、37 桂、14 玉、23 馬迄。

やや広い初形で筋が掴みにくいが、とりあえず 24 銀と据えて形を作る。変化は読まされるが、25 玉は 33 馬、同玉、34 金迄の好変化。また 26 玉は 27 金以下、46 玉は 55 馬以下それぞれ早詰なので 36 玉が最善(変化①)。

58 角に対し、安易な合駒では 27 金、25 玉、37 桂、14 玉、23 馬迄。そこで 47 香成の移動合で懐を広げるが、37 金と頭に据え、57 桂が軽手。56 玉は 47 金で確かに詰んでいる。

同成香と取るよりないが(このため 4 手目は成限定)、46 金が決め手で 2 枚角(馬)の利きを生かした詰上りとなる。

【解答者コメント】

「難しい?香より二枚角の存在かな」
 「桂捨てから金捨てが気持ちいいですね」

第18番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇	銀	一 ▲持駒なし
							と		二
					銀				三
				銀		王			四
						飛	争		五
					馬				六
							毎		七
									八
									九

//キング// 作 No.2879『飛の見てないフリ』

Ⓐ34 銀成、14 玉、24 成銀、同玉、55 飛、14 玉、13 馬、同玉、53 飛成、14 玉、23 龍迄 11 手。

Ⓐ36 飛は 14 玉、13 馬、25 玉、35 馬、14 玉以下不詰。

初手は開き王手をするしかなさそうだが、どこに移動するか。

まず 33 飛成は 25 玉で上部脱出が防げず失敗。

次に 36 飛を考えてみる。25 玉は 34 銀生以下詰み。14 玉も 13 馬の好手があり、同玉、33 飛成で詰んでいるようだが、13 馬は取ってくれず、25 玉とされると、35 馬と追っても 14 玉、13 馬、25 玉で千日手逃れ。どうやら 5 段目に逃げられると上手いかないようだ。

となると 55 飛くらいだが、14 玉でどうも続かない。

正解は 34 銀成～24 成銀と銀を消去してから 55 飛を実行する。銀

を消去したことにより、14 玉に 13 馬、同玉、53 飛成と回り込むことができるのだ。

3 手目、飛を 65 以遠に移動すると、3 段目に成った際に 27 角が利いてくるので、55 飛は限定移動である。27 角は移動場所を限定させると同時に多くの余詰を消しており、絶妙の配置といえよう。

限定移動に邪魔駒消去の伏線を絡めた、センス溢れる好作である。

【解答者コメント】

「銀が邪魔なんて想定外でした。すごい」
 「初手からの伏線がうまい！」

第 19 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲持駒
				飛					二 駒
						馬			三 なし
									四 なし
				角					五
								歩	六
								金	七
							香	銀	八
					龍	香	王		九

kazemidori 作 No.2216『相手の駒で守られている』

21 香成、55 角、28 香、同玉、22 飛成、同角、27 金、18 玉、38 龍、19 玉、28 龍迄 11 手。

図面を眺めていると、連続で開き王手をするしかないことが分かる。さて、どこに移動するか。

正解は 21 香成！、55 角、28 香！

その意味は5手目で一目瞭然。初手・3手目共に他の場所へ移動すると、香が邪魔で22飛成ができないのだ。同じ意味付けで最遠移動と最短移動の対比を実現したのは見事である。

以下、収束はやや緩んだ印象だが、無駄がないのでこれが最善のまとめだろう。

【解答者コメント】

「邪魔にならない位置への空き王手、発想がすごい」
 「22飛を捨駒で入れるのが短編作家の矜持ですね。」

第20番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							と		一 ▲持駒
						銀	王	香	二 金
							王		三 銀
					香				四 三
									五
								馬	六
									七
									八
									九

EOG 作 No.1862 『金と銀の使い分け』

14銀、33玉、24銀、同玉、25馬、33玉、23銀成、同香、
 22銀、同龍、43金迄11手。

初手24銀は同玉、25銀、33玉以下左辺に脱出されて失敗。正解は14銀と斜めに打つ。同玉は15銀で簡単なので33玉。

ここでも34銀は42玉でダメ。馬の利きを遮らない24銀が好手。同香は22銀、同龍、43金迄早詰。

同玉には25馬、33玉と包囲網を絞り、23銀成が絶妙の成捨て。同玉は24金、同龍は43金で詰みなので同香が最善の応手だが、空いたスペースに22銀捨てが決め手で、同龍、43金迄。

銀使いの巧さが目立つ好作。特に初手で打った銀を捨てる23銀成が光る。

【解答者コメント】

「手が広くて難解でした。初手に打った銀を収束で捨てる味が絶品。」
「銀づくしの手筋箱」

第21番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								飛	▲持駒
									二
				香	毎	角	王		三 金
									四 銀
					歩		弓		五 一
						龍			六
									七
									八
									九

kazemidori 作 No.2544 『打った銀のソッポ成』

34銀、①同飛、12銀、14玉、13金、同玉、21銀成、23玉、12飛成、同玉、22角成迄11手。

①同玉は44角成、23玉、14銀、32玉、12飛成以下。

初手平凡に14銀は33玉、44金、24玉で逃れ。ここは逃げ道に捨駒の34銀が好手。同玉は44角成、23玉、14銀以下、同角は21飛

成以下それぞれ早詰。

同飛と応じられると、飛の利きが生じるため14銀が打てないが、代わりに12銀と背後から打つ。1筋の利きを遮断するので不利感のある一手である。33玉は初手の効果で23金以下簡単なので14玉。

13金、同玉と呼び寄せて開き王手の形。合駒を防ぐ21銀生が有利に見えるが、23玉、12飛成、33玉で逃れ。成が正解とはやや意表を突く。合駒は同飛成～22馬で無効なのだ。

12飛成が気持ちの良い決め手。銀成の効果で33玉は22龍で詰んでいる。

打った銀をソッポに成る構成の巧く、流石の佳作。

【解答者コメント】

「3手目でハマった…」

「21銀成いい味。不成は詰みそうで詰まない不思議。」

第22番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					と		王	皇	▲持駒
									二
						皇	歩	皇	三金
					馬				四桂
								歩	五
					龍				六
									七
									八
									九

市原誠 作 No.3269『窓を開けて覗く』

Ⓐ31と、Ⓛ12玉、24桂、同歩、34馬Ⓜ同香、22金、同玉、42龍、23玉、32龍迄11手。

- ①同玉は53馬、21玉、41龍、12玉、22金、同玉、31馬以下同手数駒余り。
- ②23銀合は同馬、同玉、14銀、34玉、35金迄変化同手数。
- ③54馬は43歩合、同馬、12玉、22金、同玉、32馬、12玉、22馬、同玉、42龍、32金合、14桂、21玉、32龍、同玉、42金、21玉、31と、12玉、22桂成、同玉、32金、12玉で不詰。

初手54馬の紛れがかなり強力。これには43歩の中合が好防で、同馬、12玉、22金、同玉、32馬、12玉、22馬、同玉、42龍、32金合、14桂、21玉以下ギリギリ逃れ。作意のような好手順なので、この紛れに嵌るとなかなか抜け出せない。

正解は31と。細いようだが、①の変化があるので取ることができないのだ。

24桂～34馬と歩頭、香頭への連続捨駒は味わい深い感触。こうして馬を消去したことにより、22金、同玉、42龍以下の詰みとなる。

作意は文句なしの好手順だが、34馬に対して②23銀合が変同駒余らずになってしまうのはいささか残念ではある。

詰パラ本誌でも活躍されている作者はスマホ詰パラ作家第1号。個人誌アプリも3回にわたって配信されており、スマホ詰パラを代表する作家の1人である。

【解答者コメント】

「初手が見えませんでした」

第23番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				手		と	飛	馬	一 ▲持駒
				要	手		飛		二
					王				三 金
				歩			と		四
									五
									六
									七
									八
									九

//キング// 作 No.2983『どこかソッポへ行く大駒』

23 飛成、33 金、34 龍、同金、23 飛成、33 金、34 龍、同金、44 金、同金、21 馬迄 11 手。

22 飛がいかにも邪魔駒であり、初手は 23 飛成しかない。

対して 54 玉は 55 金迄なので、33 への捨合が飛び出す。歩合は 34 龍が好手で、同歩、44 金迄。そこでこの順に備えて横に利かす金合が妙防となる。

同龍と取れば馬筋が遮断され、金を入手しても 54 玉で逃れ。ここでも歩合の変化同様 34 龍と滑らすのが好手。

同金と取られて困ったようだが、この局面で 21 飛がなければ 44 金、同金、21 馬で詰み。飛は 2 枚共邪魔駒だったのだ。

そこで再度の 23 飛成から消去を試みる。33 合に 34 龍と進むが、この際、金を取られないために 33 金の移動合が妙防。捨合で発生した駒を移動捨合で動かすという離れ業がさらっと実現されている。

それでも 34 龍を実行し、同金で 21 飛の原型消去に見事成功。44 金、同金、21 馬迄の詰みとなる。

33 金捨合～34 龍の筋はさほど珍しくはないが、21 飛の邪魔駒を置くことで、この手順を 2 度行った作者のセンスは見事と言うほかない。

No.2879(第18番)で鮮烈な印象を残した作者が再び実力を発揮した好作である。

【解答者コメント】

「2枚の飛車は実は邪魔なのか……」
 「単純な仕組みで見事。」

第24番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王		皇	一 ▲持駒
				手				皇	二
			飛	角		車			三 香
									四
				龍		手	手		五
									六
									七
									八
									九

あひるのむこう 作 No.2047『槍の柄を避けきれない』

34香、①33金合、同香生、22玉、32香成、13玉、24金、同玉、
 34角成、同玉、33飛成迄11手。

①33歩合は32角成、同玉、33飛成、41玉、31龍迄。

まずは34香と打つてみるころ。対して22玉は32角成、13玉、23馬迄。そこでこの順に備えて飛の横利きを止めるため、中合が飛び出す。33歩合は32角成～33飛成があるので、後ろに利かす金合が最善の妙防。

しかし同香生と有難く頂戴し、32香成から24金、34角成と鮮やか

に連続で捨て、33 飛成迄の清涼詰となる。

作者の発表は本作のみ。易しい作品だが、金中合から収束のまとめ方が上手く、次作を見てみたい。

【解答者コメント】

「感動的な詰みあがり！」

第25番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							香	香	一 ▲持駒
				香	香		王		二 角
				銀			香		三 金
									四 銀
						王	桂		五 桂
									六
									七
									八
									九

天の川 作 No.2048『綺麗に頭金』

14 桂、①同香、㊤13 角、32 玉、33 桂成、同桂、21 銀、41 玉、31 角成、51 玉、62 金迄 11 手。

①32 玉は 33 銀、同桂、21 角、41 玉、33 桂生、51 玉、62 金迄。

㊤13 銀は 31 玉で不詰。

㊤33 銀は同桂、13 角、32 玉、33 桂成、同玉、44 金、32 玉で不詰。

端正な実戦型で安定感のある初形。

まずは桂があれば打ってみよで 14 桂が手筋。31 玉は 22 角以下、32 玉は 33 銀、同桂、21 角 以下①の順で早詰。

同香と取った局面は紛れが豊富で悩ましいところ。33 銀は同桂、13 角、32 玉以下逃れ(紛れⒶ)。13 銀は取ってくれず 31 玉で詰まない。ここは 31 に逃がさない 13 角が好手。同桂は 33 銀で簡単なので 32 玉と躲す。

ここで 33 桂成が気付きにくい絶妙の成捨て。同玉は 44 銀打、32 玉、31 金で詰み。同桂は空いたスペースに 21 銀と据え、31 角成の鮮やかな収束が決まる。

実戦型の桂香を共に動かし、そつなくまとまった好作である。

【解答者コメント】

「桂成の余韻がいいですね」

「拠点になりそうな桂を捨てるとは！」

第 26 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一 ▲持駒
			爵				香		二
					手		手	手	三 角
						角	角		四 金
							歩		五 桂
									六 香
									七
									八
									九

黄色 作 No.2051 『頭か腹か尻か』

32 香、同玉、44 桂、同歩、21 角、22 玉、14 桂、同歩、13 角成、同玉、12 金迄 11 手。

初手角打や金打も考えられるが、32 香は自然な入り方。

同玉に41角は取ってくれず22玉で続かない。44桂が先を見通した好手。同金は21角、22玉、32金、11玉、33角成迄、22玉は31角、同玉、32金迄なので同歩が最善。

以下、21角と据え、14桂～13角成が鮮やかな収束。3手目44桂を省くと13角成に33玉で詰まない。桂捨てはこのための軽い伏線であった。

安定した手筋物を発表されている作者。素直な手順だがよく出来ている。

【解答者コメント】

「軽いけど捨て駒が少し一目な気もする」

「気分のいい捨て駒の連続。最後は13同玉、12金がいいな」

第27番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲持駒
									二 駒
				馬	皇	群			三 金桂香
				と					四
			角		王	銀			五
			爵	驥		弓			六
							香		七
					手				八
									九

パパス 作 No.2536『手の付けどころはいっぱい』

④55と、同龍、37桂、同と、46香、同龍、34銀、同玉、56角、同龍、35金迄11手。

④37桂は同と、46香、36玉、26金、47玉で不詰。

初手からそれらしい筋が豊富で、手の付け所に迷う。その中でも第一感であろう37桂は同と、46香、36玉、26金、47玉で脱出されてしまい失敗。

そこで55とが巧い事前工作。同玉は54馬、同銀は54角迄なので同龍。これで65角が47まで利いてくるので、36からの脱出の心配がなくなった。

37桂、同と、46香、同龍と軽い打ち捨ての連続で守備駒を操り、46の地点を封鎖。34銀捨てで追い込んで56角が気持ちの良い決め手。同龍で龍が初形の位置に戻っての詰上りとなる。

オール捨て駒作。手筋の組合せが面白い作品に仕上がっている。

【解答者コメント】

「きれいな手筋もの。」

「全て捨て駒お見事」

第28番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			皇		将			と	一 ▲持駒
						将	将	皇	二 飛角
				銀	王	将		歩	三 銀
				歩		王			四 桂
				金			龍		五
									六
									七
									八
									九

がもうの作 No.2281『銀の繰り替え』

36桂、同と、45銀打、同銀、24飛、同銀、22角、33銀、24龍、34銀引、45金迄11手。

凝り固まった初形だが、と金の守備を外す 36 桂捨ては必然の導入。

45 銀打、同銀、同金としたいところだが、23 馬の守備が強力。そこで馬を退かそうと 24 飛がゴツンと音が鳴りそうな力強い一手。これは当然馬では取ってくれず同銀。

ここで焦って 24 同龍は同馬、45 金、33 玉で逃れ。22 角が脱出を止める好手。

どう応じても 24 龍～45 金の詰みは防げないが、詰将棋は持駒が余ってはいけませんので、銀を取られないよう 33 銀の移動合が最善。24 龍に対しても、これまた銀を取られないよう 34 銀引の移動合が最善となる。これで銀 2 枚が一度動いて元の位置に戻ったことになり、W スイッチバックが理論上最短の 9 手で実現されている。しかも 2 枚共移動合で戻ってくるところが面白い。

詰上りは大駒が 2 枚残って重いが、これは構成上やむを得ないところか。

尚、11 と・14 歩はそれぞれ 24 飛・22 角の以遠打非限定防止のための配置。全体を 1 路右に寄せるなど、推敲の余地がありそうだ。

【解答者コメント】

「銀のスイッチバックの狙いが良いね」

「銀移動合2回は面白い！」

第29番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	晏	▲持駒
									二
						と			三
								香	四
					馬	飛			五
									六
									七
									八
									九

かんかんのう 作 No.2293『角香運動の13手』

54角、43香、32と、12玉、45角、同香、34角、13玉、
23角成、同玉、33飛成、12玉、22と迄13手。

初手32とや43角では全然駒が足らず、工夫が必要。54角が45角を質駒に狙った限定打。これには玉方も中合で応戦する。43桂歩合は32と、12玉、45角で簡単、金銀合は取って詰むので、45に利かす香合が最善の好防。

同角成は12玉、22と、13玉で逃れるので32と～45角と予定通り質駒を奪う。香合の効果で同香と取られるが、34角～23角成としっかり角を捨てて清涼詰。

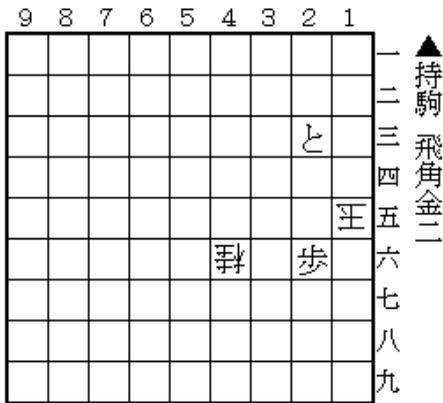
シンプルすぎる感はあるが、少ない駒数で限定打に中合が飛び出し、着地もピッタリ決まってまずまずだと思う。

【解答者コメント】

「シンプルながら奥深い」

「中合い面白い!!」

第30番



kazemidori 作 No.2185『絶妙な距離感』

17 飛、26 玉、④44 角、35 銀合、27 金、25 玉、36 金打、同銀、
15 飛、同玉、33 角成、25 玉、24 馬迄 13 手。

④53 以遠打は 35 銀合、27 金、25 玉、36 金打、34 玉で不詰。

盤面 4 枚の簡素図式。

まずは上部を抑える必要があり、17 飛は当然ながら限定打。

更に 3 手目 44 角も上手いこと限定されている。離して打つと後の変化で 33 角成と出来ず詰まないのだ(紛れ④)。対して歩合は 27 金～24 金、角合は 27 金～36 金で簡単なので、斜め後ろと頭の両方に利かす銀合が最善。

それでも 27 金～36 金打とゴリゴリ攻める。同銀に 15 飛が気持ちの良い好手で、33 角成～24 馬迄の詰み。

盤面僅か 4 枚で豊富な内容を盛り込んだ佳作。

【解答者コメント】

「角の限定打で馬に成れば詰みが見えました。」

「簡素形からこの内容はさすがです。」

第 31 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						角	王		一 ▲持駒
					金			飛	二 金香二
							争		三 金香二
									四 金香二
									五 金香二
									六 金香二
									七 金香二
									八 金香二
									九 金香二

EOG 作 No.1831 『じゃあ、いつ取るのか』

22 香、同飛、11 金、同玉、14 香、13 角合、②22 角成、同玉、32 飛、21 玉、31 金、同角、12 飛成迄 13 手。

①同香生は 21 玉、22 角成、同玉、32 飛、13 玉で不詰。

本作も簡素で美しさを感じる初形。

まず 22 香～11 金はこうするしかないところ。いきなり金を捨てるのは不安だが、他に手はない。

5 手目 14 香に対し、13 角の中合が妙防。どこに何を合駒しても 22 角成、同玉、32 飛、21 玉と進むが、この時 31 に利かすのが角合の目的である。

しかしそれでも 31 金と捨て、同角、12 飛成迄。

実にシンプルに角の中合を動かした完成品。

【解答者コメント】

「角の中合の例題として最適ですね。」

「角合入って詰将棋になりました。最小 2 枚駒詰みは気持ちイイ。」

第 32 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				將		馬			一 ▲持駒
		雀		王					二 金
	飛								三
		驥		金					四
									五
									六
									七
									八
									九

らうーる 作 No.2904『挟撃の大駒』

41 馬、61 玉、51 馬、同玉、52 銀、①62 玉、53 金、71 玉、
61 銀成、同玉、81 飛成、同馬、62 金打迄 13 手。

①同玉は 53 金、61 玉、81 飛成、同馬、62 金打迄 2 手早い。

初手から 53 金・53 馬・53 飛成など色々手があるが、いずれも 61 玉で詰まない。41 馬が気付きにくい好手で、同玉は 43 飛成以下早詰なので 61 玉。但しここは 62 玉でも良く、非限定である。

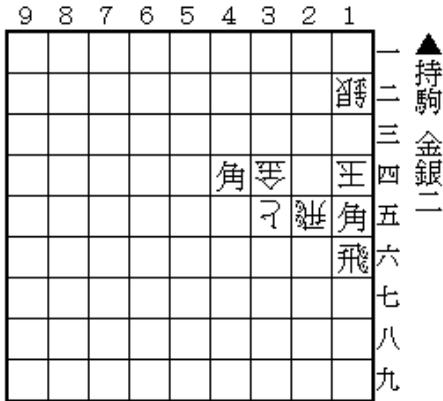
51 馬と銀をパクるのは意外な展開。その入手した銀を 52 に叩く。62 玉と躲すのがしぶとい延命策だが、53 金、71 玉に 61 銀成が打った駒を再活用する好手。以下、81 飛成捨て～頭金はよくある収束だが、何度見ても気持ちが良い。

【解答者コメント】

「駒取りの逆算がどんなものか」

「61 銀成の味が良い。」

第33番



serisiu 作 No.2836『玉飛接近して立ちはだかる』

Ⓐ13 金、①同玉、22 銀、ⓐ14 玉、23 銀、同銀、24 角、15 飛、
同飛、24 玉、25 飛打、同と、13 飛成迄 13 手。

①同銀は 33 角成、15 歩合、23 銀、同飛、15 飛迄。

ⓐ同飛は 14 銀、同玉、33 角成、25 玉、15 馬迄。

Ⓐ33 角成は 15 歩合、13 金、同玉、22 銀、14 玉で不詰。

Ⓐ23 銀は同玉、22 金、14 玉で不詰。

初手から紛れが豊富。33 角成は 15 歩合、13 金、同玉、22 銀、14 玉で逃れ。23 銀も筋だが、同玉、22 金、14 玉でうまくいかない。

正解はいきなり金を手放す 13 金。同銀は今度こそ 33 角成から①の順で詰むので同玉に、22 銀と拠点を据える。同飛は 14 銀～33 角成なので 14 玉。

ここでも開き王手を急がず、23 銀が焦点に捨駒の好手。同玉は 33 角右成で精算、同飛も 33 角成～15 馬なので同銀が最善。

これには 33 角成ではなく 24 角と小さく開く。作意と変化で移動場所が変わるのは面白い。同玉は 13 飛成だし、何を合駒しても 13 角成で万事休すのようだが、15 飛が強引に退路を開ける絶妙の移動捨合。

しかしその飛を奪い、25 飛打が決め手。同とは 13 飛成、同金は 33 角成でそれぞれ詰み。最短かつ見事なまとめ方である。

移動捨合からの一風変わった収束手順が印象的で、配置にも無駄がなく、完璧のまとめりだと思う。

【解答者コメント】

「素晴らしい。最後の 3 手詰めが見えなかった…。」

「最後の飛車の叩きが面白いですね」

第 34 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲ 持駒
									二 金
									三
									四
									五
				手		手			六
			龍			銀		手	七
						玉		王	八
				馬		馬			九

がもうの作 No.75 『引き寄せてドカンの筋』

Ⓐ 29 金、同桂成、17 馬、同玉、26 銀、28 玉、37 馬、① 39 玉、49 金、同と、38 馬、同玉、37 龍迄 13 手。

① 同とは同龍、19 玉、18 金、同玉、17 龍迄同手数駒余り。

Ⓐ 17 馬は同玉、26 銀、18 玉、17 龍、29 玉、19 金、39 玉で不詰。

初手 17 馬は同玉、26 銀、18 玉、17 龍、29 玉、19 金、39 玉で際どく逃れ。そこで 29 金、同桂成の事前工作で 29 の地点を塞いでから

17馬が巧い手順。わざわざ取れる桂を逃がしてから馬が飛び込むのは好感触だ。

同玉、26銀、28玉までは必然の展開。ここで17龍が自然だが、39玉、49金、同と、37龍、38合で逃れ。

37馬は龍筋を遮るので感覚的に指しにくい一手。同とは同龍、19玉、18金、同玉、17龍で駒余りなので39玉と躲すが、49金～38馬の畳み込みが鮮やかに決まり、解后感は抜群。

本書収録作の中では最も古い作品。終始気持ちの良い手筋の連続で、初期では数少ない佳作。

【解答者コメント】

「中盤迷いましたが最後はすっかり爽快でした！」

「初手19金か29金かで迷った。17馬で詰み形が見えた。佳作。」

第35番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					龍				一 ▲持駒なし
					馬	争	王		二
							争	争	三
								歩	四
								香	五
									六
								継	七
									八
		馬				飛			九

パースファインダー 作 No.1103 『飛敵角不成』

13歩成、同角生、32飛生、11玉、12歩、21玉、22歩、12玉、21歩成、同玉、31馬、同角、12飛成迄13手。

初手 32 飛生は 11 玉で 12 歩が二歩なので、13 歩成は必然。対して同角成は 32 飛成、11 玉、12 歩、同馬、同龍で詰み。そこで同角生が 12 歩を打歩詰に誘致する常套手筋。

これには攻方も 32 飛生と、生には生で対抗。虚々実々の攻防だ。

以下、22 歩～21 歩成の軽い邪魔駒消去から、31 馬捨てが決め手で、綺麗にまとまった。

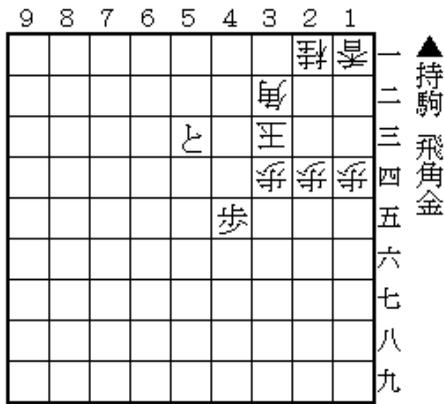
作者は双方不成を 4 作発表されており、本作は其中でもスマートにまとまった作品。但し初手は駒取りでなくても成立しており、疑問が残るところである。

【解答者コメント】

「最後のやりとりが巧妙」

「打ち歩詰め打開、不成の手筋」

第 36 番



ちしゃな 作 No.2122 『この駒がとどめになるとは』

13 飛、22 玉、31 角、同玉、42 金、22 玉、32 金、同玉、43 飛成、22 玉、31 角、同玉、42 龍迄 13 手。

実戦型で当たり駒もなく、美しさを感じる初形。

初手 13 飛と桂香の焦点に打つのが好手筋。同香でも同桂でも 44 角で簡単なので、22 玉と逃げるしかない。

31 角、同玉に 42 金～32 金と角を奪うのは実戦的な手順。以下、43 飛成から 2 度目の 31 角捨てがピッタリ決まる。

詰将棋の故郷とでもいうべき作品だと思う。

【解答者コメント】

「おお、この方が噂の…。初形・手順ともに綺麗な良問と思います。」

「初手が好手。ここを乗り切れれば流れるように進む。星 4 つ。」

第 37 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲ 持駒
									二 角
						銀	銀		三 角
				銀	歩		歩		四
				玉		王	玉		五
									六
						龍	歩		七
						角			八
						香			九

serisiu 作 No.2400 『二方向から突き刺す』

24 銀成、同玉、33 銀生、25 玉、36 角、34 玉、25 角、同玉、26 歩、同と、34 龍、同玉、16 角迄 13 手。

初手 47 角は取ってくれず、16 玉で逃れ。

まずは 24 銀成～33 銀生と繰り替え、44 の地点に利きを作っておくのが重要な事前工作。

攻め駒の重複感がある3筋に更に足すような36角は効率が悪そう
で打ちにくい。その目的は34玉に25角とすぐに捨て、34歩を原型消
去すること。

26歩の突出しが角利きを通す味の良い一手。変化では開き王手で
突き(2手目及び6手目16玉)、作意では直接王手で突く。

そして34歩消去の効果で龍捨てからの両王手が炸裂。マニアなら
初形から両王手の詰上りが見え見えだが、わかっている気持ちの良い
手順である。

【解答者コメント】

「収束がかっこいいです。」

「邪魔駒消去の連続！脱帽です」

第38番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				馬				皇	▲持駒
						金			金二
				と				王	銀
				手	手				桂
							手	銀	
					玉				

もラン 作 No.2579『5三のと金に』

23金、同玉、35桂、同馬、33金、①24玉、22金、13玉、
14銀、22玉、33馬、同玉、23金迄13手。

①13玉は14銀、24玉、23金、14玉、24金打以下同手数駒余り。

初手 23 金は第一感だろう。同玉に 33 馬が自然だが、13 玉以下際どく詰まない。

35 桂、同馬(同歩は 33 馬で簡単)と上部を封鎖し、33 金と引くのが好手順。33 馬ではなく金の方が有利というのは不思議な感覚だ。

更に続けざまに 22 金が絶妙のソッポ行き。実に味わい深い金の動きである。33 合は同馬と切って詰むので 13 玉。

以下も取れない 14 銀の焦点捨てから 33 馬捨てと、着地まで鮮やかに決まる。

金ソッポを中心に前後の構成も緩みなく、文句なしの佳作。

【解答者コメント】

「ここで馬捨てか…」

「魅惑的な金の動き」

第 39 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						皇	馬	爵	一 ▲持駒
								王	二 金
			銀	香	香				三 桂
			手					龍	四 二
				玉		玉			五
									六
									七
									八
									九

天ヶ瀬朔也 作 No.1509 『混沌のなかへの特攻』

Ⓐ 35 桂、同馬、33 香成、① 同香、14 金、34 玉、46 桂、同馬、43 馬、同金、45 銀、同馬、24 龍迄 13 手。

④同玉は 35 龍、同金、42 角以下。

⑤14 金は 34 玉、43 馬、同金、45 銀、33 玉で不詰。

まずは初手 14 金から考えてみよう。34 玉となった局面は 46 馬の守備が強力だが、43 馬～45 銀が利きを逸らす好手順。同馬と応じてくれば 24 龍迄の詰みとなる。

ところが 45 銀に 33 玉と躲されると捕まらない。33 玉を未然に防ぐことが出来れば良いのだが…。

そこで最初に戻って、14 金を打つ前に 33 香成と捨てておくのが巧い伏線手。しかし単に 33 香成は同玉で詰まないなので、その前に 35 桂、同馬(同金は 24 金)としておく必要がある。こうしておけば 33 同玉は④の順で詰むので、同香と取るしかない。

そして 14 金、34 玉に 46 桂と捨てて馬を元の位置に戻してやれば、先程の紛れと比較して 33 の地点が塞がった形となり、43 馬～45 銀の鮮やかな手筋が決まる。

尚、46 桂のところで先に 43 馬は同金、46 桂、44 玉で詰まないので、手順前後は成立しない。

33 香成の伏線だけでも中々のものだが、そのために 35 桂捨てで一旦馬を近づけておき、46 桂捨てで元の位置に戻すという回りくどい手順を行うところが実に巧妙に出来ている。

【解答者コメント】

「捨てゴマの順番が難しい」

「馬捨てが中々のもの。」

第40番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			銀		王				一 ▲持駒
						角			二 銀
									三 桂
				香	桂				四 歩
						香			五
									六
									七
									八
									九

鰻屋 作 No.2348『空中からの狙撃』

42 銀、32 玉、24 角成、①34 角合、33 桂成、21 玉、13 桂、11 玉、12 歩、同角、22 成桂、同玉、32 香成、同玉、33 馬迄 15 手。

- ①21 玉は 31 銀成、11 玉(同飛は同香成、同玉、23 桂以下)、23 桂、22 玉、32 香成、12 玉、11 桂成以下同手数駒余り。
- ①22 玉は 14 桂、12 玉、13 歩、21 玉、32 香成、同玉、33 馬以下。

まず 42 銀と据え、24 角成の開き王手。これに対する応手が考えどころ。43 玉は 53 桂成、44 玉、34 馬迄。22 玉は 14 桂、12 玉、13 歩、21 玉、32 香成以下早詰。21 玉が少し難しいが、31 銀成、11 玉、23 桂、22 玉、32 香成、12 玉、11 桂成以下駒余りで詰む(変化①)。

受けに困ったようだが、ズバリ 34 角の中合が妙防。同香と取れば 43 玉で逃れ。そこで 33 桂成、21 玉、13 桂、11 玉、12 歩と進むが、この 12 歩を取るための角合限定である。

以下、22 成桂～32 香成の軽手で収束。大駒捨てはないが、積み崩しのような感覚で心地良い。

少ない駒数で角の中合を動かし、収束までさらっとまとまった佳作。

【解答者コメント】

「中合が見えなかった傑作」

「不詰感が漂う。34角の中合は妙手。星4つ。」

第41番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
									二
								馬	三
									四
			王			王	王		五
									六
							香		七
			龍			王			八
									九

天の川 作 No.2674『妙手を利用』

37桂、16玉、18香、同と、43角、17玉、35馬、①26桂合、
16角成、同玉、18龍、同桂成、17歩、同成桂、25馬迄15手。

①飛金合は同馬以下。

初手は37桂くらいしかない。対して36玉は14馬、26玉、35角以下の詰むので16玉。

18香捨てで退路を封鎖し、43角と成れる位置に据える(52以遠も可)。35馬で桂合を発生させ、打った角を成り捨てるあたりはリズムの良い手順。

18龍を取るのが桂合限定の意味。同桂生とできれば打歩詰になるが、8段目なので成らざるを得えず、17歩、同成桂、25馬迄。森田手筋とは少し違うが、合駒で発生した駒が取歩駒になっている。

ちなみに、全体の配置を一路上に平行移動すれば17龍に同桂生で詰まない。

軽快でスッキリ洗練された作品。

【解答者コメント】

「森田手筋とはちょっと違う。御見事です。星5つ」

「桂馬不成できずですね」

第42番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇		一 ▲
					歩				二 持
					歩			歩	三 駒
					龍	香		王	四 角
						金	歩		五
									六
							桂		七
									八
									九

幻想咲花 作 No.2084 『森一タス手筋』

Ⓐ41角、①23桂合、32香成、34角合、同龍、同桂、24金、同玉、33角、14玉、15角成、同桂、22成香、24玉、23角成迄15手。

①23角合は33香成、34歩合、24金、同玉、23成香、14玉、24成香、同玉、15角迄。

Ⓐ32角は23桂合、33香成、34歩合、同龍、同桂で打歩詰。

初手33香成は34歩合、同龍、同桂で、15歩が打歩詰となり失敗。次に32角を考えてみよう。頭に利く合駒は33香成～23角成と奪

い、15に打って詰み。角合も33香成、34歩合、24金、同玉、23成香、14玉、24成香、同玉、15角で詰む。しかし桂合をされると、33香成、34歩合、同龍、同桂で、結局打歩詰が回避できない。

そこで初手41角と離して打つのが好手。23桂合に32香成と角の利きを隠してやれば、34歩合、同龍、同桂の時、合駒で発生した桂が取歩駒となり、15歩が打てるわけである。

そこで玉方は34歩合に代わって角合で応戦するが、それを奪って24金～33角の打換えから角成捨ての好手順で鮮やかに収束する。

取歩駒を合駒で発生させる『森田手筋』と、遠打～限定移動で駒の利きを隠すことにより打歩詰を回避する『ブルータス手筋』を組み合わせた構想作。無駄なくまとまっている辺りは流石としか言いようがなく、作者実力発揮の一局。

【解答者コメント】

「41角と32香成で、打ち歩詰めをなくしてるのか！うまい！」
 「角合と捻ってあるのがいい。」

第43番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		▲持駒
							王	歩	飛
				王					桂
				飛		歩			
							王	桂	
				角		王			

EOG 作 No.3080 『守備駒を振り切って飛ぶ』

33 歩成、同玉、23 飛、32 玉、44 桂、㊦同馬、52 飛成、42 金合、43 飛成、同馬、23 角成、31 玉、41 馬、同金、23 桂生迄 15 手。

㊦41 玉は 21 飛成、31 歩合、74 角、42 玉、52 桂成、同馬、同角成、33 玉、23 龍迄同手数駒余り。

初手は飛角両方の利きを通す 33 歩成がこの一手。同桂は 23 角成で簡単なので同玉に、23 飛と据える。

44 桂捨ててで馬を退かし、42 飛成。44 桂に 41 玉の変化が厄介だが、21 飛成、31 歩合、74 角、42 玉、52 桂成以下駒余りで割り切れている(変化㊦)。

42 飛成には 41 に利かす金合が最善。この時点で 23 飛が邪魔駒になっており、43 飛成が気持ちの良い消し方。以下、23 角成～41 馬とダイナミックに飛び込んで金合を動かし、桂跳ね迄の詰み。

【解答者コメント】

「特に 9 手目がいいね。」

「収束が秀逸」

第 44 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						龍	歩	龍	▲持駒
						と		王	角
									桂
						歩			歩
							桂		二
							歩	歩	一

osumo3 作 No.2116 『竜のひねりが絶品』

22 と、同歩、23 角、④同歩、42 龍、32 歩、13 歩、21 玉、
22 歩、同玉、14 桂、21 玉、33 桂生、同歩、22 桂成迄 15 手。

④同玉は 33 龍、14 玉、34 龍、24 香合、15 歩、同玉、27 桂、14 玉、
15 香迄。

まずは 22 と、同歩と邪魔駒のと金を消去。

3 手目 13 歩は 23 玉、33 龍、14 玉、34 龍、24 合で続かない。この
時 15 歩が打てれば詰むのだが、二歩で打てないのだ。

そこで 23 角が好手。これなら同玉は 33 龍以下、先程と同じように
進んだ時、13 歩がないので 15 歩が二歩にならないという仕組みであ
る(変化④)。従って同歩と取る一手。

5 手目 32 龍は 22 合で 13 歩が打歩詰。そこで 42 龍のソッポが登場
する。これには 32 歩の中合で応戦するが、取らずに 13 歩、21 玉、22
歩、同玉、14 桂、21 玉と進み、最後に歩頭桂の捨駒で中合を動かして
味の良いまとめ。

上部の配置が④の変化でしか働かないところが気になるが、16 歩
はなくても割り切れており、不要駒のようだ。

龍ソッポを中心に前後の手順にも工夫が感じられる好作。

【解答者コメント】

「同じ打ち歩詰め回避でも、この竜引きのような回避策は珍しいです
ね。」

「不利感の 42 竜に 32 歩中合。そして歩と桂を見事使い切った。」

第45番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					馬		王		▲持駒
						歩		歩	角二
				歩			歩	歩	金銀
				馬	桂	馬			桂三

serisiu 作 No.2727『豪勢な捨駒からの』

33 桂、①同歩、22 銀、同玉、34 桂、同歩、11 角、31 玉、
43 桂、同銀、22 金、42 玉、33 角、同玉、32 金迄 15 手。

- ①12 玉は 21 角、22 玉、11 角、31 玉、41 桂成、同玉、32 角成、51 玉、
52 金迄。
- ①31 玉は 41 桂成、同玉、52 角、31 玉、42 銀、同玉、34 桂、33 玉、
22 角迄。

持駒に桂が 3 枚もあればとりあえず打ってみたいところで、33 桂は
第一感だろう。変化は読まされるが、12 玉は 21 角、22 玉、11 角、31
玉、41 桂成以下、31 玉も 41 桂成、同玉、52 角、31 玉、42 銀、同玉、
34 桂、33 玉、22 角でピッタリ詰む。

同歩には 22 銀と叩き、34 桂捨てで歩をもう一段吊り上げてから、11
角と据える。

31 玉で不詰感が漂うが、43 桂、同銀と上部を封鎖し、22 金が俗手
の好手。角筋を止めると同時に 42 玉と逃げられるのでいかにも効率
が悪そうだが、33 角捨てで穴に引きずり込み、32 金と滑らせれば両王
手で詰んでいる。

4手おきに桂を打ち捨てるテンポの良い序章から、打ちにくい22金、両王手の詰上りと見所満載。持駒が多く、最終手以外全て駒打ちだが、嫌味は感じられない。

【解答者コメント】

「手順を尽くす桂打。」

「打ちにくい金。収束が見えないと打ちにくい金。」

第46番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲
									二 持駒
									三 なし
									四 なし
					皇				五
			銀	皇	皇	銀	皇		六
		角		香	香	金	角		七
		金	飛			金	香		八
		銀	香	銀	王				九

パスファインダー 作 No.1038 『強引にひっくり返す』

58 銀、①同銀生、69 飛、同銀生、39 金打、58 玉、47 銀、同香生、48 金寄、同香生、49 角、同香成、59 歩、同成香、68 金迄 15 手。

①同銀成は 69 飛、同成銀、39 金打、58 玉、47 銀、同香成、59 歩、同成銀、68 金迄。

かなりグロテスクな初形。

まず 69 金の質駒を見て邪魔な 59 銀を消去。これを同銀成と取ると、69 飛、同成銀、39 金打、58 玉、47 銀、同香成と進んだ時、59 歩が打

てるので早詰。そこで 58 同銀生～69 同銀生がうまい受けとなる。59 歩を打歩詰にしようというわけである。

47 銀に対しても同香生が打歩詰誘致の好防。48 金寄と打開を試みるが、連続で同香生と応じ、尚も打歩詰。

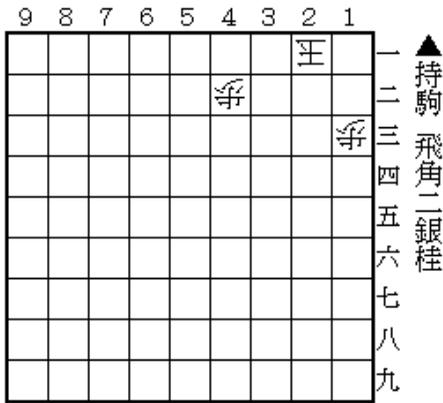
しかし 49 角が再度打開を試みる好手で、9 段目に生香は行けないので、ついに成らざるを得なくなる。

徹底して生で打歩詰誘致する玉方と、強引に成らせようとする攻方の虚々実々の攻防が見事な作品。

【解答者コメント】

「なるほど強制的に成らせるのか！ ずっと悩んだが目から鱗。入玉形は好みではないが、これはお見事」
 「打ち歩誘致の香不成、おもしろい。」

第 47 番



ブルータス 作 No.2372 『激しい攻めと受け』

12 角、①同玉、34 角、23 角合、32 飛、②21 玉、12 銀、32 玉、
 23 銀成、41 玉、53 桂、31 玉、22 角、21 玉、11 角成、同玉、
 12 成銀迄 17 手。

- ①31 玉は 43 桂、同歩、53 角、42 香合、21 飛以下。
①32 玉は 54 角、43 歩(43 銀合は 23 銀、41 玉、63 角成以下。43 金合は 44 桂、33 玉、32 飛、24 玉、22 飛成以下。)、44 桂、42 玉、52 飛、33 玉、32 飛成、24 玉、34 龍、15 玉、35 龍、16 玉、34 角成、17 玉、37 龍迄同手数駒余り。
②22 金合は 24 桂、21 玉、12 銀、同金、同飛成以下。

盤面 3 枚の簡素な無仕掛け図式。

手の付け所に迷うが、12 角から入るのが良い。変化がかなり厄介だが、31 玉は 43 桂、同歩、53 角、42 香合、21 飛以下、32 玉は 54 角、43 歩、44 桂、42 玉、52 飛、33 玉、32 飛成以下駒余りで割り切れている。詳細は変化①参照。

3 手目 34 角は限定打。対して安易な合駒は 24 桂～32 飛で簡単。この筋を防ぐため斜め後ろに利く合駒が必要となるが、角合か銀合かは一先ず保留して進めよう。

24 桂は 22 玉で駄目なので 32 飛と打つ。合駒は 24 桂～12 銀でバラして詰むので 21 玉。

12 銀～23 銀成と俗手で攻め、53 桂、31 玉となった局面で、持駒が銀なら 32 銀迄。ここで 4 手目は角合であることが判明される。

以下、22 角～11 角成としっかり角を消し去って詰み。

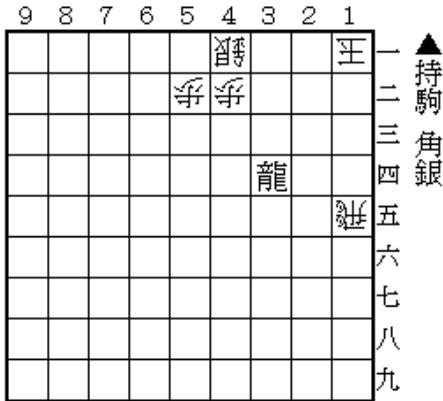
この初形で同一作がないだけで儲けものだが、難解な序章から限定打に限定合が登場し、最後に角捨てで締めるあたり、手順もなかなかのもの。簡素図式の佳作。

【解答者コメント】

「初手を逃げたら本当に詰むのか自信なし。」

「空中を彷徨っている感」

第48番



パリティビット 作 No.2548『騎兵召還』

44 角、①33 桂合、同角成、22 桂合、同馬、同玉、14 桂、同飛、
23 銀、21 玉、33 桂、31 玉、41 桂成、同玉、31 龍、同玉、
32 銀打迄 17 手。

①33 歩合は同角成、22 歩合、同馬、同玉、23 銀、21 玉、22 歩。

初手 44 角に対し、22 合は 31 龍で簡単なので、二連合が登場する。
33 歩合～22 歩合は同馬、同玉、23 銀、21 玉、22 歩で早詰。このため
歩は 1 枚も渡せないで、33 桂合～22 桂合が最善の好防となる。

7 手目すぐに 23 銀は 21 玉、33 桂、11 玉で逃れ。この順に備えて
14 桂捨てを一本入れておくのが肝要。

以下、33 桂～41 桂成と銀を入手し、龍を捨ててスッキリ清涼詰。

桂連合はよくある筋だが、そこから自然な流れのまま着地が綺麗
に決まるあたりは見事。形も全く無駄がなく、完成品。

【解答者コメント】

「41 銀の配置がうますぎる！」

「綺麗な連続桂合い。無駄もなく詰み上がる。」

第 49 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						争		争	▲持駒
			馬			王			飛
				銀		皇			桂
									二歩
						歩			
								香	

osumo3 作 No.2706 『広がるテリトリー』

Ⓐ32 銀成、同歩、14 桂、①13 玉、25 桂、同香、22 桂成、同玉、
23 歩、33 玉、43 飛、24 玉、44 飛成、23 玉、24 龍、同玉、
34 馬迄 17 手。

①12 玉は 22 飛、13 玉、23 飛成、同玉、34 馬、13 玉、25 桂迄。

Ⓐ14 桂は 13 玉、25 桂、24 玉で不詰。

まず 43 銀が馬筋を止める邪魔駒なので、32 銀成と消去しておく。

14 桂～25 桂～22 桂成と桂を巧みに使い、香を吊り上げるのが好手順。14 桂に 12 玉は①の順で詰む。

23 歩の叩きに対し、同玉は 21 飛～24 飛成と綺麗な手順で詰むが、これは早く、33 玉とよろけるのがしぶとい延命手段。

34 飛は 23 玉、24 飛、33 玉で千日手逃れなので、43 飛とこちらから打つが、24 玉ですぐに邪魔駒となる。44 飛成～24 龍と鮮やかに消去して 34 馬迄の詰み。尚、44 飛生～24 飛とすると 33 玉で詰まないの
で飛成は限定。

終始軽い手順で爽快感を味わうことができる作品。

33 銀打～22 銀成、34 桂～22 桂成と、打った駒を4手後に捨てる手順が心地良いリズム感を醸し出している。小駒主体の繊細な捌きが味わい深い作品。

【解答者コメント】

「2度目の桂捨てが見えませんでした。」

「5枚も捨てる。すごーい！！」

第51番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
									二
									三 金二
					銀	銀			四 銀二
								手	五
						手	銀		六
									七
						銀	王		八
					飛	桂			九

パスファインダー 作 No.1234『馬のダイビングヘッド』

17 金、同馬、19 銀、同玉、①37 桂、39 馬、②同飛、28 玉、29 銀打、17 玉、35 角、同馬、18 銀、同玉、19 飛、同玉、29 金迄17手。

①17 桂は28 玉、29 銀打、17 玉、18 銀、26 玉で不詰。

②29 金は同馬、同飛、18 玉、27 角、17 玉で不詰。

初手19 銀は同玉、37 桂、28 玉、29 銀打、17 玉以下逃れ。そこで17 金、同馬と事前に逃げ道を封鎖しておいてから19 銀が好手順。

5手目17桂と馬を取りたいところだが、それでは折角閉じた17の地点が再び空いてしまい失敗。

ここは欲張らずに37桂の『空跳ね』が冷静な一手。これに対し、玉方は何としてでも逃げ道を空けようと、39馬の移動中合が飛び出す。双方共に秘術を尽くした見事な応酬だ。

以下はまとめだが、移動中合で入手した角を35角と捨てるあたりは巧く出来ている。18銀～19飛と鮮やかに捨て、着地まで完璧。

やや類型的な感はあるが、究極の完成度を誇る傑作。

【解答者コメント】

「空跳ねの37桂に、玉方も39馬の妙手で対抗。収束も飛車捨てで綺麗に決まっていますね。」

「これは本誌に行くべき！」

第52番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					▲		▲	▲	一 ▲
						▲			二 ▲
					▲				三 ▲
						▲	▲	▲	四 ▲
						▲	▲		五 ▲
									六
									七
									八
									九

世阿弥 作 No.1537 『裏切り者の暗躍』

11 飛成、同玉、33 角、同歩、14 香、13 飛合、12 銀、22 玉、33 歩成、同飛、13 角、同飛、23 歩、同飛、21 銀成、同飛、12 桂成迄17手。

初手 22 銀は同玉、33 角、23 玉で逃れ。いきなり 11 飛成と英断の飛切りでスタートとなる。同玉に 33 角捨てが質駒を作っておく好手。

14 香と打ったところで、21 玉は 22 銀、同玉、33 歩成で簡単。そこで 13 飛の中合が登場する。同香は 22 玉で駄目なので 12 銀、22 玉、と進むが、この時 33 に利かすのが飛合の目的。

ここからがハイライト。33 歩成、同飛、13 角、同飛、23 歩、同飛と、中合で発生した飛を翻弄する。詰将棋は中合を動かせばそれなりの作品になるが、3 回連続で動かすとは見事である。

着地も 21 銀成捨てが決まり、文句なしのまとめ。

作者は詰パラモバイル時代から常に安定した好作を発表され続けており、スマホ詰パラを代表する作家の 1 人である。

【解答者コメント】

「傑作ですね…言葉を失います」

「意外な合い駒だった」

第 53 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						将	王	香	▲持駒
									二 飛
					香	王			三 銀
					香		飛	馬	四 桂
								香	五
					歩		玉		六
									七
									八
									九

鰻屋 作 No.2436 『作ったような馬利き』

22 飛成、同玉、13 銀、㊦21 玉、12 銀成、同玉、32 飛、㊧22 銀打、

24 桂、21 玉、22 飛成、同玉、13 銀、33 玉、32 桂成、同銀、
24 馬迄 17 手。

①33 玉は 32 飛、同銀、24 馬迄。

②22 歩合は 24 桂、21 玉、31 飛成、同玉、32 馬迄。

③22 金合は 24 桂、21 玉、22 飛成、同玉、32 金、同銀、同馬迄。

42 玉と逃げられるとどうしようもないので、初手 22 飛成は必然手ながら派手な出だし。

同玉に 13 銀～12 銀成の二段活用が好手順。13 銀のところで 33 玉は 32 飛～24 馬がピッタリ。

7 手目 32 飛が鈍い音が鳴りそうな重量級の一打。同銀は 24 桂～32 馬なので合駒だが、歩合は 24 桂、21 玉、31 飛成で簡単、金合は 24 桂、21 玉、22 飛成、同玉、32 金なので銀合が最善となる。

24 桂、21 玉、22 飛成、同玉となったところで、2 度目の 13 銀打が登場。この局面と 5 手目の局面を比較すると、24 桂が発生したことになる。33 玉に 32 桂成が決め手で、還元玉の詰み。

どことなくゴツイ感覚で筋が見えにくく、解答者からは難解との声が多数であった。

【解答者コメント】

「難しい、ことごとく第一感を外されました。」

「再度の銀打ちが巧い」

第54番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
									二
									三 銀香三
						銀	と	歩	四
						香	桂	王	五
					馬	金			六
						玉	玉		七
							香		八
									九

EOG 作 No.3140『上部成駒埋め』

Ⓐ19香、①同銀成、Ⓑ18香、Ⓓ同と、Ⓒ26銀、同銀、17香、同銀生、25と、16玉、15と、同玉、27桂、同と、24馬、同玉、25金迄17手。

①同銀生も可。非限定。

①17歩合は16香、同玉、25銀、15玉、16銀打迄。

①18歩合は17香、同桂成(同とは26銀、16玉、25銀引、27玉、37金、同銀成、同馬迄)、25と、16玉、15と、同玉、24銀、同銀、同馬、同玉、25金迄。

Ⓓ同成銀は17香以下①18歩合に準じる。

Ⓓ17とは37馬、同桂成、17香、24玉、25金迄。

Ⓐ17香は同と、25と(26銀は16玉、25銀引、27玉で不詰)、16玉、15と、27玉で不詰。

Ⓐ18香は同と、26銀、同銀、17香、同銀引生、25と、16玉、26と、同銀成で不詰。

Ⓑ17香は同と、25と、16玉、15と、27玉、37馬、18玉で不詰。

Ⓒ17香は同とでⒷ同様不詰。

持駒に香が3枚あるので、19香と打ってみたいところではあるが、とりあえず17香から考えていこう。同桂成や同銀成は25と、16玉、15と、同玉、24銀以下詰むが、同とと取られると、以下25と、16玉、15と、27玉で上部に脱出されて詰まない。

次に18香を考えてみる。同とに手拍子で17香と連打したいところだが、同とで先程と同じ形になり、何をやっているのか分からない。ここは26銀が巧い継続手段。同銀と取らせてから17香を実行すれば、同とは25と～26とで簡単に詰むというわけだ。しかし今度は同銀引生と取られて失敗(同銀上生でも不詰)。即ち、28銀が居る形で18香は成立しないのだ。そこで初手に戻って、当初の目論見通りの妙手が飛び出す。

19香!、同銀成、18香、同と、26銀、同銀、17香。

19香と捨てて28銀を退かしておくわけだ。これに対し、18歩合は17香、同桂成、25と以下早詰(変化㊦)。また、18香のところで同成銀も同様、17香～25とで詰む(変化㊧)。

かくして19・18・17の香打三発が見事に実現された。

17香に対する応手は26に利かす同銀生が最善。香連打作品は数多くあるが、それぞれ異なる駒で取るというのは珍しいかもしれない。

以下、と金の活用で桂を入手し、27桂捨てから、ラストは24馬捨てが鋭い決め手。着地まで緩みなく決まるのは見事というより他にない。

唯一残念な点は、実は2手目が成生非限定であること。成れば続く18香が焦点打になって妙手感が増すので、成に限定させたかったところではある。しかし、それを差し引いても傑作だと思う。

【解答者コメント】

「香の3連打を期待したのは詰めキスト病?星5つ。」

「香が活躍しましたね。」

第55番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			龍	玉	王	将			▲持駒
					銀	馬	金		角
			馬	玉		金			金
				金	金				銀
			歩	龍					
					桂		歩		

鳥丸 ♪ 作 No.2101『高美濃攻略』

42 銀、①同玉、34 桂、同金、53 龍、㊤31 玉、41 龍、同銀、
 32 歩、同玉、43 金、22 玉、31 角、同玉、42 龍、同銀、
 32 金打迄 17 手。

- ①同金引は 22 金、同玉、34 桂、33 玉、22 角、24 玉、25 龍迄。
- ①22 玉は 31 角、同金、同龍、13 玉、14 金、同玉、25 龍以下。
- ㊤同玉は 64 角、54 玉、55 金、43 玉、63 龍迄。

高美濃囲いの陣形図式。実戦で現れてもおかしくないような初形だ。
 まず 42 銀と焦点に一発。同金は 22 金、同玉、34 桂以下、22 玉も
 31 角、同金、同龍、13 玉、14 金以下早詰なので同玉(変化①)。

34 桂、同金と一歩補充しながら形を崩したところで、53 龍が絶妙の
 飛び出し。同玉は 64 角、54 玉、55 金、43 玉、63 龍で詰んでいる。

従って 31 玉と引く一手だが、41 龍切りから 32 歩と叩き、43 金と据
 えれば、31 角～42 龍の大駒連続捨ての鮮やかな収束が待っている。

陣形図式の詰将棋は手順も実戦的になりがちだが、本作は終始詰
 将棋らしい好手順が繰り出される。実戦で詰ましたらさぞかし気持ち
 良いことだろう。

【解答者コメント】

「形、手順、収束、難易度 全てすばらしい」
 「53 竜が見えにくい」

第 56 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						皇	と	▲持駒	
							銀	▲角	
						皇	王	▲桂	
						皇	王		
			馬	と		皇			
							歩		
						了	銀		
					桂		香		
					桂				

幻想咲花 作 No.3291 『邪魔駒消去,ただし(ry)』

41 角、①32 飛、④23 銀生、同玉、35 桂、14 玉、32 角成、同香、
 15 飛、同玉、16 銀、26 玉、37 馬、同と、27 歩、同と、
 15 銀迄 17 手。

①32 歩合は同角成、同香、15 歩、同玉、16 銀、26 玉、37 馬、同飛成、
 27 歩、同龍、15 銀迄。

④同角成は同香、15 飛、同玉、16 銀、26 玉、37 馬、同香生で不詰。

持駒が頭の丸い角桂では使い道がない形なので、まずは 41 角から合駒を稼ぐ。ここはどうせ取られる合駒なので、普通は 32 歩合とするところだ(桂合は売り切れ)。

同角成、同香、15 歩、同玉、16 銀、26 玉と進んだ局面で、27 歩が打歩詰。そこで 37 馬捨てが打開の手筋。以下、同飛成、27 歩、同龍、

15 銀迄、綺麗に詰んだ…あれ？持駒に桂が余っている。ここで迷いの森を彷徨うことになる。

2 手目 32 飛！が絶妙の受けであった。同角成、同香と飛を渡しても、結局 15 に捨てるしかないところがポイント。15 飛、同玉、16 銀、26 玉となった時、先程と同じように 37 馬と捨てても、今度は同香生！と取られて打歩詰が打開できないのだ。即ち、37 馬を香で取るために、邪魔な飛を移動合で消去したわけである。

このままでは打開できないので、攻方にも秘策が登場する。3 手目 23 銀生～35 桂の打ち換えが好手順。こうして香筋を予め塞いでおけば、37 馬に同とと取るしかなく、打開に成功する。

この意味付けの移動合は谷口均氏作(詰棋めいと 1998 年 12 月)に前例があるが、23 銀生～35 桂と打ち換えて打開するところは本作がオリジナルである。作者らしい玄人好みの見事な構想作であった。

【解答者コメント】

「なるほど 37 香不成を防ぐための 35 桂か。」

「飛車を差し出して香不成を残し意地でも打ち歩維持」

「3 手目同角は 37 馬に同香不成で打歩詰。飛が残れば成立しない」

「35 桂馬の理由に気がつくど爽快！」

「なるほど。飛車が邪魔駒なんですね。」

第57番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						馬	王		▲持駒
									銀歩
						馬	香		
				香					

アキラ 作 No.527 『幾度となく迫られる選択』

32 銀、12 玉、①13 歩、同角、23 銀生、21 玉、32 銀生、12 玉、
 34 馬、22 玉、23 銀生、①31 玉、32 歩、21 玉、12 銀生、32 玉、
 23 馬、31 玉、41 香成迄 19 手。

- ①21 玉は 12 銀生、31 玉、32 歩、同玉で作意還元。非限定。
- ①23 銀成は 21 玉、32 馬、11 玉、33 馬、21 玉で不詰。

盤面わずか5枚の簡素図式。この形から味のある駒操りが現れる。
 初手は 32 銀と据える一手。12 玉に 23 馬は 11 玉で打歩詰。23 銀
 成も 21 玉、32 馬、11 玉で打歩詰が打開できない。

そこで 13 歩、同角と上部を封鎖し、23 銀生～32 銀生の往復運動
 で一步入手したところで、34 馬のソッポが打歩詰回避の好手。

22 玉で粘るが、23 銀生～12 銀生と徹底して生で繰り替えるのが巧
 妙な手順で、23 馬～41 香成迄の詰み。

①の応手非限定が残念だが、銀生 4 回を含む駒の軌跡が味わい
 深く、センス溢れる小品。

【解答者コメント】

「簡素な形から何度も不成が出て驚きました。」
 「この形で、この駒数で、この手順。名作です。」
 「銀不成四回で、どれも悩ましいのが面白い！」

第58番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							桂	▲持駒	
							王	角歩	
				香					
					金	金	角		
							香		

EOG 作 No.1886『二枚角の味』

- ④41 角成、①13 桂打、23 角、22 玉、32 馬、11 玉、13 香生、同桂、33 馬、22 金合、12 歩、21 玉、32 角成、同金、11 歩成、31 玉、23 桂、同金、42 香成迄 19 手。
- ①13 歩合は 23 角、22 玉、32 角成、11 玉、12 歩、同玉、23 馬、11 玉、13 香生以下。
- ④32 角成は 13 歩合、23 角、11 玉、13 香生、同桂、33 馬、22 金合、12 歩、21 玉、32 角成、同金、11 歩成、31 玉で不詰。

初手 32 角成が普通だが、13 歩合、23 角、11 玉で打歩詰。ここから 33 馬と打開を試みても 22 金合とされ、12 歩、21 玉、32 角成、同金、11 歩成、31 玉でギリギリ詰まない。かといって 13 歩合のところで同香

成と取っても、同桂、21 角、11 玉でこれまた打歩詰。どうやら初手 32 角成ではどうやってもうまくいかないようだ。

そこで 41 角成と遠くに成るのが好手。こうすれば 13 歩合は 23 角、22 玉、32 角成以下、㊦の順で詰む。よって 13 桂打が最善。

今度は 23 角、22 玉、32 馬と攻める。11 玉、13 香生、同桂で紛れ㊦と同じ盤面になるが、持駒が桂に変わっている。これにより 33 馬、22 金合、12 歩、21 玉、32 角成、同金、11 歩成、31 玉のところて 23 桂捨てがあり、同金、42 香成迄の詰み。金合を 2 回動かしてまずまずの収束手順である。

初手 32 角成では歩合になるところを、41 角成とすることによって桂合をに変更させるトリックが見事である。

【解答者コメント】

「最初の角の位置で迷ったが後半はすんなりいけた」
 「どっちの角で行くか迷いました。」
 「香車が絶妙の位置に居ましたね。」

第 59 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一 ▲持駒
							王		二 金
					角		香		三 三
							香		四 桂
							角		五
									六
									七
									八
									九

osumo3 作 No.2888 『角の時代は終わりを告げる』

㊤12 金、同玉、24 桂、同歩、34 角上、㊦23 桂合、同角成、同玉、
35 桂、33 玉、34 金、42 玉、52 金、31 玉、32 角成、同玉、
23 金、31 玉、43 桂生迄 19 手。

㊦23 香合は同角成、同玉、34 金、12 玉、23 金打、11 玉、12 香迄。

㊤32 金は 13 玉、12 金、同玉、24 桂、13 玉で不詰。

駒数も少なく、安定感のある準実戦型。

初手 32 金は 13 玉、12 金、同玉、24 桂、13 玉で逃れ。初手は 13 に逃さない 12 金が好手。

24 桂と捨てて歩を吊り上げたところで、どちらの角で王手するか。34 角引成は 23 香合、同馬、同玉、34 金、22 玉で続かないので、34 角上が正解。対して 23 香合は同角成、同玉、34 金、22 玉、23 金で並べ詰なので、桂合が最善となる。

以下、これを取って 35 桂～34 金～52 金と拠点を作り、32 角成が決め手で小駒のみの気持ち良い詰上り。

目立った好手はないものの、落ち着いた初形から金桂捨て、限定合、角捨ての収束とツボは押さえている。同一作がないだけでも儲け物だろう。

【解答者コメント】

「初形といい手順といい素晴らしい」

「吊るし桂見えないとか、、、ちょっと吊ってくる」

第60番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					皇			皇	一 ▲持駒
					角	等		王	二 銀
					飛		等		三 桂
								等	四 桂
							馬		五 一
									六
									七
									八
									九

世阿弥 作 No.396『馬に勝る桂馬』

13 銀、同玉、24 馬、①12 玉、㊤13 馬、同玉、25 桂、12 玉、
24 桂、同歩、13 飛成、21 玉、33 桂生、同金、31 角成、同玉、
33 龍、21 玉、22 金迄 19 手。

- ①22 玉は 33 角成、12 玉、23 馬、同金、同馬、21 玉、22 金迄。
- ㊤23 馬は同金、13 歩、22 玉で不詰。

初手 24 桂は取ってくれず 13 玉で続かないので、13 銀から入る。

同玉となった局面で桂を使うには 25 馬が邪魔駒。そこで 24 馬～13 馬と原型消去。24 馬のところで 35 馬は①の変化が詰まないで、上手いこと 24 馬に限定されている。

25 桂と据え、24 桂捨てから 13 飛成で詰み形。33 桂生と一度打った桂を味良く跳ね捨て、31 角成から 33 龍と金を入手して詰み。

難解性に一切走ることなく、手の味を重視した軽快な作品は作者の真骨頂といえる。

【解答者コメント】

「馬が邪魔駒とは。。。」

「こんなに綺麗に捌けるとは!!」
 「駒さばきが止まらない。」

第61番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						と			一 ▲持駒
					王	飛			二 金二歩
							王	王	三
									四
						王	桂	王	五
							王		六
									七
									八
									九

パパス 作 No.2887『金が中心になる手順』

14 金、同玉、34 飛成、24 金打、13 桂成、同玉、23 金、同金、
 14 歩、12 玉、13 金、11 玉、21 と、同玉、23 龍、31 玉、
 21 龍、同玉、22 金打迄 19 手。

初手 34 金は 14 玉、13 桂成、25 玉、35 金、16 玉で逃れ。ここは 14 金が好手。同金は 34 金なので同玉だが、ここで 34 飛成がある。

対する合駒は 23 に利かす必要があるが、飛合は 13 桂成、同玉、23 金、同飛、14 金以下早詰なので、金合が最善となる。

それでも 13 桂成～23 金とするしかないところ。同金に 14 歩～13 金と精算を狙うのが継続手段。11 玉と躲すが、21 と～23 龍で金が手に入り、21 龍捨て～頭金の詰みがピッタリ。

全体的に金の着手が目立つ作品。そのためかやや重い感触ではあるが、適度に好手が入り最後に龍捨てで決まるあたり、そつなくまとまっている。

【解答者コメント】

「11 手目難しかったです。」

「少しややこしい詰将棋でした！」

第 62 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					馬	馬	皇		▲持駒
									二
				馬	王	香			三銀
			馬						四桂
									五
						銀	銀		六
					桂	香			七
									八
									九

高木泰誠 作 No.2087 『桂馬祭り』

45 桂打、①同桂、25 桂、24 玉、42 馬引、33 桂打、46 馬、14 玉、13 桂成、同香、25 銀打、同桂、15 銀、同飛、24 馬上、同歩、41 馬、23 香合、26 桂迄 19 手。

①44 玉は 35 銀打、43 玉、53 桂成、同桂、同馬上、33 玉、45 桂迄。

まず桂を使いたいところ。25 か 45 か、打つか跳ねるかの 4 通りあるが、44 玉からの脱出を防ぐには 45 桂打しかない。44 玉は 35 銀打、43 玉、53 桂成以下①の順で詰む。

3 手目 45 同桂は 44 玉、35 銀打、45 玉で逃れ。45 の地点を空けては駄目なので、25 桂とこちらに跳ねるのが正解。取れる形にしておいて結局取らずに逆方向に跳ねる感覚は良い。

24 玉に 42 馬と引いて合駒読みだが、46 馬、14 玉、13 桂成、同香、

25 銀打の詰みを防ぐ桂合にあっさり決まる。それでも 46 馬～13 桂成～25 銀とし、桂合を動かして馬筋を通す。

15 銀～24 馬上が気持ち良い手順。攻め駒が馬 1 枚で不安になるが、41 に桂が落ちている。これを拾えば、23 合で玉の周りが完全に包囲され、まるで単騎詰のような面白い詰上りとなる。

桂打、桂跳の序章から、桂の限定合を動かし、桂吊るしの詰上りと、正に桂尽くしの作品。そしてそれを引き立てる中盤から収束にかけての連続捨駒は見事で、解答者から絶賛の嵐であった。

【解答者コメント】

「最後、この形になるのか！ちょっと感心(o^o)」

「重ね打ちして、跳ね違えて、打ち合いして、成り捨てて、吊るす！」

「苦戦しましたが詰め上がりを見てニヤリ」

第 63 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲ 持駒
									二 駒
									三 角
						金			四
		馬	皇			飛			五
		飛	歩		王	糸			六
									七
									八
			銀	香		香	王		九

divD 作 No.2997 『詰将棋は歩から』

Ⓐ66 歩、①67 歩合、Ⓑ46 飛、同玉、36 金、Ⓓ47 玉、67 飛、Ⓔ48 玉、47 飛、同玉、37 金、48 玉、Ⓒ57 角、同玉、58 歩、48 玉、38 金、49 玉、57 歩迄 19 手。

- ④48 玉は 46 飛、39 玉、49 馬、28 玉、27 馬、19 玉、16 飛迄。
- ①67 桂合は 46 飛、同玉、36 金、47 玉、67 飛、48 玉、47 飛、同玉、37 金、48 玉、57 角、同玉、49 桂、48 玉、38 金迄。
- ②55 玉は 65 馬、44 玉、45 金、53 玉、73 飛成以下。
- ③57 歩合は 37 金、48 玉、38 金、49 玉、57 飛迄。
- ④46 飛は同玉、36 金、47 玉、66 歩、48 玉で不詰。
- ⑤同飛は 48 玉、47 飛(46 飛は 39 玉、37 飛、28 玉で不詰)、同玉、46 飛、同玉、36 金、55 玉で不詰。
- ⑥38 金は 57 玉、35 角、46 歩合で打歩詰。

初手から 46 飛も見えるが、36 金、47 玉、66 歩、48 玉で詰まないの
で、66 歩の開き王手が正解。対して 57 合は 58 馬迄。48 玉も 46 飛、
39 玉、49 馬以下早詰。そこで 67 歩の中合が登場する。

これをすぐに同飛と取るのは、48 玉、47 飛、同玉、46 飛、同玉、36
金、55 玉で逃れ。47 飛のところで 46 飛も 39 玉、37 飛、28 玉で詰ま
ない(紛れ⑤)。そこで先に 46 飛～36 金を決めてから 67 飛とするのが
巧い手順。36 金に 55 玉は 65 馬、44 玉、45 金以下②の順で早く、こ
の変化で初手で突いた歩が働くところはよく出来ている。

47 飛～37 金と、先程の 46 飛～36 金に続いて 2 度目の飛捨て～金
引きはテンポの良い手順。

48 玉に 38 金は 57 玉、35 角、46 歩合で打歩詰となり失敗。ここは
57 角が鋭い焦点打で、同香成は 38 金迄なので同玉に、58 歩と打ち、
最後にその歩を突いての透かし詰。

初手・最終手共に突歩の開き王手という統一感が良い。しかも最終
手の歩が中合で発生した駒であることがよりいっそう味を出している。

作意と紛れ④⑤の微妙な差異で 46 飛～36 金のタイミングが限定さ
れているところも巧妙に出来ており、文句なしの佳作。

【解答者コメント】

「2 枚の飛車捨てが気持ちいい」

「最終手の感触が、ステキ！」

「歩から始まり歩で終わるってか。うめえ……」

「開幕と終幕が素晴らしいのに中合、大駒三枚消去が入り星5つ」

第64番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							角	王	一 ▲持駒
					銀	皇	香	香	二 飛
					歩			香	三 金
									四 三
									五 桂
									六 二
									七
									八
									九

tan(y) 作 No.3027『懐を深くしてから詰ます』

23 桂、①同銀、12 角成、②同銀、23 桂、同歩、22 金、同玉、
33 金、同香、31 銀生、同玉、41 飛、22 玉、32 金、同玉、
42 歩成、22 玉、31 飛成迄 19 手。

①同歩は 12 角成、同玉、22 金、同玉、31 銀打、11 玉、22 金迄。

②同玉は 11 金、同玉、21 金、同玉、31 飛、12 玉、11 金迄。

まずは玉を穴から引きずり出さないとどうにもならないが、そのためには 21 角が邪魔駒なので、23 桂～12 角成と原型消去。銀を動かしてその跡地に角を成り捨てる感触が絶妙だ。

同銀に再度 23 桂と捨てるのも感触の良い手。今度は同銀は角を消去した効果で 21 金以下簡単なので、同歩と取るよりない。

これには 22 金～33 金と惜しみなく金を捨て、31 銀生が好手。

以下、取れない 41 飛の短打から 32 金捨ての好手順で収束する。

右上のコンパクトな範囲で味のある手順が現れる佳作。

【解答者コメント】

「非常に良くできている」

「角の捨て方がいい！」

第 65 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
									金
								と	四
				香	香	香	香		桂
		と			王				四
龍			驥						

town 作 No.3071 『竜の翻弄』

Ⓐ36 金、①同龍、46 金、㊸同龍、26 金、Ⓞ同龍、27 桂、同龍、47 桂、同龍、26 金、45 玉、57 桂、同龍、36 金、55 玉、67 桂、同龍、46 金迄 19 手。

①同玉は 56 龍以下。

㊸26 玉は 36 金、17 玉、77 龍、27 金合(他合は 15 飛、28 玉、37 龍以下)、15 飛、28 玉、27 龍、同玉、37 金打以下。

Ⓞ同玉は 46 龍、36 銀合、37 金、17 玉、16 飛以下。

Ⓐ27 桂は 46 玉、57 金(36 金は 47 玉以下不詰)、同玉、58 金、同玉、56 龍、57 香合、68 金(59 金は同玉、57 龍、58 金合以下不詰)、49 玉、48 金、同玉、57 龍、39 玉以下不詰。

盤面使用駒が龍・歩(と)の2色図式、持駒が金・桂4枚ずつと、使用駒に統一性があり、美しさを感じる初形。

どうやっても上部に逃げる変化を伴うので、手を付けたくない部類に入るだろう。初手27桂は46玉以下、非常に危ないが際どく逃れ(紛れ①)。正解は36金といきなりの強打。同玉は56龍が強力でどうやっても詰むので、同龍と取るしかない。

更に46金～26金と贅沢に金を捨てていく派手な手順が繰り出される。46金に26玉は36金、17玉、77龍、27金合、15飛以下(変化②)、26金に同玉は46龍以下(変化③)それぞれ早詰。これらの変化を読み切って全て同龍と決まれば一安心だ。

今度は27桂～47桂と、桂を駆使して龍を翻弄。何とここまで玉方の応手が5連続で同龍である。

以下26金と据え、桂捨て～金寄りのミニ送り趣向の収束となる。

前半が派手すぎて後半とのバランスが合わない感があるが、龍の移動回数7回は素晴らしく、傑作といって良いだろう。

【解答者コメント】

「龍を操る金と桂…珍しい」

「驚愕の序盤でした…凄すぎる！」

「翻弄具合が素晴らしい」

第66番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	馬	▲持駒
			飛		玉	王			飛角二銀桂二
			歩	玉	馬	玉	歩		
					玉		玉		

mashee99 作 No.2559『詰んでいるのに矢倉囲い』

31 角、同玉、32 飛成、同玉、24 桂、①同銀、44 桂、㊦同金、
42 金、同玉、52 飛、43 玉、32 角、33 玉、22 銀、同玉、
41 角成、13 玉、31 馬迄 19 手。

- ①同歩は 41 銀、22 玉、23 金、同玉、32 角、13 玉、23 飛以下。
- ㊦33 玉は 22 角、同玉、32 飛、13 玉、12 金、同香、22 銀迄。

綺麗な金矢倉の陣形図式。この堅い囲いが豊富な持駒で一気に崩壊する。

初手からいきなり 32 飛成は 13 玉で逃れるので、その前に 31 角と捨てて玉を引きずり出しておくことが肝要。

32 飛成、同玉となったところで、24 桂～44 桂と左右連続の桂捨てが強力な守備陣を崩す好手順。24 桂に同歩は 41 銀、22 玉、23 金、同玉、32 角以下、44 桂に 33 玉は 22 角、同玉、32 飛以下それぞれ早詰。

同金で広々とした形となるが、42 金捨てから 52 飛と据えれば一気に詰み形。最後に 22 銀捨てが入り、程良くまとまった。

作者は主に陣形図式を手がけており、その作品群は『詰んでいるの

に××』のタイトルでシリーズ化されている。シリーズの大半は俗手主体の実戦の手順だが、本作は例外で、終始詰将棋らしい好手順でまとまっている。

【解答者コメント】

「矢倉崩壊」

「今までにない矢倉詰」

第67番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						角			一 ▲持駒
									二 駒
						王			三 金
									四 歩
						角			五
									六
						飛			七
									八
						龍			九

天の川 作 No.2820 『大駒の天の川』

- Ⓐ24金、32玉、23金、41玉、47飛、44歩合、同飛、52玉、
- Ⓑ54飛、①61玉、52飛成、同玉、53角引成、51玉、52歩、41玉、42歩、31玉、13角成、21玉、22馬迄21手。

①63玉は64角成、72玉、52飛成、83玉、82龍以下同手数駒余り。

Ⓐ44金は32玉、43金、31玉、53角成、22玉で不詰。

Ⓑ42角成は61玉、64飛、72玉、62角成、81玉で不詰。

縦に一間飛びで並んだ飛角図式の珍形。作者名通り天の川を彷徨

とさせる初形だ。

開き王手をするのは39飛の守備が強力なので、初手は金を打つ一手だが、24か44かどちらから打つか。左辺が広いので44金の方が有利に見えるが、32玉、43金、31玉、53角成、22玉で不詰。24金～23金とこちらから攻めるのが正解。41玉とされると左辺が広く不安になるが、47飛以下大駒3枚の力で攻めが続く。

47飛に対し、52玉は53角引成で簡単。そこで角筋を止めるため、44歩の中合が登場する。

同飛、52玉で44飛が邪魔駒なので、54飛～52飛成と原型消去するのが好手順。54飛に63玉は④の順で割り切れている。

以下は53角引成から一本道で詰み。41玉の局面で持駒が歩以外だと1手詰なので、6手目が歩合限定であることがお分かりだろう。

53馬が取り残されるのは惜しいが、この初形で限定中合や邪魔駒消去が登場するだけで十分価値がある作品。

【解答者コメント】

「この初形で中合が入ったのは見事」

「収束だけが残念だけど名作」

「初形が綺麗なだけじゃない！すごい。」

第68番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	▲ 持駒 桂 二
					▲			▲	
					▲	▲	▲	▲	

爪将棋 作 No.2990『孫悟空』

23 桂、①12 玉、31 桂成、11 玉、21 成桂、同玉、32 角成、同玉、
33 金、31 玉、23 桂、21 玉、11 桂成、31 玉、21 成桂、同玉、
12 角成、同玉、23 銀成、21 玉、22 金迄 21 手。

①21 玉は 13 桂、22 玉、33 金以下。

右上 4×4 に収まった美しい初形。4 段目に並んだ攻め駒が『西遊記』の金角・銀角を彷彿とさせる。

手順に難しいところは皆無で、とにかく作意を並べて楽しんでいただきたい。

まずは 23 桂～31 桂成～21 成桂と、巧妙な桂の三段活用で玉を 21 に移動させ、32 角成と飛び込む。

33 金、31 玉と拠点を作れば、今度は 23 桂～11 桂成～21 成桂の三段活用から、12 角成と飛び込む。

桂打～桂成～成桂寄～角成捨てという一連の手順が、2 筋を軸に左右反転して繰り返されるのである。

これほどまでにシンプルながら、味のある手順。詰将棋にはまだまだこのようなネタが眠っているものなのだ。

【解答者コメント】

「桂の連続打ち成り捨てのリズムがいい」
 「桂馬の動きがユニーク。」

第69番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						香			▲持駒
				角		皇		王	銀桂三香二
						龍	歩		
					馬				
							香	香	

serisiu 作 No.2099『銀のフタ開閉』

14 香、①同銀、13 香、同玉、22 銀、12 玉、24 桂、同銀、
 23 龍、同玉、35 桂、同銀、34 角成、同香、33 馬、12 玉、
 24 桂、同銀、13 歩、同銀、11 銀成迄 21 手。

①13 桂合は 21 銀、同玉、23 龍、22 歩合、同馬、同銀、33 桂、同香、
 43 角成、11 玉、12 香迄。

桂香が豊富な持駒から、軽快な打捨ての展開が予想される。

まずは 14 香が退路封鎖の手筋。13 合は 21 銀、同玉、23 龍以下①
 の順で早詰(桂合以外は同香成でも詰む)。従って同銀に、13 香～22
 銀と据えるまでが序章。

7 手目 11 銀成は同玉なら詰むが、13 玉で逃れ。ここは 23 龍と切る
 展開となるが、すぐに 23 龍は同銀で 13 歩が打歩詰なので、24 桂、同

銀を入れてから23 龍を実行するのが巧い回避手順。

35 桂～34 角成の好手順で香を吊り上げ、33 馬と入れれば見慣れた形。2 度目の打歩詰打開の 24 桂捨てが登場し、スッキリ清涼詰となる。

全体を通して軽快な手順の中で、15 銀が 24～35～24～13 と 4 度も動く。相変わらず巧く作るものだが、作者にとっては朝飯前だろう。

【解答者コメント】

「詰パラ本誌でも好作連発の作者、レベル高いです。流石。」

「綺麗に決まった」

第 70 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一 ▲持駒
							飛		二 角
			角		馬				三 桂
						歩			四 三
									五
							金		六
						銀	香	金	七
									八
									九

下谷曲希 作 No.3112 『帰るのは来た道』

23 桂、22 玉、11 角、12 玉、24 桂、13 玉、25 桂、14 玉、
15 金、同玉、16 金、14 玉、13 桂成、同玉、12 桂成、同玉、
22 角成、同玉、31 角成、12 玉、11 桂成、同玉、22 香成迄 23 手。

初手 23 桂に 22 玉と飛を取った局面で、26 金が香筋を塞ぐ邪魔駒となっている。これを消去する手順が本作の見所。

11 角と据え、12 玉に 24 桂・25 桂と連打。25 桂に対し、同桂は 31

角成、24 玉、25 金で簡単なので 14 玉となり、2 筋に桂が 3 枚並んだ形となる。

15 金捨てから 16 金が感触の良い突き出し。取れば 26 角成迄なので 14 玉と引く一手だが、13 桂成～12 桂成～22 角成と、連打した駒を順番に成り捨てていき、玉を元の位置に戻してやる。これで目的の 26 金消去に成功。

最後は初手に打った 23 桂も成り捨て、還元玉の詰上り。

桂・角・桂・桂と連打して並べた後、それを順番に捨てていく積み崩し手順が華麗に決まった。

【解答者コメント】

「手持ち三桂の直列打ちからの成り捨てコンプリート」

「神趣向！！だけどここに出すのは些かもったいない気が……」

「桂馬が並んで消えて面白いです。」

第 71 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩	歩	王	▲持駒
					歩			歩	二
			歩						三 金
									四 銀
							桂		五 銀
									六 四
									七
									八
									九

かんかんのう 作 No.3141『ブルジョワ攻め』

22 銀、同歩、21 金、同玉、32 銀、同歩、31 金、同玉、
41 歩成、同玉、52 銀、31 玉、42 銀、同玉、43 金、31 玉、

41 銀成、21 玉、33 桂生、同歩、31 成銀、同玉、32 金打迄 23 手。

小駒図式+持駒金銀8枚のダブル趣向で、美しさを感じる初形。

まずは穴熊に籠もった玉を引きずり出すしかない。22 銀～21 金、32 銀～31 金と、歩を吊り上げて空けたスペースに金を捨てる手順を連続で行う。途中、22 銀や 32 銀を玉で取れば、33 銀から数の攻めで簡単。

41 歩成～52 銀と打ち換え、42 銀～43 金と据えれば詰み形。

41 銀成、21 玉に 33 桂生と気持ち良く飛び跳ねてスペースを空け、31 成銀が決め手。52 に打った銀が、41～31 の三段活用で消える。

ほぼ必然手の連続だが、金銀を次々と捨てていく手順は正に快感。金銀8枚の持駒趣向で、こんなにシンプルで美しい図がまだ残っていたとは。

【解答者コメント】

「お金持ち vs 貧乏人」

「13 手目、苦戦しました。」

第 72 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀	銀				▲持駒
							歩	王	飛
			馬						
					飛			桂	
						弓			
						角			

munetoki 作 No.2935 『主軸の駒は誰だ』

11 飛、23 玉、32 銀生、同玉、31 飛成、同玉、41 馬、同金、
21 歩成、32 玉、54 角、33 玉、43 角成、23 玉、22 と、13 玉、
12 と、同玉、21 馬、同玉、41 飛成、12 玉、21 龍、同玉、
22 金迄 25 手。

初手は 11 飛はこうするしかないところで、同玉は 21 歩成～24 飛で簡単なので 23 玉。

続く 32 銀生もほぼ必然手で、同玉に 31 飛成が一度打った飛を捨てる気持ちの良い一手。

41 馬と捨てて金を質駒にしてから 21 歩成が好手順。同玉は 41 飛成なので 32 玉と躲すが、54 角、33 玉、43 角成、23 玉、22 と、13 玉、12 と、同玉とグルっと一周したところで、21 馬と飛び込めば、結局 41 飛成が実現し、最後に龍も捨てて頭金の清涼詰。4 枚あった攻方の大駒は全て消え去る。

スマホ詰パラで発表作品数最多の作者。清涼詰を好んで創作されており、解后感に胸がときめくのである (munetoki 氏だけに)。

【解答者コメント】

「ああ、大駒全捨てだったか…」

「思った以上に駒が捌ける、素晴らしい。」

第74番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
								銀	銀
			飛			桂	王		桂
							銀		歩
					銀	馬			
				桂					
					角				

munetoki 作 No.3052『優駿対決』

15 桂、22 玉、23 歩、①31 玉、32 銀、同玉、44 桂、31 玉、
 32 桂成、同玉、65 角、31 玉、22 歩成、②同馬、23 桂生、同馬、
 21 角成、42 玉、43 馬、31 玉、61 飛成、22 玉、11 龍、同玉、
 21 馬迄 25 手。

①同馬は同桂成、同玉、14 角打、12 玉、13 銀、同玉、21 桂成、12 玉、
 23 龍迄。

①11 玉は 61 飛成、21 歩合、同桂成、同馬、22 銀、12 玉、21 龍迄。

②同玉は 21 桂成、同馬、23 桂成、11 玉、21 角成、同玉、43 角、11
 玉、61 飛成迄。

まず 15 桂～23 歩と据える。23 歩に対し、同馬は同桂成、同玉、14
 角打以下、11 玉は 61 飛成以下それぞれ詰むので 31 玉(変化①)。

遠く離れた 47 角を活用したいところ。32 銀、同玉となったところで
 56 桂がいかにも邪魔駒。44 桂～32 桂成の二段跳ねで味良く消去し、
 65 角と出る。尚、44 桂に同銀は作意同様に 2 手早くなる。

22 歩成～23 桂生と捌いて馬を翻弄するのが好手順。22 歩成に同
 玉は 21 桂成以下②の順で詰む。序の 4 手で打った歩・桂を連続で捨

てるのは巧い構成だ。

21 角成～43 馬と位置変更し、61 飛成～11 龍が鮮やかな決め手。
作者得意の清涼詰となる。

繊細な手順が美しく、逆算センスが光る佳作。

【解答者コメント】

「平凡な流れから一転、気持ちいい収束。星5つ」

「桂馬と馬のパズル、飛車の成り時も含みか」

第75番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	▲	一 持駒
					銀				二 桂
						銀	王		三 三歩
			龍	馬		銀	王		四
									五
									六
									七
									八
									九

munetoki 作 No.3136『実戦形だと思った？詰将棋でした』

23 桂、12 玉、22 銀成、①同玉、31 銀生、12 玉、11 桂成、②同玉、
22 銀成、③同角、12 歩、同玉、23 銀成、④11 玉、12 成銀、同玉、
24 桂、23 玉、35 桂、33 玉、32 桂成、同玉、43 龍、31 玉、
23 桂生迄 25 手。

- ①同角は 11 桂成、同角、23 銀成、同玉、35 桂、12 玉、24 桂、22 玉、
33 銀成、同玉、32 桂成、同玉、43 龍、31 玉、32 歩、22 玉、23 龍迄。
- ②同角は 23 銀成、同玉、35 桂、33 玉、25 桂、32 玉、52 龍、31 玉、

43 桂生迄。

⊙同玉は 52 龍、32 歩合、34 桂、11 玉、12 歩、同玉、32 龍以下。

⊖同玉は 35 桂、33 玉、45 桂、42 玉、43 桂成、31 玉、51 龍、41 合、42 成桂迄。

実戦型から香が動いた形で、斜めに 3 枚並んだ銀が印象的。

初手 22 銀成は同角なら続くが、同玉で不詰。しかし 42 銀がなければ 52 龍、32 歩合、34 桂、11 玉、12 歩、同玉、32 龍以下詰む。この銀は邪魔駒なのだ。

そこで一旦 23 桂と打ってから、22 銀成～31 銀生と繰り替え、11 桂成と捨てて玉を初形位置に戻してやるのが好手順。それから 22 銀成とすれば、42 銀が原型消去された形となり、同玉は前述の 52 龍以下の順で詰む。従って同角と取るよりない。

ここまでの手順、44 角の守備が利いているため、22 銀成や 11 桂成が焦点捨てとなっており、通常の捌きよりも格段に手触りが良くなっている。また、それに伴う変化も面白く、特に④の変化は是非並べていただきたい。

この先も好手順が続く。12 歩、同玉となったところで、23 銀成～12 成銀の押し売りで味良く邪魔駒消去。以下、桂を巧みに活用して手を繋ぎ、吊るし桂の清涼詰となる。

【解答者コメント】

「いつもながら爽やかな作品ですね」

「流麗な手順が続きます ♪」

「最後が桂馬跳ねとは。」

「これはよく捌けて素晴らしい！」

第76番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				角	角		馬		▲持駒
									二
						馬	馬	王	三 飛銀桂三歩
									四
					王			歩	五
									六
									七
									八
									九

天の川 作 No.2347『1三にいる魔物』

14 飛、22 玉、34 桂、同歩、13 飛成、同玉、25 桂、①12 玉、24 桂、同歩、13 桂成、同玉、14 歩、12 玉、13 歩成、同玉、14 銀、12 玉、23 銀成、11 玉、33 角成、同桂、12 歩、21 玉、32 角成迄 25 手。

①22 玉は 14 桂、12 玉、13 銀、同桂、23 角成、同玉、33 馬、12 玉、22 馬迄。

初手は 14 飛しかないところで、22 玉に 34 桂捨てを一発入れ、13 飛成が好手。同桂は 14 桂なので同玉となり、初形から 33 歩を 34 に吊り上げたことになる。51 角を 24 まで利かせたわけである。

7 手目 14 銀は 12 玉、23 銀成、11 玉で続かない。12 歩が打てれば 33 角成～12 歩で詰むのだが、二歩禁で打てないのだ。

そこで 25 桂、12 玉、24 桂、同歩、13 桂成、同玉と、桂を巧く活用して 23 歩を 24 に吊り上げるのが好手順。この効果で角が 14 まで利いてくるので、14 歩～13 歩成の原型消去が成立するのだ。

これにより 14 銀以下、33 角成と捨てて打歩詰を打開し、念願の 12 歩が実現して詰みとなる。

二歩禁解消の狙いが明確に表現されていて好感が持てる。しかも単に歩を原型消去するだけでなく、そのために角筋を通す一工夫が必要なところが面白い。序章の6手も狙いの部分と調和してテンポが良く、センス溢れる佳作。

【解答者コメント】

「二歩禁回避の隠し味がよい」

「13の捨駒3回とすっきりした収束。傑作です！」

「二歩と打ち歩詰め解消で、上手くまとまっていますね。」

第77番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲
					将				持駒
			角	王		桂	皇		金
			歩	歩	歩	歩	歩		銀
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

もラン 作 No.2828『御馬が通る』

52銀、33玉、43金、22玉、33銀、12玉、21銀、23玉、
 32銀上生、22玉、33金、同玉、43銀左成、22玉、23銀成、同玉、
 41角成、22玉、33成銀、11玉、12銀成、同玉、23馬、11玉、
 22成銀迄25手。

初っ端から52銀・43金・33銀とベタベタ三連打。詰将棋らしからぬ重い出だした。

続く21銀も取れば簡単なので23玉となり、32銀上生で盤上に金銀4枚が連結した形。

ここからは一転して軽快な捌きとなる。33金～43銀成と、邪魔な52銀を消去し(実際に消えたのは金だが)、23銀成～41角成で詰み形。

33成銀～12銀成が決め手の好手順で清涼詰となる。

重く打ってから軽く捌く積み崩しが見事な作品。

【解答者コメント】

「重く打った駒が全部捌ける」

「金駒の捌きが見事ですね。」

第78番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲持駒
						銀			二
						銀			三
			銀			飛	角		四
							と		五
					王				六
						歩	銀		七
		馬		香	銀				八
									九

幻想咲花 作 No.2570 『W桂跳ね』

- Ⓐ47銀、①同玉、ⓐ38銀打、46玉、45馬、同玉、36銀、46玉、
- Ⓑ44飛、ⓑ同飛、47銀引、45玉、23角成、ⓓ34桂合、36銀、46玉、
- 13馬、24桂打、47銀引、45玉、46歩、同桂、36銀、同桂、
- 35馬迄25手。

①37玉は38銀左、28玉、29歩、39玉、28銀打迄。

- ㊸58 玉は 54 飛、57 歩合、68 飛、59 玉、57 飛迄。
- ㊹同桂は 47 銀引、45 玉、23 角成、34 桂合、46 銀、同玉、24 馬以下。
- ㊺34 銀合は 36 銀、46 玉、35 銀、45 玉、34 馬、同歩、46 銀打迄。
- ㊻34 歩は 36 銀、46 玉、35 銀、45 玉、34 馬、同飛、同銀以下。
- ㊼47 歩は 37 玉、38 銀打、28 玉、29 銀打、39 玉で不詰。
- ㊽35 銀は 45 玉、23 角成、34 桂合で不詰。

初手 47 歩は 37 玉、38 銀打、28 玉で駄目なので、47 銀が正解。同玉に 38 銀打と据え、㊸の変化を読んで 46 玉と決まれば、舞台作りは完了。

45 馬と豪快にダイブし、36 銀から銀を活用していく。

46 玉に 35 銀や 47 銀引は 45 玉で、46 歩が打歩詰。以下、23 角成としても 34 桂合で詰まない。

ここは 44 飛、同飛と捨ててから、47 銀引とするのが好手順。45 玉、23 角成、34 桂合となった時、飛捨ての効果で 44 の地点が塞がっているのがポイント。

36 銀～13 馬が継続手段で、24 桂合を取らずに 47 銀引として玉を 45 に戻してやれば、合駒で発生した 34 桂が取歩駒になっていて 46 歩が打てるのである。23 角成からの一連の手順の目的は取歩駒発生、即ち森田手筋だったわけだ。

以下、36 銀捨てが決め手で、同桂、35 馬迄(24 桂合は 36 銀を取るため)。合駒で発生した 2 枚の桂が最後に揃って動くところが面白い。

尚、14 手目 34 桂合のところで銀合や歩移動合は、36 銀～35 銀と位置変更する好手順で早詰(変化㊺)。作意・変化共に銀の動きも本作の見所の一つである。

【解答者コメント】

「どこまでも続く打ち歩状態。」

「これはおもしろい。森田手筋の発展形。」

第79番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	▲持駒	
							香	金	
				香		香	香		
			香	香	馬				
					龍	香	桂		
					馬	桂			

やきのり 作 No.2505『キャッチ・アンド・リリース』

23 桂生、同飛、21 金、①同玉、43 馬、同飛、23 香、同飛、
 54 馬、43 香合、同馬、同飛、22 香、同玉、23 香、同飛、
 14 桂、21 玉、32 金、11 玉、22 金、同飛、31 龍、21 飛、
 22 桂成迄 25 手。

①同飛は 12 馬、同玉、32 龍、22 金合、24 桂以下。

まずは 23 桂生と金を奪い、21 金が好手。同飛は 12 馬、同玉、32 龍で詰むので同玉。

43 馬、同飛と香を入手したところで、22 香は同玉で足りない。そこで 54 香の質駒に目を付けて 23 香捨てから 54 馬とする。43 香合(他合は同馬で簡単)を奪うことで、もう 1 枚香を稼げるわけだ。この辺りは剥がし趣向の味。

入手した 2 枚の香は 22 香～23 香の連続短打で使い、上部を封鎖して 14 桂と跳ねれば詰み形。

32 金～22 金と滑らせるのが好手順で、同飛に 31 龍～22 桂成迄の詰み。詰将棋は駒が余ってはいけないので、最終 2 手の応手は 21 飛の移動合となる。

手順を眺めれば、守備駒の飛が21→23→43→23→43→23→22→21と、実に7回も動いて元の位置に戻ってくる。特に中盤の香剥がしで23～43を2往復するあたりは圧巻。

攻方の着手は駒取りが目立つが、守備駒の運動性という観点ではなかなか面白い作品である。

【解答者コメント】

「飛車のスイッチバックに飛車の詰めあがり。星5つ」

「面白い趣向 詰め上がりもなかなか」

第80番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					馬			皇	一 ▲持駒
				と	受		歩	王	二
									三 なし
				香		飛			四
				飛					五
								香	六
					角				七
									八
									九

やきのり 作 No.2976『取る打つ跳ねる』

Ⓐ14 飛、①13 桂合、同飛成、同玉、15 飛、Ⓔ14 香合、Ⓑ同飛、同桂、25 桂、Ⓒ12 玉、56 角、21 玉、24 香、23 歩合、同香生、12 玉、22 香成、同玉、23 角成、21 玉、32 馬引、同金、33 桂生、同金、22 歩、31 玉、41 と迄 27 手。

①13 香合は同飛成、同玉、14 香、24 玉、42 馬以下。

Ⓔ14 桂打は25 桂、12 玉、14 飛、同桂、56 角、21 玉、33 桂打以下。

- ㊤14 銀合は 25 桂、12 玉、14 飛、21 玉(同桂は 56 角、21 玉、13 桂生、同香、12 銀、22 玉、23 角成迄)、11 飛成、同玉、13 香以下。
- ㊤24 玉は 42 馬、35 玉、36 金、44 玉、33 馬迄。
- ㊤15 飛は 13 桂合、同飛成、同玉、25 桂、12 玉で不詰。
- ㊤25 桂は 12 玉、14 飛、21 玉、11 飛成、同玉、13 香、21 玉で不詰。

初手 15 飛は 13 桂合、同飛成、同玉、25 桂、12 玉で逃れ(桂合以外は詰む)。14 飛とこちらの飛を寄るのが好手で、同桂は 42 飛成で金が手に入る。従って合駒するよりないが、香合は同飛成、同玉、14 香で詰むので桂合が最善。

同飛成、同玉、15 飛で 2 度目の合駒読み。桂合は 25 桂、12 玉、14 飛、同桂、56 角、21 玉、33 桂打以下、銀合は 25 桂、12 玉、14 飛、21 玉、11 飛成、同玉、13 香以下それぞれ早詰(変化㊤)。これらの変化を読み切って香合に決まる。

7 手目 25 桂は 12 玉、14 飛に 21 玉と潜られ、以下、11 飛成、同玉、13 香、21 玉で逃れ。先に 14 同飛と取ってから 25 桂が正解で、桂合や銀合の変化㊤とは手順が逆になるので要注意だ(変化㊤で先に 14 同飛は詰まない)。

56 角、21 玉と追い詰め、24 香は限定打。対して 23 歩の中合が登場する。これは同香生～22 香成とするよりなく、普通に 22 歩合とするよりも 2 手長くなるわけだ。

以下、23 角成、21 玉で打歩詰の局面となるが、32 馬引～33 桂生の好手順で打開して詰み。

前半は合駒を次々とパクる手順で感触は良くないが、桂香歩の小駒 3 種の合駒が出揃うところが面白い。収束は一転して鮮やかに決まり、解後感は良好だ。

【解答者コメント】

「極めて難解。この形式でないと合い駒で相当悩みそうです」

「桂香歩合い、しかも中合いもか…」

第81番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							桂		▲持駒香
							と		二
					銀	銀		王	三
				馬					四
							馬	角	五
				王					六
				龍					七
				龍					八
									九

木村隆 作 No.1847『邪魔者は消せ、その後・・・』

Ⓐ16香、24玉、15角、14玉、37角、24玉、28龍、①26桂合、同龍、同馬、36桂、同馬、15角、14玉、48角、24玉、57角、46馬、同角、同銀、13角、同桂、25歩、同桂、23銀成迄27手。

①同飛成は15角、14玉、48角、25玉、57角、46歩合、25歩、同龍、23銀成迄。

Ⓐ17香は24玉、15角、14玉、37角、24玉、28龍、同飛成、15角、14玉、48角、17龍で不詰。

本作はスマホ詰パラから看寿賞候補に挙がるという快挙を成し遂げた傑作である。当時のスマホ詰パラはまだ発展途上だったこともあり、一部で話題となった。

まずは香を打つしかないところ。15～19まで5ヶ所の打場所があるが、15香は24玉で続かない。よって16～19のいずれかということなるが、非限定かもしれないし、とりあえず16香(仮)として進めよう。

15歩合は同香、24玉、25歩、同馬、23銀成迄なので24玉。一歩手に入れば25歩で簡単に詰むというわけだ。

そこで歩を入手する手段を模索すると、57との配置に目が行く。即ち、15角～48角～57角のルートでと金を奪えないものか。

そのためには48龍が邪魔駒。そこで15角～37角と位置変更し、28龍と捨てるのが好手順。26桂合が巧い延命手段だが、同龍、同馬に36桂と捨てれば、48龍の原型消去が見事に実現される。

15角～48角と再度位置変更し、57角で念願の歩の入手に成功。これに対し、玉方は46馬の移動合が妙防。取歩駒を逃げておいて25歩を打歩詰に誘導しようというわけだ。常套手筋だが、こんなところで登場すると嬉しくなる。

以下、奪った角を13角と捨てて打歩詰を打開して幕。

邪魔駒消去を絡めた2度の角の位置変更し、移動合まで登場し、見事な内容で詰んだ。

しかしまだ解明されていない謎が残っている。初手は16香(仮)として進めたが、結局非限定だったのだろうか？

その答えは④の変化に隠されている。28龍を同飛成と取ったことにより、龍が1筋に利いてくるのだ。即ち、香が17～19のいずれかの地点に居れば、48角と開き王手をした際に、根元の香を抜かれて詰まないで、初手は16香が限定打だったのだ。ただでさえ面白い手順に、変化伏線の限定打まで織り込むとは。

全体を通して隙がなく、スマホ詰パラを代表する傑作の1つである。

【解答者コメント】

「ちゃっかりしてる、けど手順に抜け目ないのがいい」

「大駒を捨てて一歩を手に入れる手がすごい。文句なし星五つ。」

「難しかった。角の動きが面白かったですね。」

「詰将棋のあらゆる要素が絶妙に織り込まれた大作。脱帽です。」

「甘く見ていた。なんだこのクオリティ」

「傑作！邪魔駒消去に中合い、移動合に打ち不解消と盛りだくさん(原文ママ)」

「楽しくて凄くて言葉が出ない。」

「このアプリ随一の大作」

第82番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	料					飛			一 ▲持駒
	王	香			馬				二
歩	香								三 銀
	角	歩		皇	桂				四 桂
飛	王	香							五
									六
									七
									八
									九

世阿弥 作 No.3226 『形状記憶銀冠』

94 桂、同銀、81 飛成、同玉、92 歩成、①71 玉、83 桂、同銀、82 と、②同玉、93 飛成、71 玉、82 銀、③61 玉、91 龍、④71 桂合、同銀成、同金、53 桂、同角、51 角成、同玉、71 龍、42 玉、31 龍、同玉、32 金迄 27 手。

- ①同玉は 94 飛、81 玉、73 桂、71 玉、61 桂成、同玉、91 飛成、71 金、52 銀、72 玉、73 角成迄。
- ②同金は 91 飛成、81 桂合、62 銀、72 玉、73 歩成、同桂、71 龍、63 玉、73 角成、同金、同龍迄。
- ③同金は同龍、同玉、73 歩成、71 玉、93 角成、61 玉、62 金迄。
- ④71 香合は同銀成、同金、63 香、72 玉、73 角成迄。

やや乱れているが、銀冠の陣形図式とっていいだろう。

まず 94 桂捨てで形を崩し、81 飛成と切るのは実戦的な導入。

94 銀を質駒に見て 92 歩成はこうするところで、同玉は①の通り早詰。71 玉と躲すが、83 桂～82 とが軽妙な連続技。同金は 91 飛成、81 桂合、62 銀以下②の順で詰むので同玉。一旦崩れた銀冠の形が再構築されるのが面白い。

93 飛成～82 銀と精算を狙う。それには応じず、61 玉から右辺への逃亡を図るが、91 龍と追撃。桂合が最善の粘りだが、取ってすぐに53 桂と捨て、バツサリと51 角成が気持ちの良い送りの手筋。

金を入手し、最後は龍も捨てて頭金の詰上りとなる。まさかこんなところで詰むとは、初形からは予想できない。

軽快作の印象が強い作者としては異色の実戦型だが、収束の切れ味は健在である。

【解答者コメント】

「桂合からが分からなくて苦戦した。」

「桂と交換する遠い飛の位置で詰むとは…」

第 83 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						皇	王	皇	一 ▲持駒
									二 駒
								皇	三 桂
						角			四 二
						桂	角		五 香
									六
									七
									八
									九

やきのり 作 No.2453 『鶯の手遊び』

23 香、22 桂合、同香成、同玉、33 角成、21 玉、13 桂生、12 玉、
 24 桂、13 玉、12 桂成、同玉、14 香、13 歩合、同香成、同玉、
 14 歩、12 玉、24 桂、21 玉、13 桂、同香、12 桂成、同玉、
 13 歩成、同玉、14 香、同玉、24 馬迄 29 手。

使用駒が角桂香のみで清涼感のある初形。

初手 23 香に対し、玉方は最も取られても使えない合駒をすることになるが、歩合は同香成、同玉、33 角成、21 玉となった時、22 歩が打てるので桂合に決まる。

33 角成～13 桂生と香を奪い、12 玉で跳ねた桂がすぐに邪魔駒。24 桂～12 桂成と軽く消去し、14 香で 2 度目の合駒読みとなる。桂合は同香成、同玉、25 桂、12 玉、24 桂、21 玉、13 桂打で精算して詰むので歩合が最善。

同香成、同玉に 25 桂は 12 玉、24 桂、21 玉で打歩詰の局面となり失敗。ここは 14 歩として桂を温存しておく。

24 桂 ～13 桂～12 桂成と巧く桂を使って香を質駒にし、13 歩成～14 香で詰み。

派手さはないが、小駒の心地良い捌きが味わえる作品。

【解答者コメント】

「繊細な手順。」

「日本に古来より伝わる風流な川の流れや松の成長を見ているようだ」

第 84 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					笛				▲持駒
							王		二
									三 飛角
							爵	爵	四 金
							琴	飛	五 三
									六 銀
									七 二
									八
									九

Ⓐ13 銀、①同玉、43 飛、Ⓣ23 馬、12 金、同玉、14 飛、Ⓧ同馬、
34 角、同金、23 銀、同馬、21 銀、13 玉、23 飛成、同玉、
32 角、33 玉、43 金、22 玉、12 銀成、同玉、23 金、11 玉、
21 角成、同玉、32 金左、11 玉、22 金寄迄 29 手。

①同銀は 33 銀、同玉(11 玉は 21 金、同玉、32 金、同馬、同金、同玉、
35 飛、33 歩合、31 飛、同玉、33 飛成以下、12 玉は 42 飛、同馬、
22 金、同銀、23 角、同玉、24 金、12 玉、14 飛以下)、35 飛、34 銀
合(他合は 44 金、同玉、45 飛打、53 玉、71 角、62 歩合、43 金、63
玉、65 飛以下)、53 飛、43 桂合(他合は 44 角、同玉、55 飛成、33
玉、34 飛、同玉、35 銀、23 玉、24 銀、32 玉、33 金打、21 玉、22 金
打以下)、34 飛、同玉、54 飛成、44 銀合(他合は 45 角、33 玉、34
金、22 玉、33 金打以下)45 角、33 玉、43 龍、同玉、54 銀、33 玉、
43 金、24 玉、16 桂、25 玉、26 金、同玉、27 金、25 玉、26 金打迄
27 手。

①32 玉は 21 角、31 玉、22 銀打、42 玉、72 飛以下。

①33 玉は 53 飛、43 歩合、11 角、34 玉、43 飛成、同玉、44 金以下。

Ⓣ33 歩合は 12 金、同玉、21 銀、23 玉、12 角、22 玉、23 金以下。

Ⓧ13 金合は 21 銀、同玉、31 金、同玉、42 金、22 玉、31 角、11 玉、
22 銀以下。

Ⓐ12 金は同玉、14 飛、13 金合で不詰(金合以外は詰む)。

本作は変化の複雑さという意味ではスマホ詰パラで 1、2 を争う難解
作だと思ふ。何せ柿木将棋が解けないのだから。

まず初形に注目。盤面・持駒合わせて飛角金銀 13 枚。即ち、桂香
歩以外の全ての駒を使用している。気付きにくいのが、意外と珍しい初
形条件ではないだろうか。

さてどこから手を付けようか。14 銀を質駒に見て 12 金も考えられる
が、同玉、14 飛、13 金合でうまくいかない。ここは 13 銀から入るのが

正解なのだが、対する変化が恐ろしいほどに難解。

④を見よ。特に同銀の変化はあまりにも複雑すぎて狂気さえ感じてしまう。超人でもない限り、この莫大な変化を全て読み切るのは至難の業。スマホ詰パラの玉方の応手を自動的に指してくれる仕様にこれほど有り難みを感じるものはないだろう。

同玉と決まればだいぶ解きやすくなるが、それでもまだ簡単ではない。43 飛が 41 馬を射程に捉えた限定打。安易な合駒では 12 金、同玉、21 銀、同玉、41 飛成で詰むので、この順で馬を取られないように 23 馬の移動合で応戦する。

これには 12 金～14 飛と切って銀を入手。⑤の変化を読んで同馬に決まったところで、34 角が予め逃げ道を封鎖しておく好手。これを省いて進めると、後に 34 から脱出されてしまう。

ここまで来れば易しい。23 銀～21 銀と巧く銀を使って一間龍を狙う。13 玉と躲すが、23 飛成と切り、32 角～43 金と包囲して詰み形。

最後は銀・角と捨てて 2 枚金の清涼詰となる。長いトンネルを抜けた先には絶景が広がっていた。

超難解作だが手順そのものは美しく、ただ難しいだけの作品ではない。飛角金銀全駒使用の条件を満たすための初手も、莫大な変化を伴う中でよく成立したものだ。

【解答者コメント】

「駒数の少なさ、変化、手順、収束どれをとっても良い。名作。」

「34 角が光る」

「よくこの初手がはいつたもの。」

「初形、手順、趣向、すべてにおいて完璧。星 5 つ」

「これは凄い！二度の限定打が絶妙の傑作。」

「全てを読み切るのは至難の業だが傑作であることに違いはない」

第85番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	争	▲持駒
									二
									三
									四
									五
									六
						銀			七
						龍			八
						香		継	九

かんかんのう 作 No.2213『散財手順の31手』

32 金、①12 玉、22 金打、13 玉、23 金打、14 玉、24 金打、15 玉、
 26 銀、同玉、37 龍、15 玉、25 金、同玉、36 龍、14 玉、
 24 金、同玉、35 龍、13 玉、23 金、同玉、34 龍、12 玉、
 22 金、同玉、33 龍、12 玉、24 桂、21 玉、32 龍迄 31 手。

①同玉は 46 銀、42 玉、33 龍以下。

37 銀が龍香ロケットを邪魔している形。

①の変化を読んで初手 32 金が取れないと分かれば考えどころはなく、楽しい趣向が始まる。

金を 2 筋にベタベタと連打して中段まで追い、26 銀と捨てれば、今度は一転して先程打った金を捨てながら、龍が一段ずつ上がっていく。

最終的に金は全て捨て去って還元玉の詰上り。30 手かけた趣向手順で初形から 37 銀の消去が実現される(24 桂が発生している違いはあるが)。

特に斬新な趣向ではないが、盤面たったの 6 枚で成立しているところに存在価値は十分あると思う。

【解答者コメント】

「小さい縦型の朝霧みたい。」

「竜の各駅停車 ♪」

第 86 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					銀		香	馬	▲持駒
						皇		群	二
					飛	角	王	香	三
						皇			四 香歩
									五
									六
									七
									八
									九

大橋宗角 作 No.1341 『飛び出す桂香』

Ⓐ29 香、㊦27 桂合、32 銀生、14 玉、Ⓑ19 香、Ⓒ17 桂合、同香、25 玉、15 角成、35 玉、36 歩、同玉、48 桂、35 玉、25 馬、同玉、27 香、Ⓓ26 桂合、45 飛成、35 金合、37 桂、24 玉、26 香、同金、36 桂打、同香、同桂、同金、25 香、33 玉、23 銀成迄 31 手。

㊦14 玉は 15 角成、同玉、13 飛成、14 歩合、16 歩、同玉、14 龍、15 飛合、17 歩、同玉、15 龍以下。

Ⓒ16 桂合は 23 銀生、同玉、27 香、25 香合、35 桂、同香、11 角成以下。

Ⓒ25 玉は 45 飛成、26 玉、25 角成迄。

Ⓓ26 香合は 45 飛成、35 金合、37 桂、24 玉、26 香以下。

Ⓐ28 香も可。非限定。

Ⓑ18 香も可。非限定。

この形でこの持駒であれば、まず 29 香と遠打してみるどころ。対して 14 玉は 24 角成、同桂、15 歩、同玉、13 飛成以下㊦の順で早詰。そこで中合が登場する。その位置は 25 や 26 では 32 銀生、14 玉、16 香で簡単。また、頭に利く合駒は同香から 15 に打って詰み。よって 27 桂合限定となる。

32 銀生と香を入手し、14 玉に 19 香とまとも遠打。25 玉は 45 飛成、26 玉、25 角成迄なので、ここでも中合が登場する。最も取られて困らない桂合となるが、16 桂合は 23 銀生、同玉、27 香以下㊧の順で詰むので、17 桂合が最善。これで 1 筋・2 筋共に桂香がぶつかり合った珍形が現れる。

同香以下中段で追う展開となり、これで良いのかと不安な気分させられるが、数手進んだところで 25 馬捨てが登場し、なんとかかまとまりそうだ。

27 香に 26 桂合、45 飛成に 35 金合の合駒ブロックが出現。12 玉の形でよくある 13 桂合・22 金合の収束形とほぼ同じ原理である。

以下、36 桂打から精算して 25 香で詰み。

右上 4×4 の箱庭に収まった初形が、詰上りでは 4×8 にまで拡大する。最初は何もなかった中段が舞台になるという意外性がある作品。

作者の狙いは初手 29 香の最遠打だったようだが、残念ながら 28 香でも詰む。28 香、14 玉となった局面で、15 角成では詰まないが、24 角成とする手があり、同桂、15 歩、同玉、13 飛成、14 飛合、16 歩、同桂、14 龍、同玉、24 飛以下詰み。よって初手は非限定である。尚、32 香を成香にすれば 29 香に限定できるようだ。

【解答者コメント】

「過去最難解作品では。モバイルでなければ何日かけても解けなかったと思う…」

「完全にファンタジー。谷川九段を思わせる作風」

「凄すぎて言葉も出ない。」

第 87 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					銀		王		▲持駒
					桂			王	金
			馬		馬			桂	三
							香		銀
									二
									香
									歩
									六
									七
									八
									九

munetoki 作 No.3190『やはり金がいなければ駄目だろう』

23 金、①同玉、32 銀、㊦12 玉、23 金、同香、21 銀打、13 玉、
 16 香、㊧15 歩合、同香、同銀、23 銀成、同玉、26 香、㊨同銀、
 24 歩、同玉、25 金、13 玉、14 歩、22 玉、32 馬、11 玉、
 12 銀成、同玉、13 歩成、同玉、14 金、12 玉、23 金、11 玉、
 22 金迄 33 手。

①同香は 21 銀、13 玉、15 香、同銀、22 銀以下。

㊦13 玉は 14 歩、同玉、15 香、同玉(同銀は 25 金、同香、23 銀打、
 24 玉、34 金、13 玉、12 銀成、同玉、23 金、11 玉、33 馬迄)、16 金、
 14 玉、25 銀、13 玉、24 銀、同玉、25 金、13 玉、14 銀、12 玉、13 金、
 11 玉、21 銀成、同飛、12 香迄。

㊧15 桂合は同香、同銀、23 銀成、同玉、35 桂、13 玉、12 銀成、同玉、
 23 金、11 玉、12 香迄。

㊨24 歩合は 33 金、13 玉、14 歩、同玉、32 馬、13 玉、23 馬迄。

㊩25 歩合は 32 銀生、12 玉、23 金、11 玉、33 馬迄。

初手 23 金か 23 銀か悩ましいところだが、作意を追えば分かる通り、
 銀を 2 枚残しておく必要があるので、23 金が正解。

3 手目 32 銀に対し、13 玉の変化は読まされるが、14 歩、同玉、15 香、同玉、16 金以下㊦の順で早詰。従って 12 玉となり、23 金捨てから 21 銀打と据えるまでが序章。

9 手目は 16 香でも 17 香でも良く非限定。玉方は最も取られて困らない合駒となるが、15 桂合は同香、同銀、23 銀成、同玉、35 桂以下㊦の順で詰むので、歩合が最善。

23 銀成、同玉と香を入手したところで、26 香の限定打が眼目の好手。25 への中合は 32 銀生で詰むので効かないのだ。

よって同銀に、24 歩～25 金と拠点を作り、以下は捌きの収束。序盤に打った 21 銀も教科書通りしっかり捨て、いつもの清涼詰となる。

よく手が続く逆算は相変わらずだが、序盤の難解な変化や見えにくい 26 香など、いつもの作者の作品より詰まし難い印象である。

【解答者コメント】

「26 香と揃えたいから、16 香の方が好き」

「終盤の捌きが心地良い」

第 88 番

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		銀	香				銀	香	王	一 ▲持駒
	香							歩		二 飛
										三 角
							香			四 歩
										五
					香					六
										七
										八
										九

木村隆 作 No.2105 『玉の放浪』

21 歩成、同玉、㊤54 角、㊦43 桂合、23 飛、31 玉、32 歩、41 玉、43 飛成、42 金合、63 角成、51 玉、㊢54 龍、53 銀合、43 桂、同金、41 馬、61 玉、63 龍、62 銀上、52 馬、71 玉、62 馬、同銀、72 銀、82 玉、81 銀成、同玉、93 桂、同金、91 飛、同玉、93 龍、92 歩、82 金迄 35 手。

- ㊦12 玉は 32 飛、23 玉、22 飛成、14 玉、36 角、15 玉、25 龍迄。
- ㊦43 歩合は 23 飛、31 玉、32 歩、同玉(41 玉は 43 飛成、42 金合、63 角成、51 玉、52 歩)、43 飛成、22 玉、14 桂以下。
- ㊦43 銀合は同角成、12 玉、32 飛、13 玉、22 飛成、14 玉、32 馬、15 玉、33 馬、16 玉、17 歩、同玉、28 銀、18 玉、27 龍以下。
- ㊤23 飛は 31 玉、33 飛成、32 金合で不詰。
- ㊤43 角は 12 玉、32 飛、23 玉、22 飛成、14 玉で不詰。
- ㊢73 馬は 62 銀、63 桂、61 玉、53 桂、同銀、51 桂成、71 玉で不詰。

初手 21 歩成は必然で、同玉となった局面が最初の考えどころ。23 飛は 31 玉、33 飛成、32 金合で逃れ。そうなると角打ちだが、43 角は 12 玉で詰まない。正解は 54 角と離して打つ。こうすれば 12 玉は 32 飛、23 玉、22 飛成、14 玉に 36 角と引くことができるというわけだ。

そこで玉方は中合で応戦する。43 銀合は強すぎて、同角成、12 玉、32 飛以下少々長いが㊦の順で早詰。従って取られても大丈夫な歩合か桂合となるが、一先ず保留して進めよう。

同角成は 12 玉で駄目なので、23 飛、31 玉、32 歩、41 玉、43 飛成と攻める。43 飛成に対する合駒は 63 角成～52 馬を防ぐため、あっさり金合に決まる。

63 角成、51 玉となった局面で、持駒に歩があれば 52 歩で詰み。ここで 43 の中合は桂合であることが判明される。

54 龍のソッポ引きに 3 度目の合駒が登場。ここは後の手順に備えて 62 に利かす 53 銀合が最善となる。

43 桂～41 馬が好手順で、同玉は 43 龍なので 61 玉。

63 龍に銀移動合が登場し、以下は収束。少々間延びを感じなくも

ないが、金頭桂から飛捨てが入って無難なまとめだろう。

初形で11にいた玉が、1段目のマスを含めて通り、91で詰む。その道程で43桂の中合をはじめ、移動合を含めて4度の合駒が印象に残る作品である。

【解答者コメント】

「54 龍とその前後に感動した」

「54 龍、41 馬などみどころ満載！もう少しで7種合もできそう。」

「中合あり、そっぽ竜あり、難解でした。」

「玉の大横断。手順もよく、楽しめました。」

第 89 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲ 持駒
									二
									三 香
				飛			皇	争	四
							角	銀	五
				争	飛			群	六
		角		群		金		王	七
								弓	八
				爵		歩		香	九

divD 作 No.2363『大駒の大立ち回り』

27 金、同玉、29 香、①28 桂成、36 角、16 玉、18 角、⊕26 歩合、
 ④45 角、⊙19 成桂、ⓑ26 飛、17 玉、16 飛、同玉、17 歩、同玉、
 44 角、16 玉、34 角、15 玉、55 飛、35 歩合、同飛、25 歩合、
 16 歩、同玉、36 飛、15 玉、16 飛、同玉、17 歩、15 玉、
 26 角、同歩、16 歩迄 35 手。

- ④同とは 26 飛、37 玉、59 角、48 歩合、46 銀迄。
- ①28 歩合は 36 角、37 玉、59 角、46 玉、47 銀、35 玉、24 銀迄。
- ②26 桂合は 45 角、19 成桂、26 飛、17 玉、16 飛、同玉、17 歩、同玉、44 角、16 玉、56 飛、15 玉、27 桂、同香成、16 歩、24 玉、27 香、25 歩合、同香、同玉、26 飛迄。
- ③17 桂合は同香、同玉、26 銀、16 玉、17 銀、同玉、18 歩、同成桂、44 角、26 歩合、同角、同香、14 飛、16 歩合、同飛、同玉、26 飛以下。
- ⑤18 香合は同香、同成桂、27 角、15 玉、45 飛、25 香合、16 香迄。
- ⑥同飛は同香、36 角、17 桂合で不詰。
- ⑦27 角は 15 玉、45 飛、25 香合で打歩詰。

攻方に 4 枚の大駒が配置されており、派手な展開が期待される。

初手 16 飛は 28 玉、18 飛、39 玉、38 金、49 玉で逃れ。ここは 27 金から入るのが筋。

同玉に 29 香が好手。同とは 26 飛、37 玉、59 角。28 歩合も 36 角、37 玉、59 角以下詰み。そこで 28 桂成の移動合で 16 の地点を開け、36 角に 16 玉と逃げるのがうまい受けとなる。

18 角と駒を稼ぎつつ開き王手。対する②の合駒は歩合か桂合か簡単には決まらないが、どちらも同様に進むので、ここは一先ず保留しておこう。

更に 45 角と連続で開き王手を行う。これは当然ながら限定移動。このあたりの角の動きは面白い。対する合駒の変化④は読まされるが、結局 19 成桂と根元の香を取るのが最善。

26 飛に同香は 17 歩で簡単なので 17 玉。この局面で 26 飛が邪魔駒となっており、16 飛～17 歩と原型消去するのが好手順。これにより、44 角と遠く離れて遊んでいた角を世に出すことができる。

16 玉となった局面で、漸く保留していた②の合駒が判明される。持駒が桂なら 56 飛、15 玉、27 桂、同香成、16 歩、24 玉、27 香以下駒余りの詰み。従って②は歩合が正解であった。

持駒が歩では 56 飛は 15 玉で続かないので、34 角と出る。15 玉で打歩詰の局面だが、55 飛が継続手段。25 歩合は 16 歩、同玉、25 角

以下。25 桂合も 16 歩、同玉、56 飛、15 玉、26 角以下駒余りで詰み。そこで 35 歩合～25 歩合の二連合が登場する。35 歩の中合で角筋を遮ろうというわけである。

しかし 36 飛～16 飛と邪魔になった飛を鮮やかに消去し、17 歩、15 玉に 26 角が決め手で突歩詰となる。

「先打突歩詰」と呼ばれる手筋で、打歩詰の局面から、盤上に歩を置いて見事に突歩詰に持ち込むことに成功した。それにしても、最後に歩を突いて詰ます感触は最高に気持ち良いものだ。

尚、作者が序を追加して不動駒を減らした改作図を Twitter で発表されているので、掲載しておく。

(改作図)

										▲ 持駒なし
										一
										二
										三
				飛		飛	皇	歩	香	四
				歩	銀		角	銀	玉	五
					王		金	桂	馬	六
			角				皇			七
				歩					馬	八
				香		歩		香		九
9	8	7	6	5	4	3	2	1		

36 飛、47 玉、56 銀、同歩、46 飛、37 玉、27 金、同玉で発表図 3 手目に合流。

【解答者コメント】

「空き王手、中合、打ち歩詰回避と手筋の応酬(。-▽-)」

「この手順で先打突歩詰、傑作！！星 5 つ」

「作者名はすぐわかったが、作意はなかなかわからなかった。」

「感動するレベル」

第90番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			驥	王			馬	將	▲持駒
			雀				歩		角
							飛		
			歩		金		歩	金	
				桂	香		將		

佐口盛人 作 No.2540『大駒決死の守り』

42角、41玉、31角成、同玉、22飛成、同銀、32歩、41玉、
 53金、①44角合、同香、43飛合、31歩成、同玉、43桂生、32玉、
 35飛、33桂、31桂成、②同銀、23歩成、21玉、32角、③同銀、
 同と、同玉、43香成、21玉、22銀、同玉、33成香、11玉、
 22成香、同玉、25飛、33玉、42銀、34玉、24金、44玉、
 36桂迄41手。

- ①43金合は同香生、32玉、23金打以下。
- ①43飛合は31歩成、同銀、43香生、42歩合、同香成、同銀、同金、
 同玉、43飛、52玉、53歩、同馬、63銀、51玉、53飛成、41玉、23
 角、32歩合、同角成、同玉、43桂成、22玉、23歩生以下。
- ①44桂合は同香、43飛合、33桂、同桂、43香生、32玉、42飛、21玉、
 22飛成以下。
- ②同玉は33飛成、同銀、42角、21玉、13桂、11玉、33角成以下。
- ③11玉は12と、同玉、13金、11玉、21角成、同玉、25飛以下。

まず42角～31角成は必然手ながら味の良い序章。
 22飛成と切って32歩を据え、53金の開き王手。大道棋を彷彿とさ

せる形だ。単に 32 玉と逃げるのは当然 43 桂成。そこで中合が登場することになる。さて何合か、順番に読んでいこう。

まず最も平凡な 43 歩合は 42 金～43 桂成で簡単。かといって 42 金を防ぐ 43 金合も同香生と取り、32 玉に 23 金打から精算して詰む。そうすると残された手段は 43 飛合だ(参考図)。

(参考図は43飛合迄)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			馬	王	馬				▲持駒なし
			馬			歩	馬		二
				金	銀				三
			歩				歩	金	四
				桂	香		馬		五
									六
									七
									八
									九

参考図から同香生は 32 玉、35 飛に 33 桂の移動合で 21 から脱出されてしまい逃れ。ここは 31 歩成が軽手で、同玉は 43 桂生、32 玉、31 桂成、同龍、43 香成で詰むので同銀。それから 43 香生とすれば、32 玉は 23 金で詰む。その代償で銀が 31 に移動したので 42 歩合があるが、同香成、同銀、同金、同玉、43 飛、52 玉、53 歩、同馬、63 銀、51 玉、53 飛成以下、少々長いが詰み(変化①)。

しかし、この順には複数の詰まし方があるので、変化であることがわかる。玉方には更なる妙防が用意されていたのだ。

43 飛合の局面(参考図)に戻る。ここから 31 歩成に同玉は 43 桂生、32 玉、31 桂成、同龍、43 香成で詰むと解説した。しかし、45 香が 44 に居ればどうだろう。そう、31 桂成に対し 33 玉と逃げられ、32 飛、44 玉で詰まないのだ。つまり、43 飛合の前に 44 への中合が成立するというわけだ。

44 歩合など前に利く合駒では同香、43 飛合の局面で 42 に打って

簡単。44 桂合も同香、43 飛合に 33 桂が好手で、同桂、43 香生、32 玉、42 飛、21 玉、22 飛成以下詰み。よって 44 角合が最善。なんと、この狭い空間で角・飛の大駒二段中合という大技が現れるのである。

以下は長いまとめ。31 歩成、同玉、43 桂生、32 玉となった局面で、35 飛が上部を押さえる肝要な一手。33 桂の移動合で粘るが、31 桂成、同銀、23 歩成、21 玉、32 角、同銀、同と、同玉、43 香成 以下収束に入る。途中、32 角に対し⊙11 玉はなかなかの好変化だ。

収束は最終 4 手の変同もあり、もたついた感は否めないが、よく収束用の駒を置かずに枰内でまとめたというべきだろう。大駒二段中合を成立させるだけでかなりの創作難易度であることは言うまでもなく、それを盤面の約 4 分の 1 の範囲内で実現したのは見事である。

【解答者コメント】

「大道棋的に 42 金と行くかと思いきや。銀を取る展開も意外で好作」
 「大駒連続捨てからの連続中合い。これを傑作と呼ばずして何と言う」
 「大駒合いにびっくり仰天、収束形も予想困難ひえー」
 「収束に無駄駒なさすぎすご」

第 91 番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					⊙	⊙	⊙	王	▲持駒
			飛	角		と	⊙	皇	金
		馬	⊙		⊙			⊙	
				⊙					
						桂			
								桂	

園城寺怜@咲-Saki- 作 No.3196『金と桂馬の穴熊攻略』

21 と、㊶同玉、43 角成、㊷同銀、11 金、同玉、23 桂打、21 玉、31 桂成、同金、11 金、同玉、23 桂打、21 玉、31 桂成、同銀、11 金、同玉、23 桂生、21 玉、31 桂成、同玉、22 銀、41 玉、61 飛成、42 玉、51 龍、32 玉、31 龍、23 玉、33 龍、14 玉、13 銀成、同香、15 歩、同玉、35 龍、16 玉、25 龍、17 玉、28 馬迄 41 手。

㊶同金は 23 桂打、同銀、同桂生、22 玉、43 角成以下。

㊷32 歩合は 11 金、同玉、23 桂打、21 玉、31 桂成、同金、33 桂、同銀、11 金、22 玉(同玉は 33 馬、21 玉、22 銀、同金、同馬、同玉、23 金、11 玉、12 金、同玉、32 飛成以下)、32 馬、同金、12 金、31 玉、23 桂生、41 玉(同金は 32 歩、41 玉、63 馬、同銀、31 歩成、同玉、32 金迄)、43 香、42 金、同香成、同銀、31 金、同銀、同桂成、同玉、32 銀迄。

㊸32 銀合は 11 金、同玉、23 桂打、21 玉、31 桂成、同金、11 金、同玉、23 桂打、21 玉、31 桂成、同銀、32 馬、同銀、22 銀、同玉、23 金、11 玉、12 金、同玉、32 飛成以下。

穴熊図式の実戦型。難攻不落の堅い囲いに見えるが、これが詰んでいるのだ。

まず 21 と、同玉、43 角成と桂 2 枚を入手。㊷の変化は深く読まされるが、同銀と決まれば楽しい趣向が始まる。

隅に放り込む 11 金が好手で、同玉に 23 桂打～31 桂成と金を剥がす。そして入手した金を再度 11 金と捨て、同じ手順を繰り返し、守備駒を次々と剥がし取っていくのだ。

趣向手順を含んだ陣形図式というのは珍しいと思うが、本作の剥がし趣向は穴熊の形を生かした、穴熊ならではの趣向といえるだろう。

銀まで綺麗さっぱり剥がし、22 銀と据えれば以下は収束。やや間延びした感はあるが、詰上ががスッキリしているので悪くない。穴熊の牙城は面影もなく消え去った。

【解答者コメント】

「取って付けたような収束ですが清涼詰は良し」

「これでもか、これでもか！と穴熊攻略」

「実戦形からの金剥がし」

「収束は下段で済ませるべきだったか」

「趣向入りでよくまとめていると思う。」

第92番

										▲持駒
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

鰻屋 作 No.2183『馬作る人、飛食べる人』

34角成、22玉、44馬、12玉、45馬、22玉、55馬、12玉、
 56馬、22玉、66馬、12玉、67馬、22玉、77馬、12玉、
 19飛、14桂、67馬、22玉、66馬、12玉、56馬、22玉、
 55馬、12玉、45馬、22玉、44馬、12玉、34馬、22玉、
 33馬、12玉、23馬、同角、14飛、同角、13歩、22玉、
 34桂、32玉、42と迄43手。

遠く離れた99飛を活用したいところだが、初手19飛は17に合駒されて詰まない。

そこで初手34角成から馬鋸が始まる。馬を7段目まで引き、97飛

の利きを遮ることが目的である。67馬や77馬に対し、同飛成は92飛成で金が手に入るので簡単。

これで19飛と回ることができる。対して玉方は14桂合が最善の粘りで、同飛と取れば13歩の打歩詰が打開できない。

そこで67馬から再度馬鋸の登場。馬を消去して打歩詰を回避しようというわけである。23まで接近して遂に馬の消去が実現し、14飛以下詰み。

単純な軌道の往復馬鋸だが、目的が駒取りではないところが面白い。まず前半の鋸引きは、よくある限定打で守備駒の利きを遮る構想を、馬鋸で表現したバージョンといったところか。更に後半に打歩詰回避の邪魔駒消去を取り入れることで、見事に往復を実現している。

【解答者コメント】

「本質は打歩詰回避の馬の消去であり、その表現方法が馬ノコ。」

「駒を取らない馬鋸は珍しい」

「遊べた！馬ノコが往復するのがよい。」

「手のこんだ邪魔駒消去」

第93番

									王	一 ▲持駒
										二 飛
		争							争	三
		争							歩	四
							桂	群		五
			争	争				銀		六
	歩	飛					皇	香		七
		角	角							八
										九

12 飛、21 玉、33 桂生、31 玉、41 桂成、同玉、23 角成、51 玉、
57 飛、同金、24 馬、①61 玉、25 馬、71 玉、26 馬、81 玉、
27 馬、同桂成、83 香、71 玉、82 香成、61 玉、72 成香、51 玉、
62 成香、41 玉、52 成香、31 玉、42 成香、21 玉、32 成香、12 玉、
13 歩成、同玉、57 角、23 玉、33 金、14 玉、13 角成、同玉、
25 銀、17 成桂、14 歩、12 玉、22 金迄 45 手。

①33 歩合は同馬、61 玉、43 馬、71 玉、53 馬、81 玉、63 馬、91 玉、
11 飛成、92 玉、81 龍、93 玉、94 歩以下。

初手 12 飛と据え、33 桂生～41 桂成の二段跳ねで大駒の射程圏内に誘い出すまでが序章。

23 角成から馬追いが始まる。しかし単純に 33 馬～43 馬～53 馬の横移動では攻め駒が足りない。そこで 27 香を質駒として狙い、24 馬～25 馬～26 馬と引きながら追っていくのが面白い手順。

そうなれば中合の変化が気になるところ。まず 24 馬に対し、33 歩合は同馬、61 玉、43 馬、71 玉、53 馬、81 玉、63 馬、91 玉、11 飛成、92 玉、81 龍、93 玉、94 歩以下詰み。25 馬に 34 歩合も同様だ。しかし、26 馬のところまで 35 歩合とされると、同馬、81 玉となった時、46 金の守備が利いていて馬が身動きできず詰まない。

そこで 51 玉の局面に戻って、57 飛と捨てておくのが好手。こうしてから馬追いに入れば、26 馬に 35 歩合は同馬、81 玉、45 馬で詰む。事前に金の利きを逸らせておく絶妙の変化伏線である。

斯くして 27 香の入手に成功。83 香から成香で右辺に追い戻して収束に入る。13 歩成～57 角と金を手に入れ、13 角成捨てが決め手で小駒のみのスッキリした詰上りとなる。

左右を大往復する趣向手順に、飛捨ての変化伏線を織り込んだ力作である。

【解答者コメント】

「馬の動き、成香の動き面白い」

「飛車捨ての理由が深い」

「夕刻の散歩道。ドヴォルザークの「新世界より」が聞こえてきました。」

「9手目が分からずドハマリマシタ」

第94番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			香			飛	皇		▲持駒
						香	王		飛
	香		馬			香	香		二金
								香	二銀
									桂
				王					
	桂								

園城寺怜@咲-Saki- 作 No.2493 『Clairvoyant』

13 金、①同玉、25 桂、12 玉、④13 飛、②同桂、同桂成、同玉、
 25 桂、22 玉、31 銀、同金、33 桂成、13 玉、23 成桂、同玉、
 24 歩、同玉、25 歩、同玉、26 飛、34 玉、35 金、33 玉、
 44 金、32 玉、43 金、41 玉、31 馬、51 玉、41 馬、62 玉、
 22 飛生、52 歩合、同馬、同金、同飛生、73 玉、74 金、同玉、
 75 金、73 玉、74 歩、63 玉、53 金迄 45 手。

①同桂(香)は 31 銀、同金、同馬、同玉、42 金、同玉、44 飛、43 歩合、
 41 飛、同玉、43 飛成以下。

②22 玉は 11 飛成、同玉、13 香、同桂、12 飛、同玉、13 桂成、同玉、
 25 桂以下。

④13 銀は同桂、同桂成、同玉、25 桂、24 玉で不詰。

④13 金は同桂、同桂成、同玉、25 桂、22 玉、31 銀、同金、同馬、同玉、42 金、同玉、44 飛、51 玉で不詰。

実戦型ながら茫洋として掴み所のない初形。こういう場合はだいたい、玉桂香の焦点の 13 が急所となる。銀は残しておかないと後で困るので 13 金が正解。同桂や同香は 31 銀、同金、同馬以下、無仕掛けに近い形になるが、豊富な持駒に物を言わせて詰む(変化④)。

同玉には 25 桂から 13 で精算。この際、13 に何を打つかが考え所。13 銀は同桂、同桂成、同玉、25 桂、24 玉で逃れ。この時に 35 に打つ銀を残しておく必要がある。また、13 金も同桂、同桂成、同玉、25 桂、22 玉、31 銀、同金、同馬、同玉、42 金、同玉、44 飛、51 玉で続かない。よって 13 飛が正解。22 玉は 11 飛成以下、⑤の順がピッタリ。

同桂、同桂成、同玉、25 桂、22 玉と進み、ここから 31 で精算しても駒が足りないようだが、31 銀、同金に 33 桂成～23 成桂と 3 段目の歩を根こそぎ剥がし取ってしまうの意表の実戦的手順。入手した歩を 24 歩・25 歩と連打し、26 飛を据えれば易くなる。

金・馬の連携で追っていき、舞台は左辺へ。62 まで追った 33 手目の局面で、普通は 22 飛成だが、52 歩合、同馬、同金、同飛、73 玉、74 金、同玉、75 金、73 玉で 74 歩が打歩詰。そこで飛生がおなじみの回避手筋。まさかこんなところで打歩詰が出てくるとは。少し嬉しい気分させられる収束であった。

まさに物量詰将棋という印象の作品だが、煩雑な変化は意外と少ない。とはいえ広い中でやりにくい手順が続き、なかなか手強い作品である。

【解答者コメント】

「撲滅作戦という名作を思い出した パラで発表してほしかった」

「こんなに絶望感を覚えた作品ばかり無いです。脱帽。」

「右辺と左辺で異なる構想に面食らいました」

「このまま実戦的に終わるのかと思いきや、まさかの不成！」

第95番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香				香					▲持駒
	角		王	皇		と			二
									三 金香歩九
								と	四
									五
								角	六
									七
									八
									九

かんかんのう 作 No.3241 『ヘンゼルとグレーテル』

63歩、①53玉、54歩、44玉、45歩、35玉、36歩、同玉、37金、45玉、46金、54玉、55金、63玉、64金、72玉、73金、61玉、62歩、同金、同金、同玉、63歩、53玉、54歩、44玉、45歩、35玉、36歩、同玉、37金、45玉、46金、54玉、55金、63玉、64金、62玉、63香、72玉、73金、81玉、91角成、同玉、82金打迄45手。

①同玉は64金で作意省略。

まずは63歩、54歩、45歩…と、歩を階段状に連打していく。63歩に対し、同玉は64金で作意省略。54歩に同玉も同じく55金で省略する。36歩は同玉と取るしかなく、37金から金で下段に追い戻す。特にどうということのないありふれた趣向であり、これだけでは新作とはいえない。

しかし本作はもう一山ある。62で精算した後、63歩、54歩…と、もう一度同じ往復手順を繰り返すのだ。これほどまで簡潔に二往復が成立するとは見事である。

収束は短くバツサリまとめた印象。16角やと金2枚が取り残されるの

が気になるが、使用駒数の少なさにこだわった結果だろう。

【解答者コメント】

「と金が残ってるのが残念。もっと伸ばせる」
 「二度もパンくずを目印に帰ってくるお話しですね」
 「二往復したのは立派。」
 「簡単な配置での2往復は素晴らしいですね」
 「二度の大脱走♪存分に味わいました。」

第96番

										一 ▲
銀	皇							王		二 持駒
銀	飛									三 角
										四 桂
			王							五 香
角										六 一
			桂		桂	桂	王			七
		金			香	銀		香		八
										九

リヴァロ 作 No.2996 『生角の馬跳び』

77 桂、①76 玉、85 角、66 玉、84 角、Ⓜ75 歩合、同角、56 玉、
 58 香、Ⓢ57 香合、Ⓐ74 角、65 歩合、同角、46 玉、64 角、55 歩合、
 同角、36 玉、54 角、45 歩合、同角、26 玉、44 角、15 玉、
 16 歩、同玉、27 銀、同銀成、34 角、15 玉、Ⓑ16 香、24 玉、
 23 角成、同と、25 歩、34 玉、35 歩、44 玉、45 歩、54 玉、
 57 香、同銀成、55 歩、64 玉、65 歩、74 玉、75 香迄 47 手。

①66 玉は 84 角、75 歩合、同角以下作意 2 手省略。

- ㊦56 玉は 58 香、57 合、74 角、46 玉、73 角成、36 玉、63 馬、26 玉、53 馬、15 玉、16 香以下。
- ㊦57 歩合は 74 角、65 歩合、同角、46 玉、64 角、55 香合、同角、36 玉、54 角、45 歩合、同角、26 玉、44 角、15 玉、16 歩、同玉、27 銀、同銀成、34 角、15 玉で、16 歩でも 16 香でも詰む。
- ㊦A 同香は 46 玉、64 角、57 玉で不詰。
- ㊦B 16 歩は 24 玉、23 角成、同と、25 歩、13 玉で不詰。

77 桂～85 角の導入を経て、84 角は限定打。これに対し、普通に 57 玉と逃げると 58 香、57 合、74 角、46 玉、73 角成以下㊦の順で詰み。そこで 75 歩の捨合が馬を作らせない好防となる。

74 角～64 角～54 角…と、2 枚角で追っていく趣向手順が繰り広げられる。その際、常に成を防ぐための捨合が必要であり、4 手サイクルで追う展開となる。

途中、9 手目 58 香に対する合駒は歩合が自然だが、そうすると 64 角に対して歩合が出来ない(変化㊦)。そこで 57 香合とし、歩合の余地を残しておくのがうまい受け。二歩禁回避の香先香歩玉方応用である。

2 筋まで追い、44 角には捨合は成立せず、以下はまとめ。27・23 で歩を補充し、25 歩から手持ちの大量の歩を連打して詰み。安易ではあるが、これも趣向の一環として見れば悪くないまとめ方だ。

作者はスマホ詰パラでは珍しく、中・長編の趣向作を得意とされている。その中でも本作は成を防ぐ捨合入りの趣向が面白く、出色の力作だと思う。

【解答者コメント】

- 「ユニークかつ難解！作者の執念を感じる。」
- 「着想が素晴らしいし、実現しているのも凄い!!」
- 「歩が最初に持ち駒にないのが神がかっている」
- 「成を防ぐ合駒のラッシュ。傑作星 5 つ」

第 97 番

								銀		一 ▲持駒なし
									香	二
	銀	飛	桂	香	桂	銀				三
				香			香			四
		飛	銀	金		金				五
王	角		金							六
桂		金								七
	桂									八
角										九

パースファインダー 作 No.2397 『歩なし成駒なし無防備煙詰』

95 飛、同玉、94 銀成、96 玉、95 成銀、97 玉、96 成銀、同玉、
 87 角、同玉、83 飛成、78 玉、88 龍、67 玉、76 銀、同玉、
 66 金、同玉、77 龍、55 玉、66 龍、54 玉、44 金、同玉、
 55 龍、43 玉、42 銀成、同玉、41 桂左成、43 玉、42 成桂、同玉、
 41 桂成、43 玉、42 成桂、同玉、32 銀成、43 玉、33 成銀、同玉、
 44 龍、32 玉、22 香成、同玉、33 龍、12 玉、22 龍迄 47 手。

初形に成駒のない歩なし無防備煙詰である。スマホ詰パラでこのよ
 うな高度な条件作が発表されたことは、当時としては衝撃的であった。

それでは手順を見ていこう。63 飛を活用したいところだが、そのため
 には 83 銀が邪魔駒。そこでまず 95 飛と捨て、同玉に 94 銀成から押し
 売りで消去するのが味の良い序章。玉方はなかなか取ってくれず、
 背後から成銀で追いかけていくのが面白い。

87 角と捨て、83 飛成から遂に龍が出動。88 龍から龍と角の連携で、
 金銀を捨てながら一気に右上方面に追い上げる。有名な『図巧』の煙
 詰でもおなじみの斜め追い趣向だ。

43 まで追い、27 手目 42 銀成からの数手は軽快な捌き。桂 2 枚を
 消去するあたりは小気味良い感触が味わえる。

34 桂、23 玉、22 桂成、同玉、34 角、25 桂、12 角成、㊦32 玉、
38 飛、㊧37 桂成、㊨34 香、33 馬、同香成、同玉、37 飛、42 玉、
43 歩成、㊩51 玉、63 桂、同金、52 金、同飛、同と、同玉、
32 飛成、㊪42 歩合、34 馬、62 玉、61 飛、73 玉、63 飛成、同玉、
45 馬、73 玉、51 角、㊫83 玉、㊬33 龍、㊭43 歩、同龍、同香、
72 馬、92 玉、93 歩、同玉、84 角成、同香、94 金、92 玉、
83 金、91 玉、82 馬迄 51 手。

- ㊦33 玉は 38 飛、同と、35 香、44 玉、34 馬、55 玉、56 金迄。
- ㊧同とは 34 香、33 馬、同香成、同玉、24 角、同玉、34 金迄。
- ㊨同玉は 34 馬、53 玉、54 金、42 玉、24 角以下。
- ㊩42 香(金銀)合は 34 馬、62 玉、61 飛、73 玉、63 飛成、同玉、45 馬、
73 玉、51 角、83 玉、84 金、92 玉、42 龍以下。
- ㊪桂合は 34 馬、62 玉、61 飛、73 玉、63 飛成、同玉、45 馬、73 玉、
43 龍以下。
- ㊫62 桂合は同角成、同玉、63 金、51 玉、43 桂、同歩、52 龍迄。
- ㊬82 玉は 42 龍、同香、72 馬で作意短略。
- ㊭43 香合は同龍、同歩、72 馬、92 玉、93 金、同玉、94 香迄。
- ㊮43 桂合は同龍、同歩、72 馬、92 玉、84 桂以下。
- ㊯同飛は 33 馬、同飛成、同玉、34 金、42 玉、43 歩成、51 玉で不詰。
- ㊰84 金は 92 玉、42 龍、同香、93 歩、91 玉、73 角成、82 香打で不詰。

かなり大掛かりで難解作の匂いが漂う初形。

26 桂がいかにも邪魔駒なので、まず 34 桂～22 桂成と消去するのは分かりやすいだろう。

34 角の開き王手に対し、28 成香や安易な合駒では 12 角成で簡単。そこで 25 桂の移動中合が逃げ道を開ける好防。

同飛と取れば 33 玉から上部に脱出されて駄目なので、12 角成～38 飛と成香を奪う。これに対し、同とは 34 香、33 馬、同香成、同玉、24 角、同玉、34 金で詰み。33 馬も同飛成、同玉、24 角で同様だ。そこで前述の順に備え、37 桂成と 2 度目の移動中合が登場する。初形

で33にいた桂が、移動中合で二段跳ね。この大技が、シンプルな退路開けの原理で見事に実現されている。

主題が終わって以下はまとめかと思いきや、実はここからが長い道のりである。

37桂成の移動中合をすぐに同飛と取るのは、33馬、同飛成、同玉、34金、42玉、43歩成、51玉で続かない。ここは一旦34香と打ち、33馬の移動合を取ったところで37飛とするのが手順の妙。

42玉に43歩成が軽手。同玉は34馬以下⊙の順で詰むので51玉に、金頭桂から52で精算して途中図。

(途中図は24手目52同玉迄)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲持駒	皇				皇				群	一
馬				玉					馬	二
飛			争							三
角			争							四
	争	マ								五
	争		桂							六
						飛				七
					マ					八
									香	九

途中図からは暫く強引な手順が続き、変化を読んでいるような煩わしい気分させられる。その中で合駒で発生した42歩が移動合で動くあたりがちょっとした見所。変化⊖及び⊙をご覧の通り、歩以外の駒は渡せないわけだ。

ここを乗り越えればいよいよ収束。俗手が続いた後の72馬の飛び込みが気分を晴らしてくれる。最後は84角成捨てが決め手で、綺麗にまとまった。

正に1局で2局分解いたようなボリュームであり、作者の読みの力が発揮された力作である。しかし、後半が長すぎて狙いがぼやけてしまった感は否めず、もう少し短くまとめる案もあったかもしれない。

【解答者コメント】

「山が三つぐらいありました。次々に景色が変わる楽しさがあった。」

「序盤から目玉多いのに緩みない収束がいい」

「桂馬の二段跳ね中合が凄すぎる…収束の一步補充も素晴らしかったです！」

「盛り沢山の51手、堪能しました。星十個位の価値がある！」

「傑作です。二度の桂移動合い、馬歩の移動合い、収束まで見事。」

「移動合4回!!素晴らしい作品です。本アプリーの出来。傑作」

第99番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	馬			玉					▲持駒
									二
龍	金	銀				香			三
			と	と	と	と	と	金	四
歩			歩					歩	五
	歩	王				馬	馬		六
		歩	歩	金	馬				七
銀	王			馬		桂	桂		八
香								香	九

リヴァロ 作 No.3261『あの人集りから客引き』

94角、85桂合、同角、同玉、84龍、76玉、74龍、75角合、同龍、同玉、93角、85玉、84角成、96玉、95馬、同玉、87銀、85玉、84銀成、①75玉、74と、65玉、64と右、55玉、②54と右、45玉、44と右、35玉、34と右、25玉、17桂、③同銀成、26歩、同金、24と、35玉、27桂、④同金、36歩、⑤同銀成、34と左、45玉、46歩、同成銀、44と左、55玉、56歩、同成銀、54と左、65玉、66歩、同成銀、64と左、75玉、76歩、同成銀、74成銀、85玉、96銀、94玉、95銀、同馬、84成銀迄63手。

- ①同馬は同金、同玉、85歩、83玉、75桂以下。
- ②同銀生は24と、35玉、34と左、45玉、46歩、同金、44と右、35玉、27桂迄。
- ③同成銀は34と左、45玉、44と左、55玉、56歩、同銀生、54と右、45玉、44と右、35玉、34と右、25玉、24金、15玉、26桂、同玉、36金迄。
- ④同銀生は34と左、45玉、46歩、同龍、44と左、55玉、54と左、65玉、64と左、75玉、76歩、同龍、74成銀、85玉、96銀、94玉、95銀、同馬、84成銀迄。
- ⑤56歩は同銀生、54と左、65玉で打歩詰。

4段目に並んだと金の配置から、知恵の輪趣向が予想される初形。初手94角には桂合しかできない(他合は売り切れ)。数手進んで74龍にも角合しかなく、入手した角を駆使して96歩を奪い、87銀の開き王手までが序章。

19手目84銀成に対し、同馬は同金、同玉、85歩、83玉、75桂以下詰むので75玉。いよいよと金送りの知恵の輪趣向が始まる。

(途中1図は24手目55玉迄)

										▲持駒
										桂
										二歩
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

5筋まで送った途中1図で、56歩は同銀成なら54と左、65玉、66歩、同成銀、64と左以下詰むが、同銀生と応じられると、54と左、65

玉で66歩の打歩詰が打開できない。ここは歩を打たずに知恵の輪を続行する。

2筋まで送って折り返しとなるが、ただ単に折り返すだけでは何をやっているのか分からない。持駒の桂歩を巧みに使って局面を打開していく。

31手目17桂捨てに対し、同銀生は㊤の順で27桂が打てるので同銀成。

26歩、同金、24と、35玉と進み、27桂が好手。同成銀で一見意味がないようだが、㊤の順で詰み。この変化で19香の配置が生きてくる。

よって同金に、36歩以下数手進んで途中2図。

(途中2図は46手目55玉迄)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	皇			皇						持駒
▲										歩
▲	金						香			三
▲	全	と	と			と	と	と	金	四
▲				玉					歩	五
▲	争					争				六
▲	銀	争	争	金			争	争		七
▲		争			謀		桂	桂		八
▲	香								香	九

途中1図(前ページ)で56歩は同銀生で失敗したが、途中2図では既に成銀になっているので、生で取ることができない。一連の手順によって成らせに成功したのである。そのからくりは48龍の配置。即ち、39手目36歩を同銀生と取っても、46歩が打歩詰にならないところがポイントである(変化㊤)。

以下、成銀をお供に左辺に送り、96銀～95銀捨てが決め手で詰みとなる。全ての目的は76の地点を封鎖して96銀と出ることであった。

1往復のみの趣向だが、成らせを含みにしたところに工夫が感じられる作品である。

【解答者コメント】

「この銀をここまで持って来るのか…」

「序盤、折り返しが難しい」

「と金のベルトコンベア ♪」

第100番

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲持駒
									二 銀
									三
									四
					皇	皇	争	争	五
						王			六
									七
		皇		と	歩				八
争	争	争	争	争	争	争	飛	歩	九
飛			銀		香		歩	角	

osumo3 作 No.3100 『最後には香車も食べる』

38 飛、①27 玉、28 飛、36 玉、37 歩、同玉、48 飛、ⓐ28 銀合、
 38 銀、26 玉、27 銀、37 玉、38 飛、27 玉、28 飛、36 玉、
 37 歩、同玉、58 飛、28 銀合、38 銀、26 玉、27 銀、37 玉、
 38 飛、27 玉、28 飛、36 玉、37 歩、同玉、68 飛、28 銀合、
 38 銀、26 玉、27 銀、37 玉、38 飛、27 玉、28 飛、36 玉、
 37 歩、同玉、78 飛、28 銀合、38 銀、26 玉、27 銀、37 玉、
 38 飛、27 玉、28 飛、36 玉、37 歩、同玉、88 飛、28 銀合、
 38 銀、26 玉、27 銀、37 玉、38 飛、27 玉、28 飛、36 玉、
 37 歩、同玉、98 飛寄、ⓑ36 玉、38 飛、ⓒ26 玉、17 銀、27 玉、
 28 飛、36 玉、37 歩、同玉、25 飛、38 玉、39 歩、同玉、
 28 角、49 玉、58 銀、48 玉、49 飛、38 玉、35 飛、27 玉、
 37 飛、18 玉、19 香迄 91 手。

- ①26 玉は 17 銀、27 玉、28 飛、36 玉、37 歩、同玉、25 飛、38 玉、39 歩、同玉、28 角、38 玉、35 飛以下。
- ②26 玉は 17 銀、27 玉、28 飛、36 玉、37 歩、同玉、25 飛、38 玉、39 歩、同玉、28 角、49 玉、58 銀、48 玉、49 飛、38 玉、35 飛、27 玉、37 飛、18 玉、19 香迄。
- ③27 玉は 28 飛、36 玉、37 歩、同玉で作意省略。
- ④28 香合は 38 銀、26 玉、27 銀、37 玉、38 飛、27 玉、28 飛、36 玉、37 歩、同玉、38 香迄。
- ⑤36 玉は 37 歩、27 玉、28 飛、37 玉で作意省略。
- ⑥28 銀合は 38 銀、26 玉、27 銀、37 玉、38 飛、27 玉、28 飛、36 玉、96 飛、66 歩合、同飛、同角成、37 歩、同玉、38 歩、36 玉、37 銀迄。
- ⑦27 玉は 28 飛、36 玉、96 飛以下。

8 段目に歩が並んだ配置。これを順番に剥がしていく連取り趣向が展開される。

初手 38 飛に対し、26 玉は 17 銀、27 玉、28 飛、36 玉、37 歩、同玉、25 飛以下①の順で詰むので 27 玉。28 飛、36 玉、37 歩、同玉と進み、次の歩を剥がすことが出来る。

(途中 1 図は 7 手目 48 飛迄)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										▲ 持駒
										二 銀
										三 歩
						皇	皇	帝	帝	五
										六
		皇		と	歩	王				七
	帝	帝	帝	帝	帝	飛			歩	八
	飛			銀	香		歩	角		九

48歩を剥がした途中1図(前ページ)で、27玉は先程と同様28飛、36玉、37歩、同玉、58飛…の6手サイクルで進行するが、これは早い。ここは更に手数を延ばす妙防が用意されている。

28銀合がそれ。同角と取れば27玉で詰まない。従って38銀、26玉、27銀、37玉、38飛、27玉、28飛、36玉、37歩、同玉と進んで途中2図。

(途中2図は18手目37同玉迄)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲持駒
									二 銀
									三
					皇	皇	争	争	四
									五
									六
		毎		と	歩	王			七
争	争	争	争	争			飛	歩	八
飛			銀	香		歩	角		九

この局面は途中1図で27玉と逃げて、28飛、36玉、37歩、同玉と進んだ図と同一局面であり、6手長くなっているのだ。尚、途中1図で28香合は、途中2図の局面で38香と打って詰み。最も渡しても困らない合駒が銀というわけだ。

この12手サイクルの手順を繰り返し、8段目の歩を次々と剥がし取っていく。

98歩まで剥がして途中3図(次ページ)。ここで28銀合は38銀、26玉、27銀、37玉、38飛、27玉、28飛、36玉、96飛以下詰む(変化⊙)。この96飛と上がることが連取りの目的であった。

従って36玉が最善となり、38飛以下、序の変化で予習済みの収束となる。収束手順中、26歩を剥がすところに趣向の余韻を感じることができる。しかし、詰上りは消化不良な印象が残り、大駒1枚は消したかったところだ。

(途中3図は67手目98飛迄)

										▲持駒
										二銀
										三歩
										四
					皇	皇	帝	帝		五
										六
		皇		と	歩	王				七
飛									歩	八
飛			銀		香		歩	角		九

2013年までに発表された作品の中では、本作が最長手数である。銀の捨合で1サイクルの手数を延ばすところが面白く、連取り趣向の力作であった。

【解答者コメント】

- 「91手かな？どちらにせよいい趣向でしたね。楽しかったです。」
- 「つらかった！ 変態の作る問題だろ。(笑)」
- 「長すぎてスマホの電池切れた(´Д`;)」
- 「玉の三角クリーナーから雪隠香車詰め。すげえ」
- 「どれだけ凄いか理解できない凄さ」

作者別索引

※()内は解説ページ

【あ行】

アキラ 34(123)
あひるのむこう 17(83)
天ヶ瀬朔也 25(99)
天の川 18(84),26(102),39(136),43(148)
市原誠 16(80)
鰻屋 25(101),32(116),51(175)
大橋宗角 48(163)
園城寺怜@咲-Saki- 10(66),51(173),52(178)

【か行】

がもうの 19(87),22(94)
烏丸♪ 33(120)
かんかんのう 13(72),20(89),41(141),48(162),53(180)
黄色 18(85)
木村隆 11(69),46(155),49(166),54(184)
//キング// 14(76),17(82)
幻想咲花 6(59),9(65),12(70),26(103),33(121),44(150)

【さ行】

佐口盛人 50(171)
下谷曲希 14(75),40(140)
須藤大輔 6(58)
世阿弥 31(115),35(127),46(157)

【た行】

高木泰誠 36(129)
ちしゃな 23(96)

黄楊の輝き 8(63)

爪将棋 39(138)

【は行】

はじめ 7(60)

ハースファインダー 9(64),23(95),28(108),31(114),54(183)

パパス 19(86),36(128)

パリティビット 29(111)

阪神タイガース 11(68)

ブルータス 29(109)

【ま行】

もラン 24(98),44(149)

【や行】

やきのり 45(152),45(153),47(158)

【ら行】

らうーる 21(92)

リヴァロ 53(181),55(187)

【英字】

divD 12(71),37(130),50(168)

EOG 15(78),21(91),27(104),32(118),34(124)

kazemidori 7(61),8(62),10(67),15(77),16(79),20(90)

mashee99 38(135)

munetoki 41(142),42(145),43(146),49(165)

osumo3 13(73),27(105),30(112),35(125),47(159),55(190)

Redfive 52(176)

serisiu 22(93),24(97),28(107),30(113),40(139),42(144)

tan(y) 37(132)

town 38(133)

あとがき

本作品集を企画してから、約1年で漸く完成となりました。当初は半年程度で仕上げる予定でしたが、約3300局もの作品の中からピッタリ100局を選出する作業は想像以上に困難を極め、予定の倍以上の延期となってしまいました。

収録作については、なるべく同じ作者ばかりにならないように、より多くの方の作品を収録するように心掛けました。そのため、選題に漏れた好作もありますので、是非アプリの方で解いて確認していただければと思います。

それにしても、解説を執筆していて、自分の文章の下手さを痛感しました。改めて読み直してもグダグダな部分が多く、語尾に(小並感)と付けたくなるくらい内容の薄い解説となってしまいました。文の構造が不自然で読みにくい部分もあると思いますが、ご了承ください。

さて、2014年も、スマホ詰パラでは好作が立て続けに発表されています。2014年以降の作品を収録した第2弾も、機会があれば制作したいと思っていますので、よろしくお願ひします。

最後に、本作品集制作を許可くださった管理人のエモン氏に御礼申し上げます。

武島 広秋

スマホ詰パラ好作選

平成26年11月 発行

編集発行 武島 広秋